

# 藤沢市外国人市民意識調査

## 報告書

2011年（平成23年）11月

藤沢市

# 目 次

## 第1章 調査概要

1. 調査の目的	1章-1
2. 調査方法	1章-1
3. 調査項目	1章-1
4. 回収結果	1章-2
5. 集計にあたって	1章-2
6. 調査フロー図	1章-3

## 第2章 調査結果

1. 調査結果の概要	2章-1
2. 回答者の属性	2章-5
2-1 性別と年齢	2章-5
2-2 国籍	2章-5
2-3 在留資格	2章-6
2-4 就業状態	2章-7
2-5 日本での居住時期と市での居住時期	2章-8
2-6 住まいの形態	2章-9
2-7 市に住む理由	2章-10
2-8 市に住む予定	2章-11
2-9 回答者の属性についてのまとめ	2章-12
3. 日常生活について	2章-13
3-1 現在の生活環境の満足度	2章-13
3-2 よく利用する公共施設	2章-14
3-3 各種制度(健康保険、雇用保険、介護保険、年金)の認知度	2章-16
3-4 税金(納税通知書)に関する理解度	2章-17
3-5 困っていることや不安なことの内容	2章-18
3-6 困った時の相談相手	2章-20
3-7 日常生活についてのまとめ	2章-22
4. ことばについて	2章-23
4-1 普段の生活でよく使う言語	2章-23
4-2 本人の日本語習熟度	2章-24
4-3 日本語の通訳・翻訳の必要性	2章-28
4-4 日本語の通訳・翻訳が必要となる場面	2章-30
4-5 ことばについてのまとめ	2章-31

5. 情報について	2章-32
5-1 生活に必要な情報の入手方法	2章-32
5-2 市の情報の入手方法	2章-33
5-3 市の多言語による情報提供の認知度	2章-35
5-4 情報についてのまとめ	2章-37
6. 防災などについて	2章-38
6-1 防災訓練への参加状況	2章-38
6-2 避難場所の認知度	2章-39
6-3 日常的な災害への備え	2章-41
6-4 緊急時の連絡先(警察、消防)の認知度	2章-43
6-5 防災などについてのまとめ	2章-44
7. 子育てについて	2章-45
7-1 子ども(0~5歳、6~14歳)の有無	2章-45
7-2 子ども(0~5歳)の居場所	2章-46
7-3 子ども(6~14歳)の日本語習熟度	2章-47
7-4 子ども(6~14歳)の中学校卒業後の進路希望	2章-47
7-5 必要と思われる子育て支援の内容	2章-48
7-6 子育てについてのまとめ	2章-50
8. 地域活動について	2章-51
8-1 自治会や地域の活動への参加状況	2章-51
8-2 講座や活動への参加意欲	2章-52
8-3 地域主体のまちづくりへの参加意欲	2章-53
8-4 地域活動についてのまとめ	2章-54

### 第3章 自由回答

1. 自由回答の概要	3章-1
------------	------

### 参考資料(外国人市民意識調査 調査票)

# 第 1 章 調 査 概 要



# 第1章 調査概要

## 1. 調査の目的

市内の外国人登録者数は、5,763人〔2011年（平成23年）4月1日現在〕である。近年、やや減少傾向にあるものの、言葉の問題のみならず、就労や就学、健康・医療に関することや地域との関わり方等、様々な問題が行政窓口や支援団体に寄せられている。これまで、日本人市民を対象とした意識調査は行われてきたが、外国人市民を対象とする調査はごく小規模にとどまっていた。

新総合計画のめざす方向性の一つである「共に生き、共に創る地域社会の創出」に基づき、誰もが住みよい藤沢づくりの実現を図るため、当調査により、外国人市民の意見等を知り、統計的に把握することで今後の市政運営に反映させることを目的とする。

なお、当調査事業は、国の地域活性化交付金（住民生活に光をそそぐ交付金）を活用して実施するものである。

## 2. 調査方法

- (1) 調査対象 : 2011年（平成23年）5月1日現在、外国人登録原票のある満18歳以上の外国人市民全員
- (2) 調査地域 : 藤沢市全域
- (3) 配布数 : 4,964人
- (4) 調査方法 : 郵送調査法  
※調査対象者に、国籍別に分類した対応言語とやさしい日本語（平易かつルビ付き）の調査票を郵送し、対象者が回答を記入した後、郵送により回収
- (5) 調査期間 : 2011年（平成23年）6月21日（火）～2011年（平成23年）7月13日（水）
- (6) 質問数 : 36問及び自由回答欄
- (7) 実施主体 : 藤沢市経営企画部共生社会推進課
- (8) 調査委託機関 : 昭和株式会社

## 3. 調査項目

- 日常生活について : 現在の生活環境の満足度、よく利用する公共施設、各種制度（健康保険、雇用保険、介護保険、年金）の認知度、税金（納税通知書）に関する理解度、困っていることや不安なことの内容、困ったときの相談相手
- ことばについて : 普段の生活でよく使う言語、本人の日本語習熟度、日本語の通訳・翻訳の必要性（頼む相手など）、日本語の通訳・翻訳が必要となる場面
- 情報について : 生活に必要な情報の入手方法、市の情報の入手方法、市の多言語による情報提供の認知度
- 防災などについて : 防災訓練への参加状況、避難場所の認知度、日常的な災害への備え、緊急時の連絡先（警察、消防）の認知度

- 子育てについて : 子ども(0~5歳、6歳~14歳)の有無、子ども(0~5歳)の居場所、子ども(6歳~14歳)の日本語習熟度、子ども(6歳~14歳)の中学校卒業後の進路希望、必要と思われる子育て支援の内容
- 地域活動について : 自治会や地域の活動への参加状況、講座や活動への参加意欲、地域主体のまちづくりへの参加意欲
- 回答者の属性について : 性別、年齢、国籍、在留資格、就業状態、日本での居住時期、市での居住時期、住まいの形態、市に住む理由、市に住む予定

#### 4. 回収結果

調査対象数 : 4,964人

実対象者数 : 4,459人

※調査対象数から未着(宛先不明等で戻ってきたもの)を除いた数

調査票回収数 : 953人

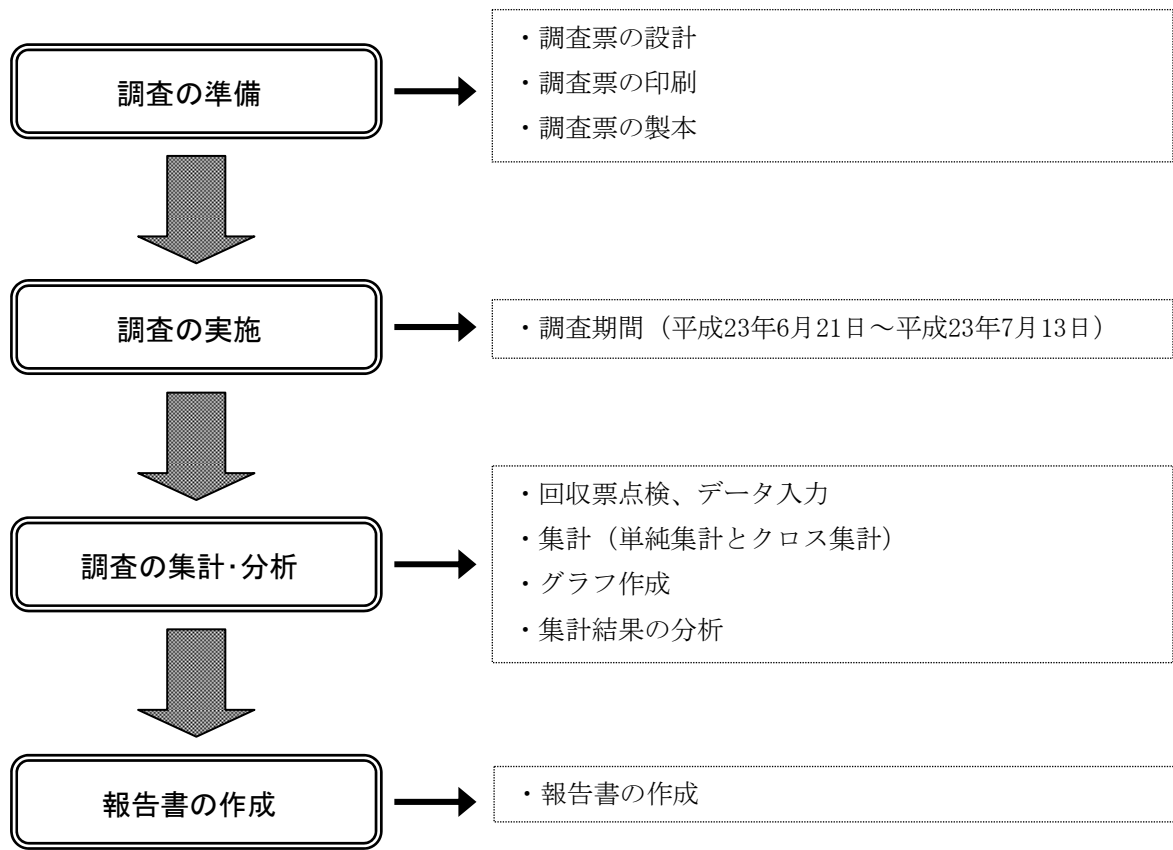
回収率 : 21.4%

	発送数	未着(返戻)	実対象者数	回収数	回収率
スペイン語	865	133	732	152	20.8%
ポルトガル語	584	77	507	112	22.1%
英語	1,505	177	1,328	269	20.3%
中国語	913	83	830	169	20.4%
ハングル	309	16	293	84	28.7%
ベトナム語	240	10	230	63	27.4%
日本語	548	9	539	104	19.3%
計	4,964	505	4,459	953	21.4%

#### 5. 集計にあたって

- ・回答の比率は、それぞれの設問の回答数を基礎としており、これを100%とした。
- ・複数回答の設問についても、クロス集計による比較が行いやすいよう回答総件数を母数とする百分比で示す。
- ・比率は全て百分比で表し、小数点第2位を四捨五入している。このため、百分比の合計が100.0%にならないことがある。また、個々の比率を合計した場合の数値と、個々の実数を合計した場合の比率を示す数値が一致しないことがある。
- ・性別や年齢、現在の生活環境の満足度など、外国人市民全体の傾向を把握する設問を除き、国籍別の特徴を把握するため、国籍別クロス集計を行うものとする。また、本人の日本語の習熟度や日本語の通訳・翻訳の必要性については、言語ごとの特徴を明確化するため、言語別クロス集計も行うものとする。さらに、困った時の相談相手や市の情報の入手方法についても、本人の会話能力や居住時期との相関関係が推測されることから、本人の日本語の習熟度別クロス集計や居住時期別クロス集計を行うものとする。

## 6. 調査フロー図





## 第2章 調 査 結 果



## 第2章 調査結果

### 1. 調査結果の概要

#### 【回答者の属性】

##### ■性別と年齢

- ・性別は、「女性」が58.7%、「男性」が41.3%となっている。
- ・年齢は、「30～39歳」が29.0%と最も多くなっている。次いで「40～49歳」の26.2%、「50～59歳」の17.3%となっている。

##### ■国籍

- ・国籍は、「韓国・朝鮮」が20.1%と最も多くなっている。次いで「中国」の17.8%、「ブラジル」の11.2%、「ペルー」の9.4%、「フィリピン」の7.9%となっている。

##### ■在留資格

- ・在留資格は、「永住者」が51.9%と最も多くなっている。次いで「日本人の配偶者など」の17.2%、「特別永住者」の11.0%となっている。

##### ■就業状態

- ・就業状態は、「会社などの正社員（フルタイム）」が23.2%と最も多く、次いで「専業主婦・専業主夫」の19.6%、「契約社員・派遣社員」の15.2%となっている。

##### ■日本での居住時期と市での居住時期

- ・日本での居住時期は、「1990～1999年」が34.8%と最も多く、次いで「2000～2009年」の34.3%、「1980～1989年」の12.0%となっている。
- ・市での居住時期は「2000～2009年」が46.8%と最も多く、次いで「1990～1999年」の26.3%、「2010年から後」の12.2%となっている。

##### ■住まいの形態

- ・住まいの形態は、「借家（民間アパート・民間賃貸マンション）」が51.6%と最も多く、次いで「持ち家（分譲マンションを含む）」の32.5%、「公営住宅（県営・市営・公団などの公営の共同住宅）」の11.0%となっている。

##### ■市に住む理由

- ・市に住む理由は、「配偶者や家族・親戚が住んでいる」が48.7%と最も多く、次いで「学校や勤務先がある」が30.2%となっている。

##### ■市に住む予定

- ・市に住む予定は、「今後とも藤沢市に住み続けるつもり」が69.2%と最も多く、「日本には住み続けるが、他市に転出するつもり」は2.9%となっている。

#### 【日常生活について】

##### ■現在の生活環境の満足度

- ・現在の生活環境の満足度は、「満足」、「だいたい満足」が多く、総合的な住みやすさは「満足」、「だいたい満足」が71.9%と多くなっている。

##### ■よく利用する公共施設

- ・よく利用する公共施設は、市民センター・公民館では「ときどき利用する」が29.8%と最も多く、市民図書館・市民図書室、スポーツ施設（秩父宮記念体育館・鵜沼運動公園・秋葉台文化体育館）では「利用したことがない」がそれぞれ36.6%、39.0%と最も多くなっている。

##### ■各種制度（健康保険、雇用保険、介護保険、年金）の認知度

- ・各種制度の認知度は、健康保険、雇用保険、年金では「どういう制度か知っている」がそれぞれ75.5%、58.9%、58.6%と最も多くなっている。一方、介護保険では「制度の内容まで知らない」が35.8%と最も多くなっている。

## ■税金（納税通知書）に関する理解度

- ・税金に関する理解度は、「外国人相談窓口や納税相談窓口（英語・スペイン語・ポルトガル語）を利用しているので、特に問題はない」が34.4%と最も多くなっている。次いで、「内容・手続きが難しく、わかりづらい」の21.4%、「税金の支払いに関するお知らせ“納税通知書”がわかりづらい」の20.2%、「税金の支払いに関するお知らせ“納税通知書”が届いても、きちんと読んでいない、または、届いたかどうか知らない」の13.4%となっている。

## ■困っていることや不安なことの内容

- ・困っていることや不安なことの内容は、「災害（地震など）が起きた時の対応」が14.2%と最も多くなっている。次いで、「日本語」の12.0%、「仕事さがし」の11.6%、「急に病気になった時の対応」の9.7%、「税金や保険料の支払い」の9.6%となっている。

## ■困った時の相談相手

- ・困った時の相談相手は、「日本に住んでいる家族・親戚」が29.5%と最も多くなっている。次いで、「日本人の友人・知人」の22.7%、「日本人以外の友人・知人」の13.6%、「会社や学校の仲間」の9.4%、「母国に住んでいる家族・親戚」の9.1%となっている。

## 【ことばについて】

### ■普段の生活でよく使う言語

- ・普段の生活でよく使う言語は、「日本語」が48.9%と最も多くなっている。次いで、「英語」の12.7%、「スペイン語」の9.3%となっている。

### ■本人の日本語習熟度

- ・本人の日本語習熟度（話すこと）は、「自分の考えをまとめて発表することができる」が42.9%と最も多くなっている。
- ・本人の日本語習熟度（聴くこと）は、「テレビのニュースやドラマがわかる」が52.7%と最も多くなっている。
- ・本人の日本語習熟度（書くこと）は、「漢字を使ってまとめた文章が書ける」が33.7%と最も多くなっている。
- ・本人の日本語習熟度（読むこと）は、「新聞や雑誌が読める」が36.1%と最も多くなっている。

### ■日本語の通訳・翻訳の必要性

- ・日本語の通訳・翻訳の必要性は、「家族」が33.5%と最も多くなっている。次いで、「通訳・翻訳を頼む必要がない」の25.6%、「友人」の21.0%となっている。

### ■日本語の通訳・翻訳が必要となる場面

- ・日本語の通訳・翻訳が必要となる場面は、「特にない」が22.4%と最も多くなっている。次いで、「手紙やお知らせが届いたとき」の21.5%、「病院へ行くとき」の19.4%、「市役所などの手続きをするとき」の19.1%となっている。

## 【情報について】

### ■生活に必要な情報の入手方法

- ・生活に必要な情報の入手方法は、「日本の新聞・雑誌・ラジオ・テレビ」が21.9%と最も多くなっている。次いで、「インターネット」の17.5%、「日本人の友人・知人」の13.2%、「家族」の12.6%、「同じ母語の友人・知人」の10.2%となっている。

### ■市の情報の入手方法

- ・市の情報の入手方法は、「広報ふじさわ」が22.2%と最も多くなっている。次いで、「家族」の17.2%、「日本人の友人・知人」の16.6%、「同じ母語の友人・知人」の10.6%、「自治会の回覧板」の10.1%となっている。

## ■市の多言語による情報提供の認知度

- ・市の多言語による情報提供の認知度は、「資源とごみの分け方・出し方」が71.5%と多くなっている。次いで、「ふじさわ生活ガイド」の58.0%、「外国の方のための多言語防災ガイド」の48.6%、「くらしの情報ガイド～休日夜間などの急患診療～」の46.3%となっている。

## 【防災などについて】

### ■防災訓練への参加状況

- ・防災訓練への参加状況は、「防災訓練があることを知らない」が40.7%と最も多くなっている。次いで、「参加したことはないが、参加してみたい」の37.4%、「一度、参加したことがある」の9.5%となっている。

### ■避難場所の認知度

- ・避難場所の認知度は、広域避難場所では「知っているし、場所もわかる」が43.2%と最も多くなっている。次いで、避難施設では「知っているし、場所もわかる」が25.1%、津波一時避難場所では16.0%、外国人避難施設では3.7%となっており、外国人避難施設の認知度が極端に低くなっている。

### ■日常的な災害への備え

- ・日常的な災害への備えは、「携帯ラジオ・懐中電灯などを準備している」が20.4%と最も多くなっている。次いで、「通帳などの貴重品をすぐに持ち出せるように準備している」の16.7%、「非常食品や飲料水を準備している」の16.2%、「緊急の時や災害が起きた時、家族との連絡方法・集まる場所を決めている」の10.1%、「災害が起きた時、避難する場所を決めている」の10.0%となっている。

### ■緊急時の連絡先（警察、消防）の認知度

- ・緊急時の連絡先（警察、消防）の認知度は、警察、消防ともに「知っている」がそれぞれ92.4%、92.3%と多くなっている。

## 【子育てについて】

### ■子ども（0～5歳、6～14歳）の有無

- ・子ども（0～5歳）の有無は、「いない」が69.4%と最も多く、次いで、「いる（保育園か幼稚園に通っている）」の16.3%、「いる（保育園や幼稚園には通っていない）」の14.3%となっている。
- ・子ども（6～14歳）の有無は、「いない」が72.0%と最も多く、次いで、「いる（日本の小学校・中学校に通っている）」の25.4%となっている。

### ■子ども（0～5歳）の居場所

- ・子ども（0～5歳）の居場所は、「自宅」が42.2%と最も多くなっている。次いで、「家の近くの公園」の30.3%、「友人の家」の12.8%となっている。

### ■子ども（6～14歳）の日本語習熟度

- ・子ども（6～14歳）の日本語習熟度は、「日本語での授業を十分理解できる」が81.9%と最も多く、次いで、「日本語での授業を受けるのは難しいが、日常生活ではあまり困らない」の8.0%となっている。

### ■子ども（6～14歳）の中学校卒業後の進路希望

- ・子ども（6～14歳）の中学校卒業後の進路希望は、「日本語に不安がなく、日本の高校に行かせたい」が72.2%と最も多く、次いで、「日本語での授業に不安があるが、日本の高校に行かせたい」の10.2%、「まだ分からない」の6.3%となっている。

### ■必要と思われる子育て支援の内容

- ・必要と思われる子育て支援の内容は、「子育てや子どもの教育について相談する場所」が17.2%と最も多くなっている。次いで、「保育園・学校などについて知るためのサポート」の15.5%、「保育園・学校などからのお知らせや書類を理解するためのサポート」の13.3%、「子どもへの母語による学習サポート」の12.7%、「保育園・学校などでの子どもの様子を知るためのサポート」の12.0%となっている。

## 【地域活動について】

### ■自治会や地域の活動への参加状況

- ・自治会や地域の活動への参加状況は、「参加したことがない」が36.0%と最も多くなっている。次いで、「ときどき参加している」の21.7%、「活動があることを知らない」の17.6%となっている。

### ■講座や活動への参加意欲

- ・講座や活動への参加意欲は、「日本語教室」が20.8%と最も多くなっている。次いで、「日本文化や伝統・習慣を学ぶこと」の18.0%、「外国人市民を支援する活動」の11.6%、「市民どうしの交流イベント」の10.3%、「藤沢市内の名所めぐり（母語による市内観光など）」の9.9%となっている。

### ■地域主体のまちづくりへの参加意欲

- ・地域主体のまちづくりへの参加意欲は、「興味があり、機会があれば参加してみたい」が43.0%と最も多くなっている。次いで、「よくわからない」の29.7%、「興味があるが、参加は難しいと思う」の22.9%、「興味がないし、参加もしたくない」の4.4%となっている。

## 2. 回答者の属性

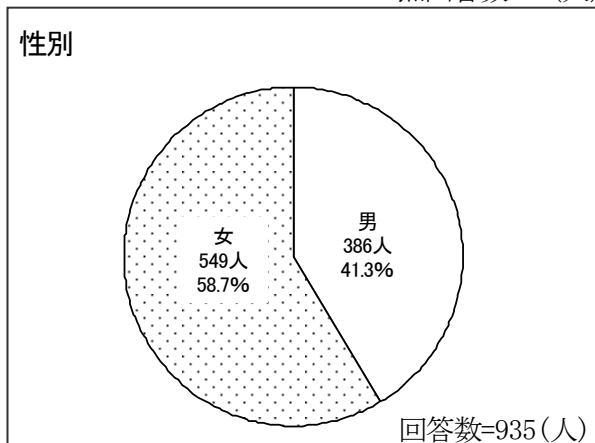
### 2-1 性別と年齢

Q26 あなたの性別は、次のどちらですか。(○は1つだけ)

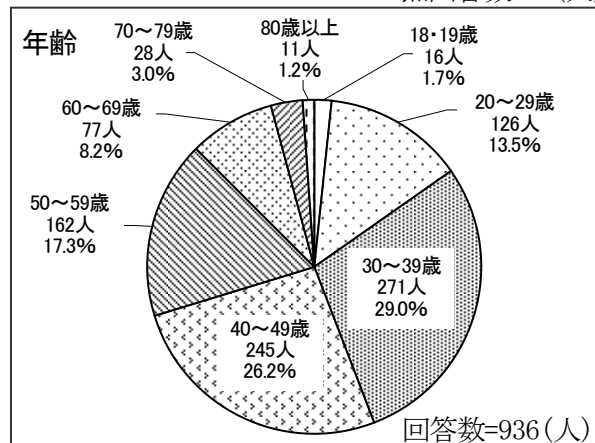
Q27 あなたの年齢は、次のどれですか。(○は1つだけ)

■ 図2-1 性別と年齢

無回答数=18(人)



無回答数=17(人)



#### <結果概要>

性別は、「女性」が58.7%、「男性」が41.3%となっている。

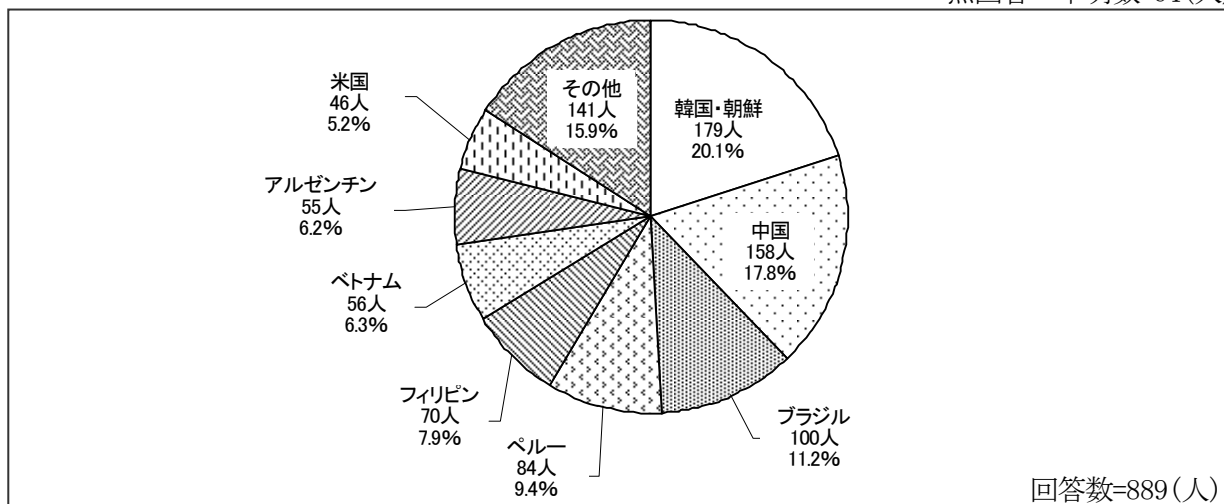
年齢は、「30～39歳」が29.0%と最も多くなっている。次いで「40～49歳」の26.2%、「50～59歳」の17.3%となっている。

### 2-2 国籍

Q28 あなたの国籍を書いてください。

■ 図2-2 国籍

無回答・不明数=64(人)



#### <結果概要>

国籍は、「韓国・朝鮮」が20.1%と最も多くなっている。次いで「中国」の17.8%、「ブラジル」の11.2%、「ペルー」の9.4%、「フィリピン」の7.9%となっている。その他として、以下の国籍が挙げられている。

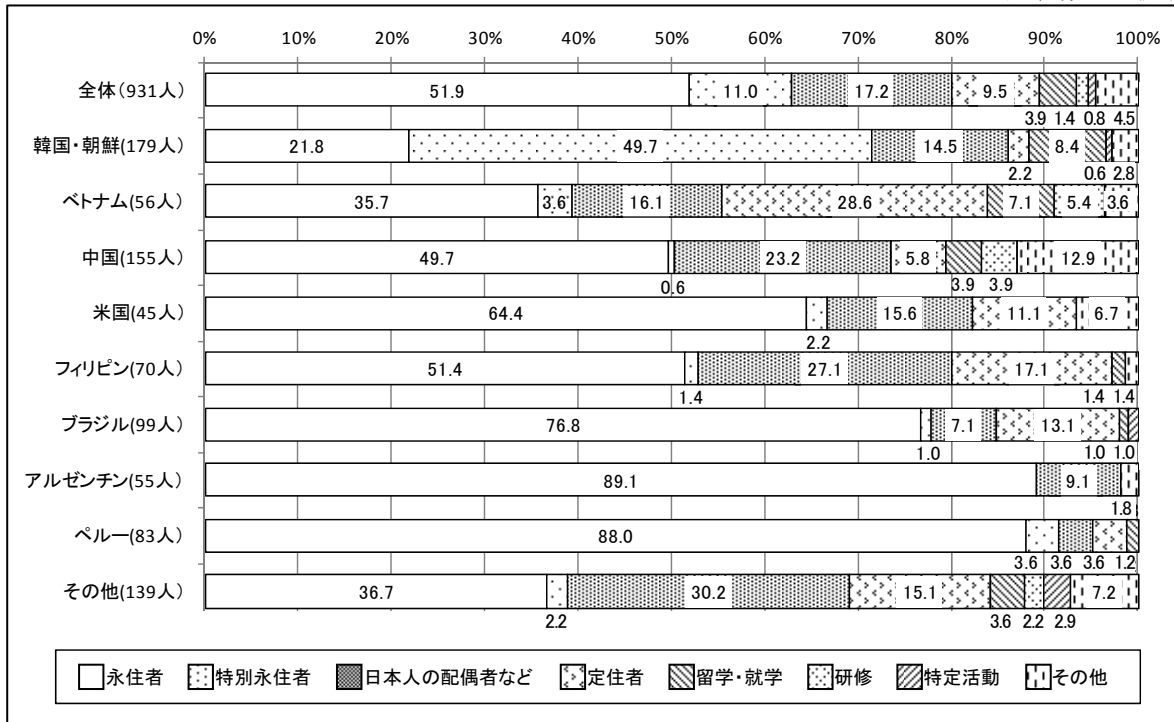
タイ (24)、インドネシア (18)、イギリス (17)、カナダ (11)、スリランカ (11)、モンゴル (7)、インド (5)、フランス (5)、ドイツ (4)、ナイジェリア (4)、バングラデシュ (4)、ラオス (4)、オーストラリア (3)、カンボジア (3)、マレーシア (3)、ロシア (3)、イタリア (2)、オーストリア (2)、アイルランド (1)、イラン (1)、オランダ (1)、コロンビア (1)、スペイン (1)、パキスタン (1)、パラグアイ (1)、ベルギー (1)、南アフリカ (1)、ミャンマー (1)、ルーマニア (1)

2-3 在留資格

Q29 あなたの在留資格はどれですか。(〇は1つだけ)

■ 図2-3 在留資格(国籍別)

無回答数=22(人)



国籍 無回答数=50(人)

<結果概要>

在留資格は、「永住者」が51.9%と最も多くなっている。次いで「日本人の配偶者など」の17.2%、「特別永住者」の11.0%となっている。

国籍別に在留資格を見ると、アルゼンチン、ペルー、ブラジル、米国では「永住者」、韓国・朝鮮では「特別永住者」が最も多くなっている。

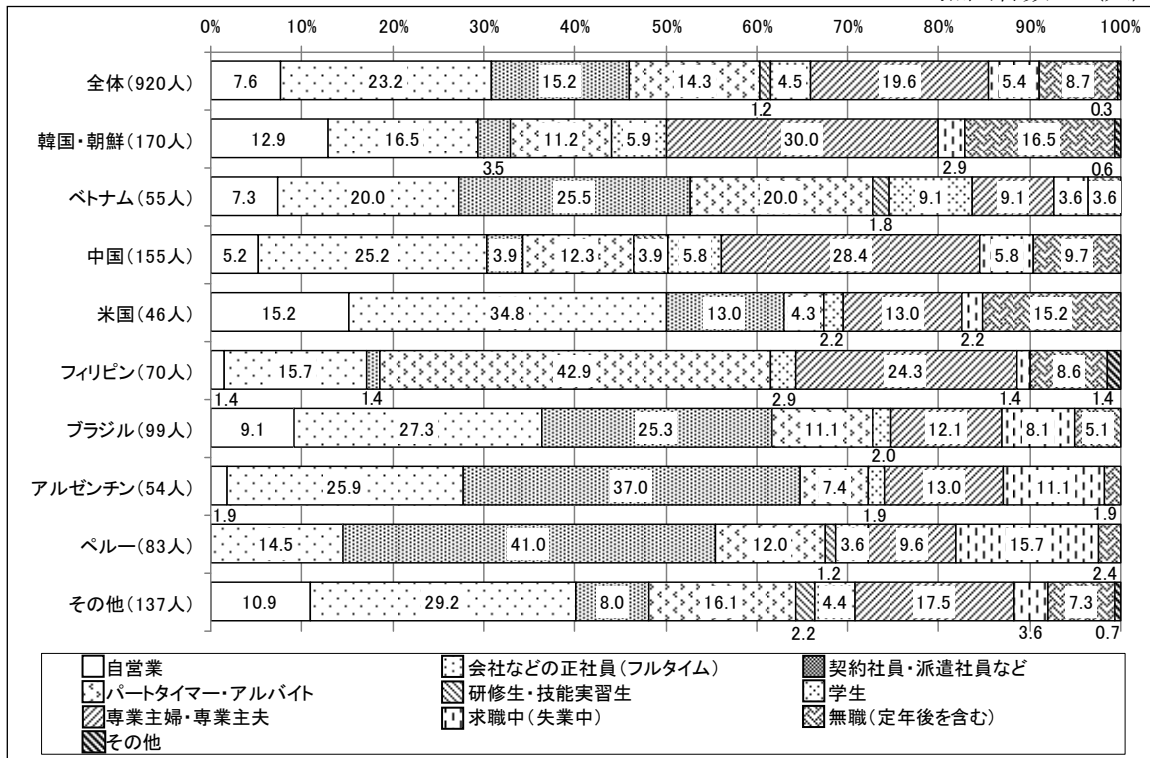


2-4 就業状態

Q30 あなたの仕事は、次のどれですか。(〇は1つだけ)

■ 図2-4 就業状態 (国籍別)

無回答数=33(人)



国籍 無回答数=51(人)

<結果概要>

就業状態は、「会社などの正社員(フルタイム)」が23.2%と最も多く、次いで「専業主婦・専業主夫」の19.6%、「契約社員・派遣社員」の15.2%となっている。また、「契約社員・派遣社員」と「パートタイマー・アルバイト」の14.3%を合わせると、29.5%が非正規雇用となっている。

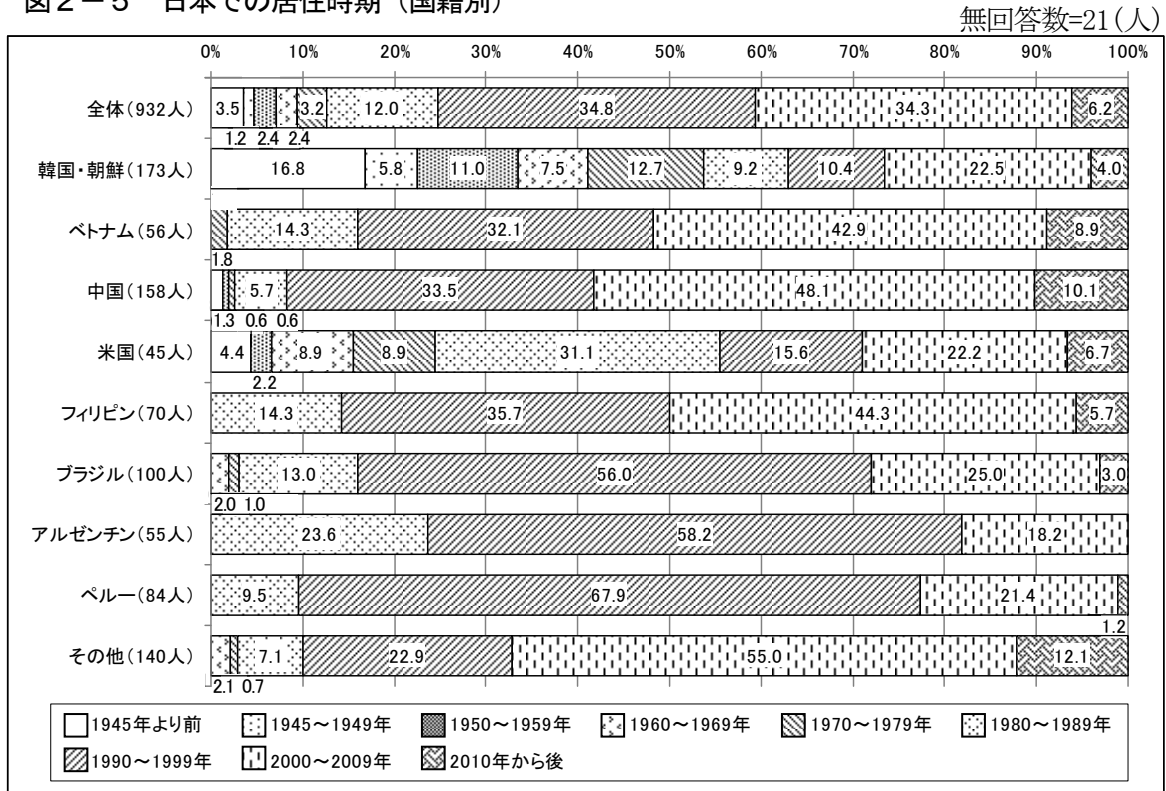
国籍別に就業状態を見ると、米国、ブラジルでは「会社などの正社員(フルタイム)」、韓国・朝鮮、中国では「専業主婦・専業主夫」、ペルー、アルゼンチン、ベトナムでは「契約社員・派遣社員」、フィリピンでは「パートタイマー・アルバイト」が最も多くなっている。

2-5 日本での居住時期と市での居住時期

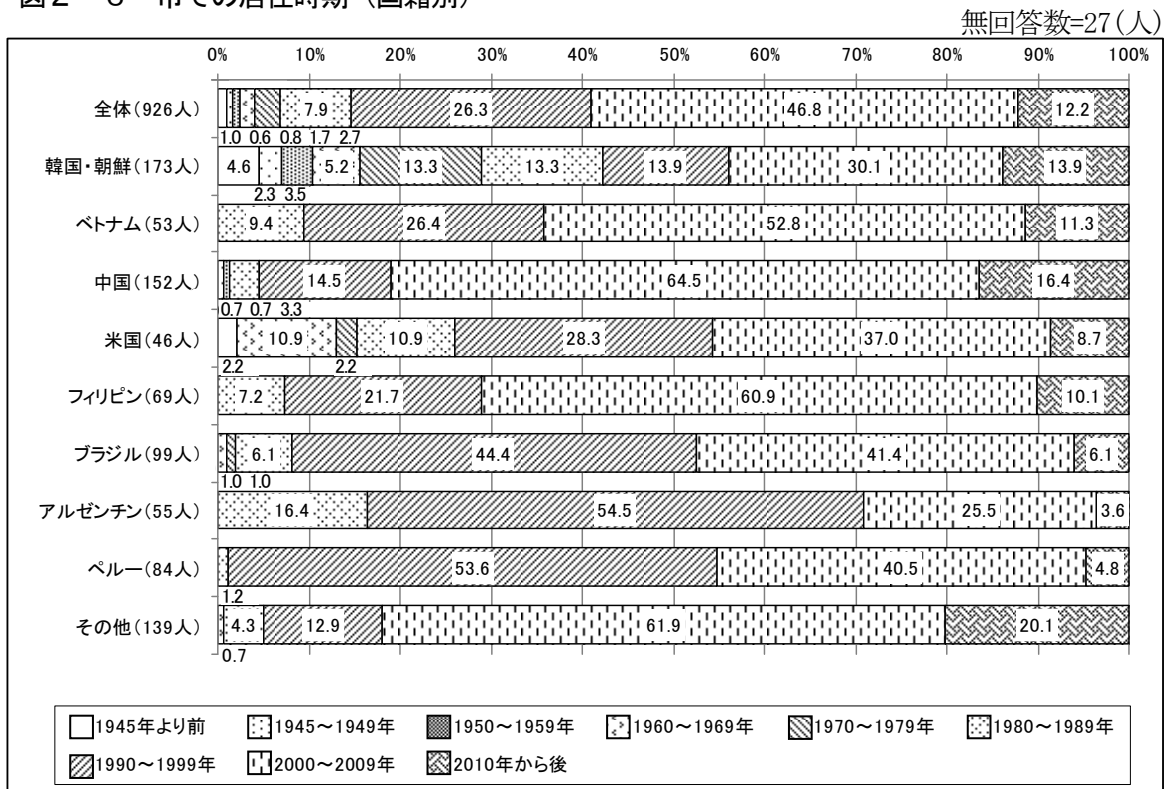
Q31 あなたは、日本にいつごろから住んでいますか。(〇は1つだけ)

Q32 あなたは、藤沢市にいつごろから住んでいますか。(〇は1つだけ)

■ 図2-5 日本での居住時期(国籍別)



■ 図2-6 市での居住時期(国籍別)



<結果概要>

日本での居住時期は、「1990～1999年」が34.8%と最も多く、次いで「2000～2009年」の34.3%、「1980～1989年」の12.0%となっている。1990年～2009年から日本に居住している人の合計は69.1%となっている。

国籍別に日本での居住時期を見ると、ペルー、アルゼンチン、ブラジルでは「1990～1999年」、中国、フィリピン、ベトナムでは「2000～2009年」が最も多くなっている。

市での居住時期は「2000～2009年」が46.8%と最も多く、次いで「1990～1999年」の26.3%、「2010年から後」の12.2%となっている。1990年から市に居住している人の合計は85.3%となっている。

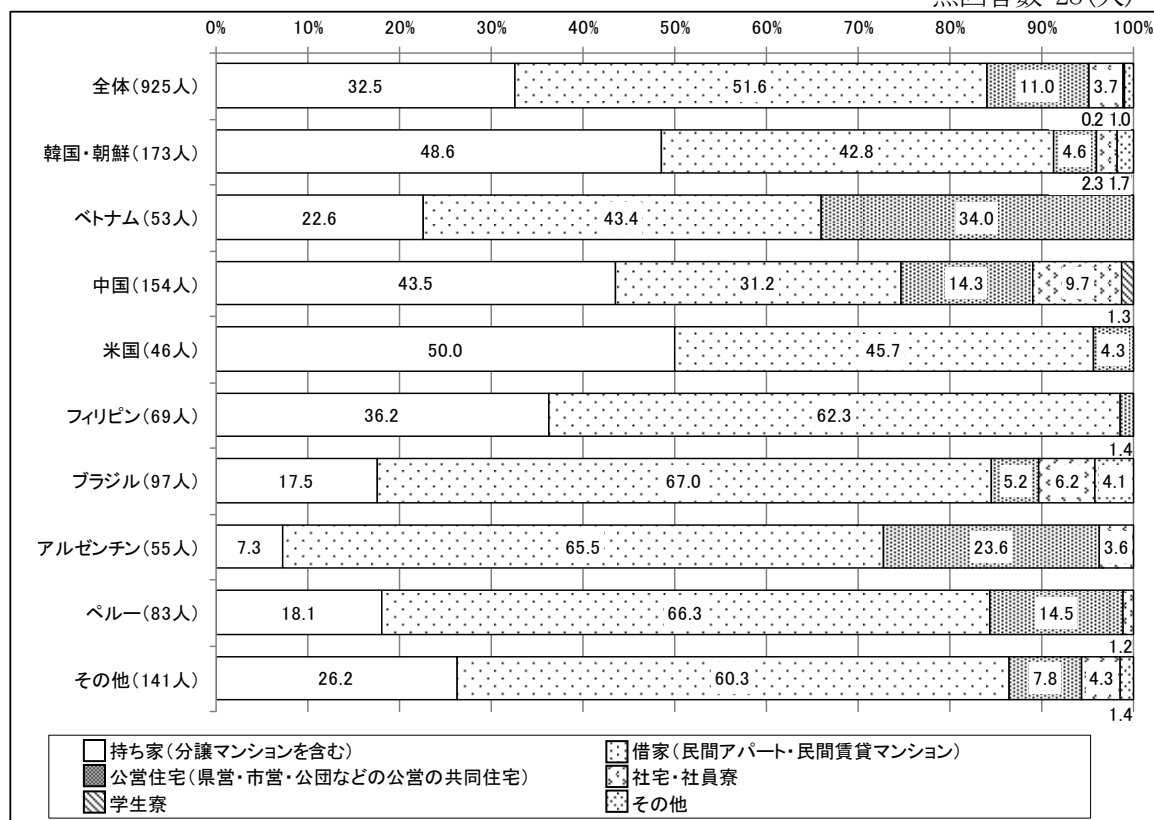
国籍別に市での居住時期を見ると、アルゼンチン、ペルー、ブラジルでは「1990～1999年」、中国、フィリピン、ベトナム、米国、韓国・朝鮮では「2000～2009年」が最も多くなっている。

2-6 住まいの形態

Q33 現在お住まいの住宅は、次のどれですか。(○は1つだけ)

■ 図2-7 住まいの形態(国籍別)

無回答数=28(人)



国籍 無回答数=54(人)

<結果概要>

住まいの形態は、「借家(民間アパート・民間賃貸マンション)」が51.6%と最も多く、次いで「持ち家(分譲マンションを含む)」の32.5%、「公営住宅(県営・市営・公団などの公営の共同住宅)」の11.0%となっている。

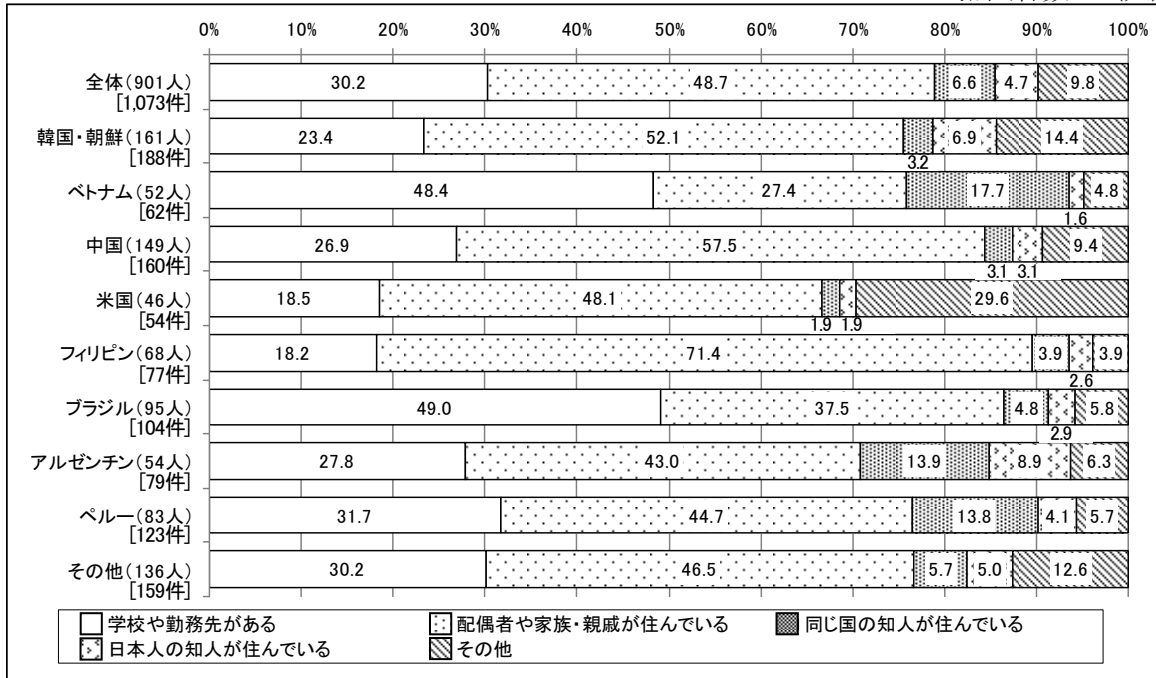
国籍別に住まいの形態を見ると、ブラジル、ペルー、アルゼンチン、フィリピンでは「借家(民間アパート・民間賃貸マンション)」、米国、韓国・朝鮮、中国では「持ち家(分譲マンションを含む)」が最も多くなっている。また、ベトナム、アルゼンチンでは「公営住宅(県営・市営・公団などの公営の共同住宅)」が比較的が多くなっている。

2-7 市に住む理由

Q34 あなたが、藤沢市に住む理由は何ですか。(〇はいくつでも)

■ 図2-8 市に住む理由(国籍別)

無回答数=52(人)



国籍 無回答数=57(人)、67(件)

<結果概要>

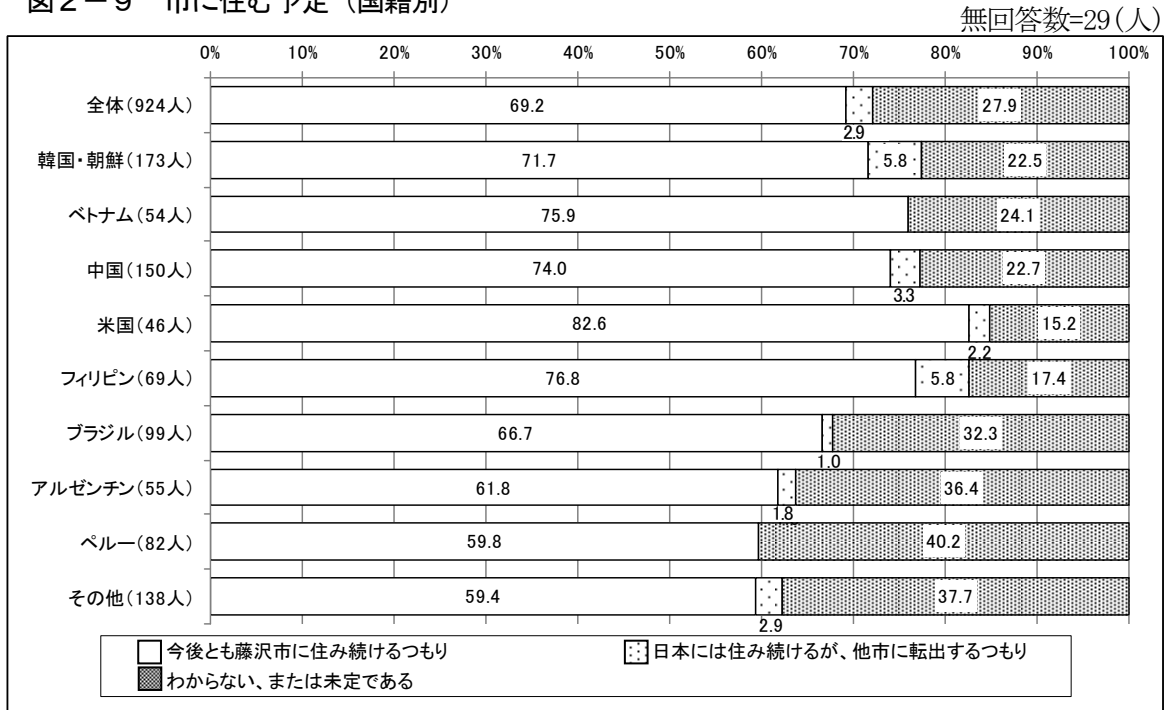
市に住む理由は、「配偶者や家族・親戚が住んでいる」が48.7%と最も多く、次いで「学校や勤務先がある」が30.2%となっている。その他として、「まちが好き」、「交通の便など利便性がよい」が多く挙げられている。

国籍別に市に住む理由を見ると、フィリピン、中国、韓国・朝鮮では「配偶者や家族・親戚が住んでいる」、ブラジル、ベトナムでは「学校や勤務先がある」が最も多くなっている。

2-8 市に住む予定

Q35 今後、藤沢市にどのくらいお住まいになる予定ですか。(〇は1つだけ)

■ 図2-9 市に住む予定(国籍別)



<結果概要>

市に住む予定は、「今後とも藤沢市に住み続けるつもり」が69.2%と最も多く、「日本には住み続けるが、他市に転出するつもり」は2.9%となっている。

国籍別に市に住む予定を見ると、全ての国籍で「今後とも藤沢市に住み続けるつもり」が最も多く、米国では「今後とも藤沢市に住み続けるつもり」が特に多くなっている。

## 2-9 回答者の属性についてのまとめ 【結果の整理と方向性】

### <年齢>

- 年齢は、18歳～59歳が87.7%を占め、特に、30代～40代のいわゆる働き盛りの人たちが過半数を占めている。

### <国籍>

- 国籍は、「韓国・朝鮮 (20.1%)」、「中国(17.8%)」と近隣諸国の国籍をもつ人が多く、以下、「ブラジル (11.2%)」、「ペルー(9.4%)」、「フィリピン(7.9%)」、「ベトナム(6.3%)」、「アルゼンチン(6.2%)」などの順である。その他の国籍の合計は15.9%である。
- 「韓国・朝鮮」や「中国」の東アジアの割合が37.9%、「ブラジル」、「ペルー」、「アルゼンチン」の南米の割合が26.8%、「フィリピン」、「ベトナム」の東南アジアの割合が14.2%となっている。

### <在留資格>

- 在留資格は、「永住者」の割合が過半数(51.9%)を占めている。特に、アルゼンチン、ペルー、ブラジルといった南米の国で「永住者」の占める割合が高く、韓国・朝鮮では「特別永住者」が約半数(49.7%)を占め、フィリピン、中国においては「日本人の配偶者など」、ベトナム、フィリピンにおいては「定住者」の割合が高くなっている。

### <就業状態>

- 就業状態は多様であるが、「会社などの正社員 (フルタイム)」が23.2%、「専業主婦・専業主夫」が19.6%で比較的多くを占めている。「契約社員・派遣社員」と「パートタイマー・アルバイト」を合わせると、29.5%が非正規雇用となっている。国籍別の就業状態は様々である。
- 「求職中 (失業中)」が5.4%を占めており、ペルー、アルゼンチン、ブラジルでは「求職中 (失業中)」の割合が高くみられる。

### <日本での居住時期>

- 日本での居住時期は、「1990～1999年」が34.8%、「2000～2009年」が34.3%と多く、7割近くが20年前から比較的近年に日本に住み始めている。これは、社会・経済の国際化、バブル期の好景気による人手不足、近年の円高等による出稼ぎメリットの拡大などが一要因になっているものと推測される。また、1989年の出入国管理及び難民認定法の改正や、1993年の外国人研修・技能実習制度の創設、1997年の永住者の認定要件の大幅な緩和が行われるなど、法制度の変更に関係しているものと推測される。なお、国勢調査(平成17年)においても、1990年以降、総人口に占める外国人人口の割合が急速に拡大している。

### <市での居住時期>

- 市での居住時期も、日本と同様に制度改正に伴う増加傾向がみられ、1989年の出入国管理及び難民認定法の改正後の「1990～1999年」において、アルゼンチン、ペルー、ブラジルが多くなっており、1997年の永住者の認定要件緩和後の「2000～2009年」において、中国、フィリピンが多くなっている。特に本市の場合、輸送用機械器具製造業(自動車製造業)の就業者数が多いことから、関連企業での就労の機会が拡大したことも一因であると推測される。

### <住まいの形態>

- 住まいの形態は、「借家(民間アパート・民間賃貸マンション)」が51.6%を占め、「持ち家(分譲マンションを含む)」が32.5%で続いている。一方、ベトナム、アルゼンチンでは「公営住宅(県営・市営・公団などの公営の共同住宅)」の割合が比較的高くみられる。

### <市に住む理由>

- 市に住む理由は、「配偶者や家族・親戚が住んでいる」が48.7%と約半数を占め、「学校や勤務先がある」が30.2%で続いており、市内を中心とした現在の生活状況に起因していることが伺われる。

### <市に住む予定>

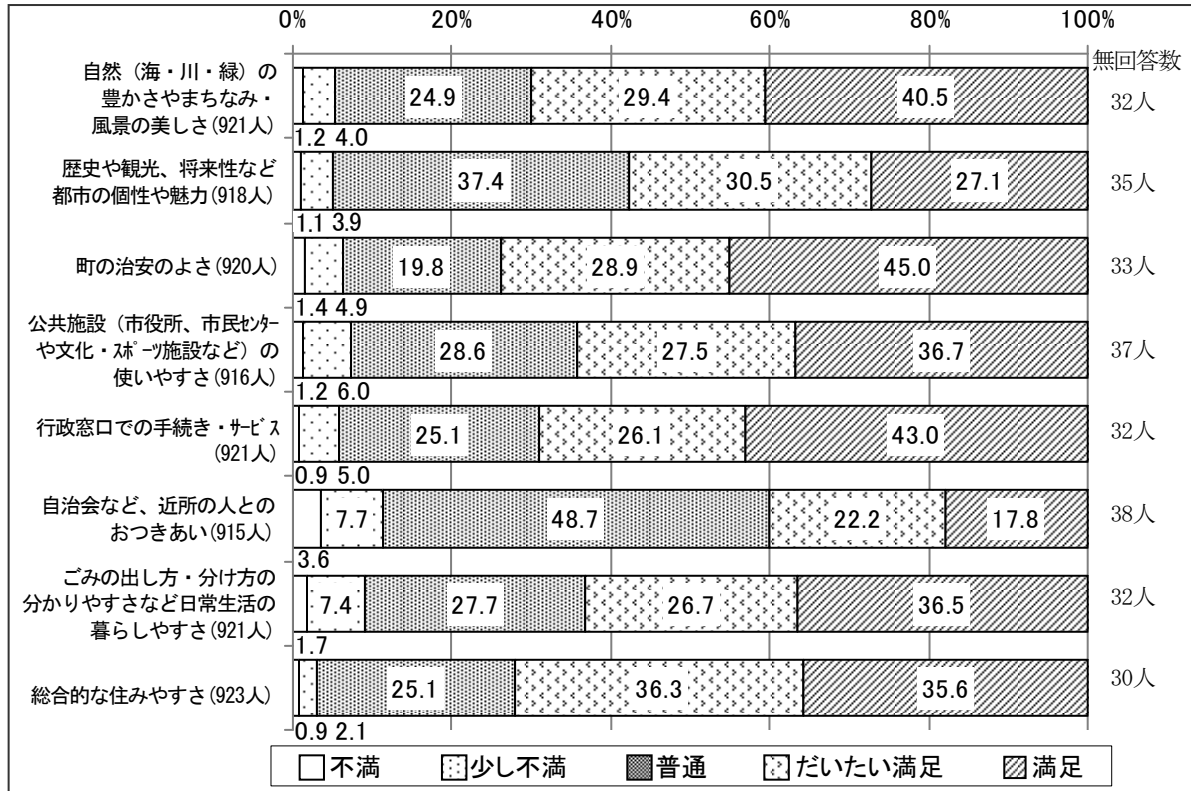
- 市に住む予定は、「今後とも藤沢市に住み続けるつもり」が69.2%とほぼ7割を占め、長期居住者を対象とした、居住環境の整備や生活支援策などを講じていく必要がある。

### 3. 日常生活について

#### 3-1 現在の生活環境の満足度

Q1 あなたは、現在の生活環境について、どれくらい満足していますか。(〇は1つずつ)

■ 図3-1 現在の生活環境の満足度



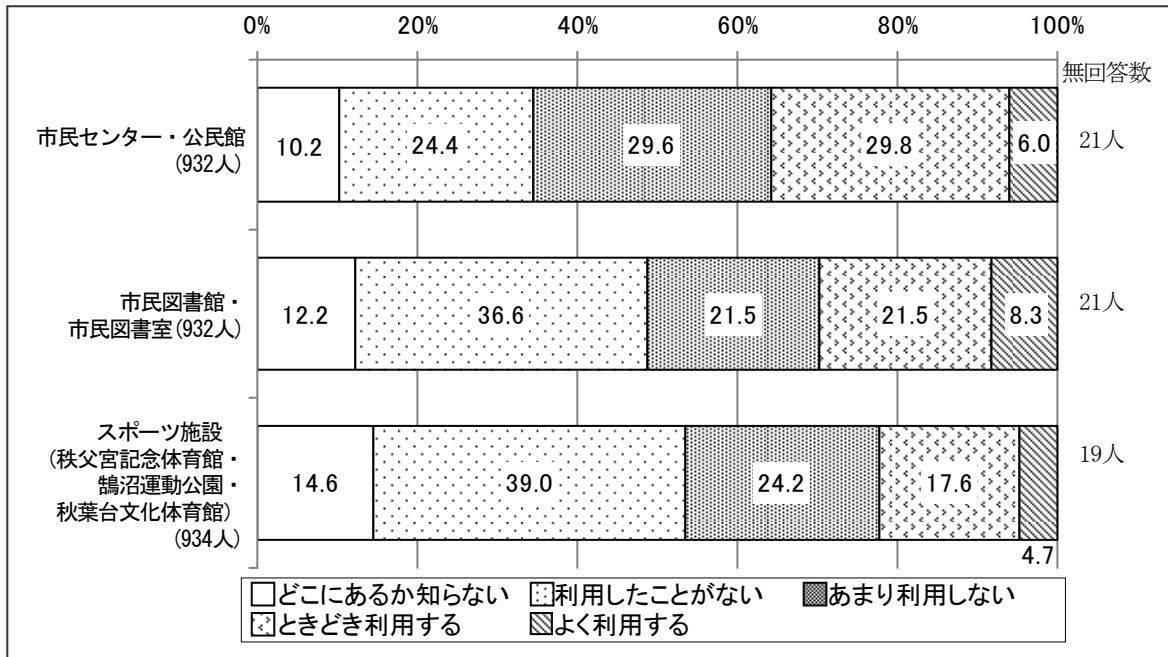
#### <結果概要>

現在の生活環境の満足度は、「満足」、「だいたい満足」が多く、総合的な住みやすさは「満足」、「だいたい満足」が71.9%と多くなっている。一方、自治会など、近所の人とおつきあいは「満足」、「だいたい満足」という回答が40.0%と比較的低くなっている。

3-2 よく利用する公共施設

Q2 あなたは、次の公共施設を利用したことがありますか。(〇は1つずつ)

■ 図3-2 よく利用する公共施設

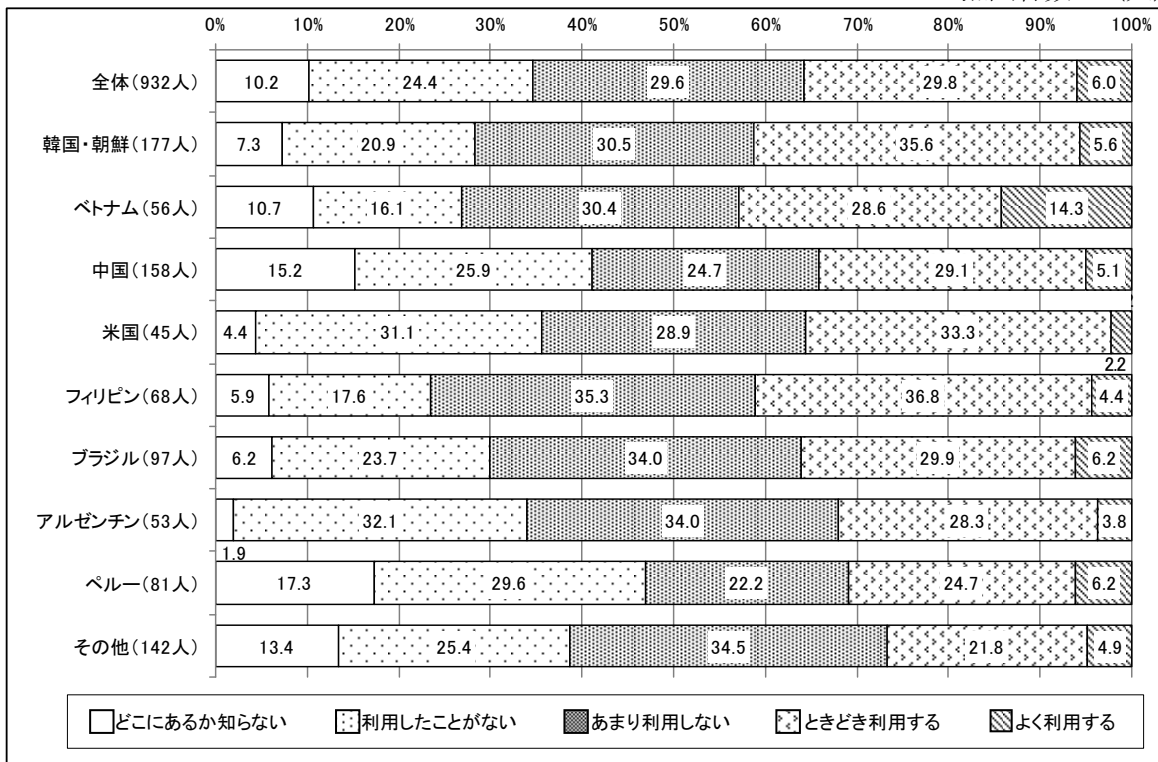


<結果概要>

よく利用する公共施設は、市民センター・公民館では「ときどき利用する」が29.8%と最も多く、市民図書館・市民図書室、スポーツ施設（秩父宮記念体育館・鶴沼運動公園・秋葉台文化体育館）（以下、スポーツ施設）では「利用したことがない」がそれぞれ36.6%、39.0%と最も多くなっている。

■ 図3-3 市民センター・公民館（国籍別）

無回答数=21(人)

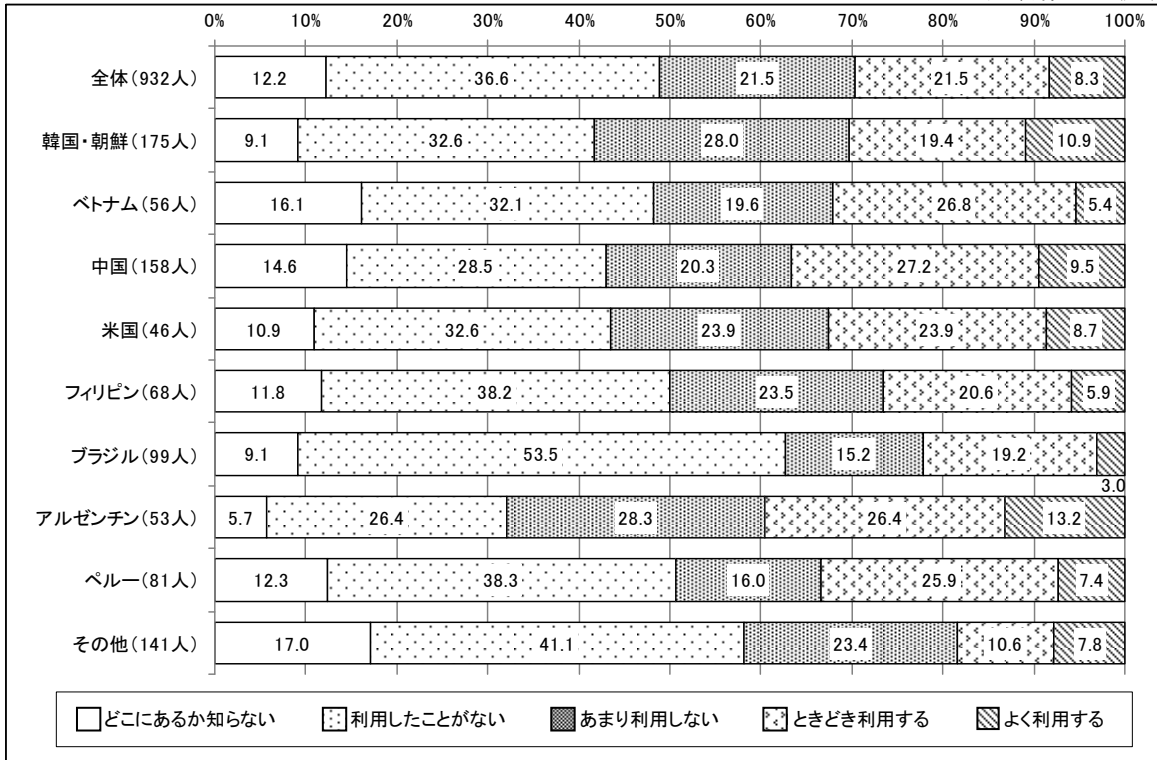


国籍 無回答数=55(人)



■ 図3-4 市民図書館・市民図書室（国籍別）

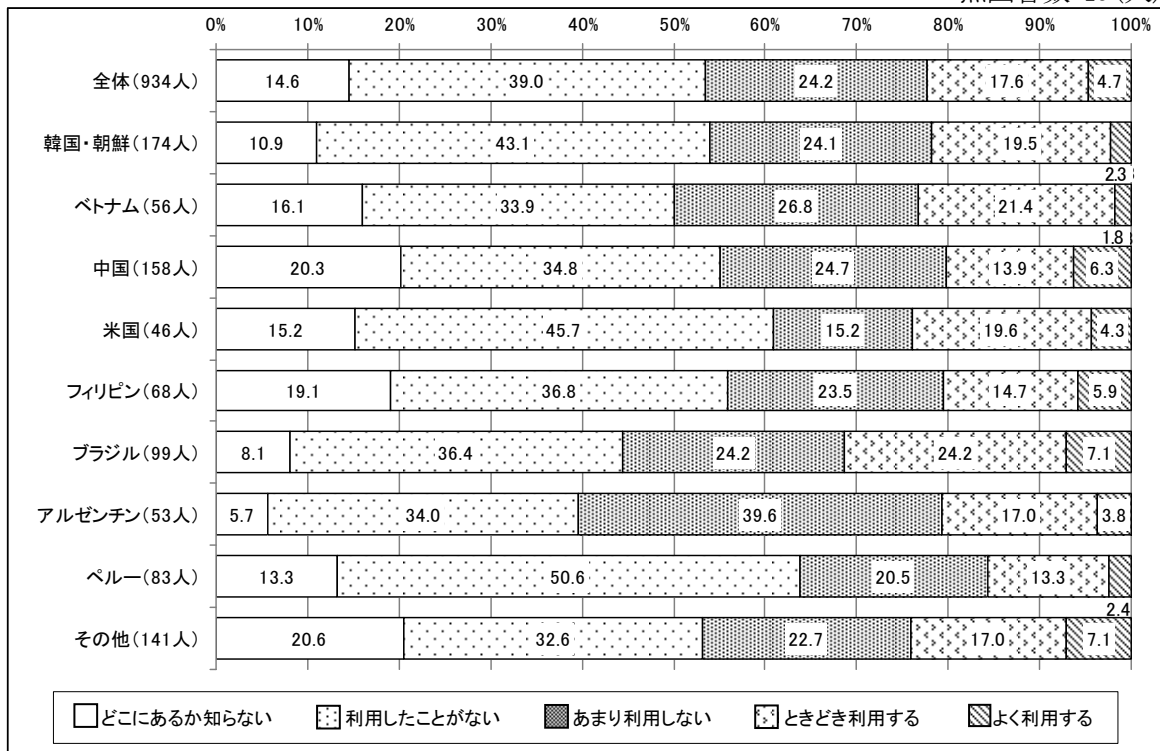
無回答数=21(人)



国籍 無回答数=55(人)

■ 図3-5 スポーツ施設（秩父宮記念体育館・鶴沼運動公園・秋葉台文化体育館）（国籍別）

無回答数=19(人)



国籍 無回答数=56(人)

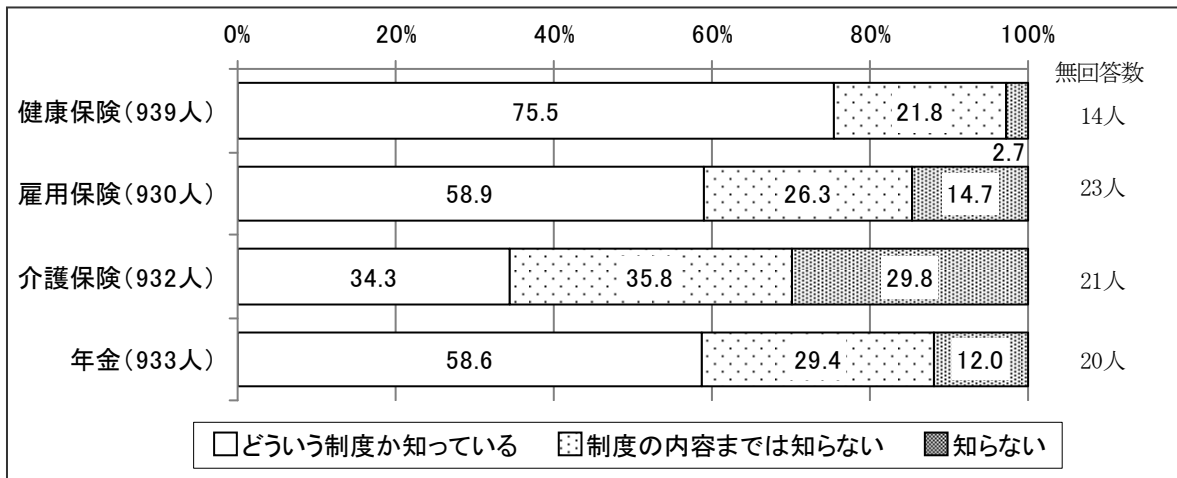
＜結果概要＞

国籍別によく利用する公共施設を見ると、市民センター・公民館について、大きな差異はみられないが、「ときどき利用する」、「よく利用する」がベトナム、韓国・朝鮮、フィリピンでは比較的多くなっている。市民図書館・市民図書室について、「どこにあるか知らない」がベトナム、中国では多く、「利用したことがない」がブラジルでは最も多くなっている。スポーツ施設について、「どこにあるか知らない」が中国やフィリピンでは多く、「利用したことがない」がペルーでは最も多くなっている。

### 3-3 各種制度（健康保険、雇用保険、介護保険、年金）の認知度

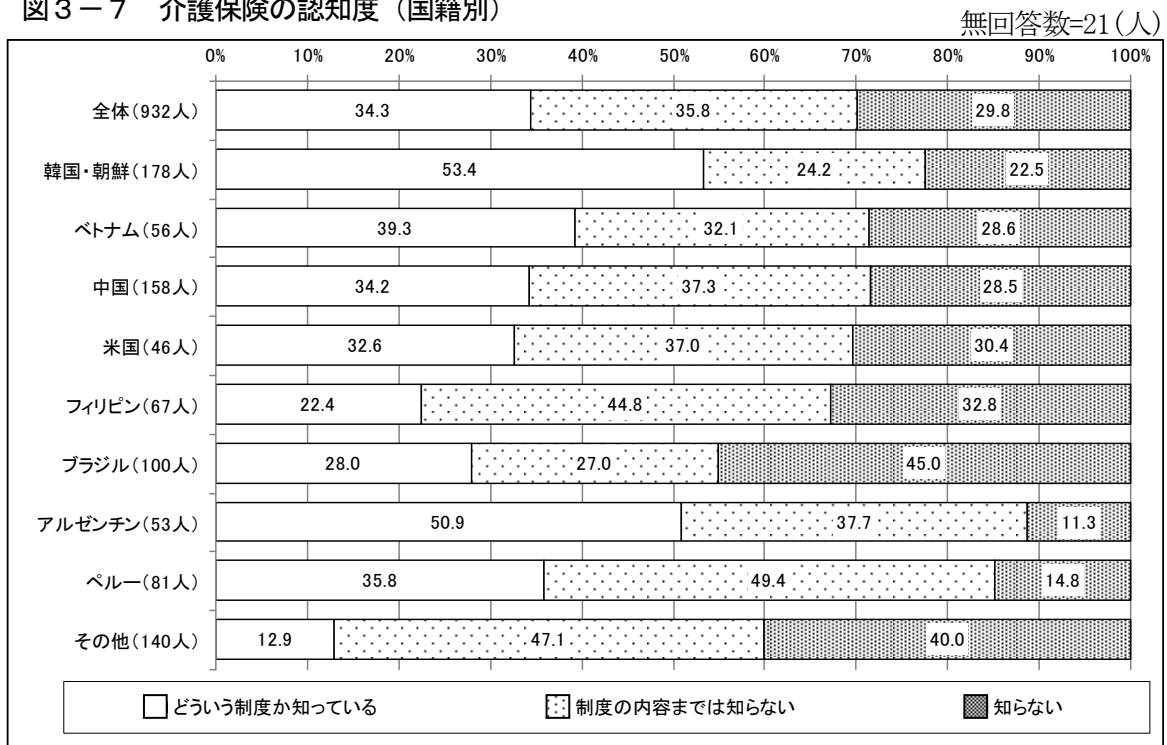
Q3 あなたは、次の制度について知っていますか。（〇は1つずつ）

■ 図3-6 各種制度（健康保険、雇用保険、介護保険、年金）の認知度



※ 健康保険：病気やけがに備えて普段から保険料を払い、必要な時に医療費の一部に充てる制度  
 雇用保険：失業した人などに生活の安定と就職を助けるため給付を行う制度  
 介護保険：40歳以上の人々が保険料を払い、必要な時に介護サービスを受けられる制度  
 年金：20歳以上60歳未満の人が加入し、高齢期の基本的な生活を保障する制度

■ 図3-7 介護保険の認知度（国籍別）



国籍 無回答数=53(人)

#### <結果概要>

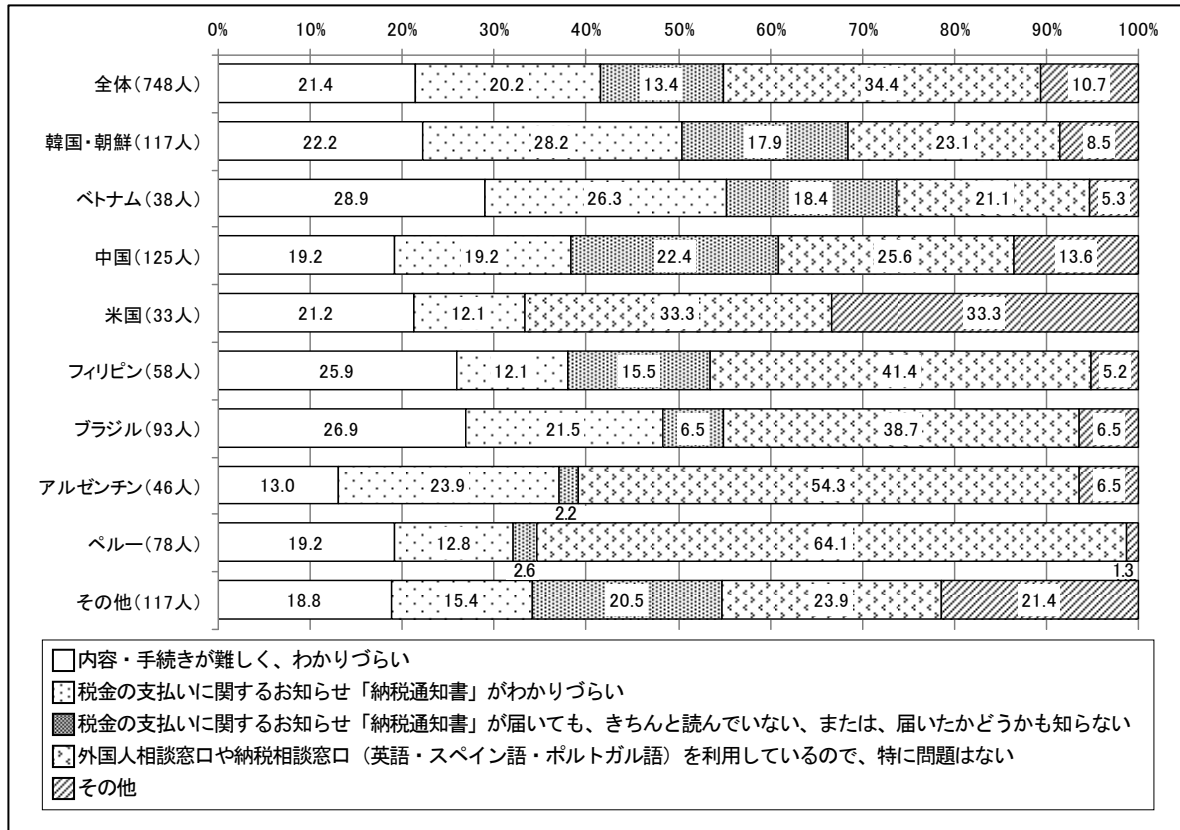
各種制度の認知度は、健康保険、雇用保険、年金では「どういう制度か知っている」がそれぞれ75.5%、58.9%、58.6%と最も多くなっている。一方、介護保険では「制度の内容まで知らない」が35.8%と最も多くなっている。

国籍別に介護保険を見ると、ブラジルでは「知らない」が最も多くなっている。一方、韓国・朝鮮、アルゼンチンでは「どういう制度か知っている」が最も多くなっている。

### 3-4 税金（納税通知書）に関する理解度

Q4 あなたは、藤沢市の税金及びその支払いについて、どのように感じていますか。（〇は1つだけ）

■ 図3-8 税金（納税通知書）に関する理解度（国籍別） 無回答数=205(人)



国籍 無回答数=43(人)

#### <結果概要>

税金に関する理解度は、「外国人相談窓口や納税相談窓口（英語・スペイン語・ポルトガル語）を利用しているので、特に問題はない」が34.4%と最も多くなっている。次いで、「内容・手続きが難しく、わかりづらい」の21.4%、「税金の支払いに関するお知らせ“納税通知書”がわかりづらい」の20.2%、「税金の支払いに関するお知らせ“納税通知書”が届いても、きちんと読んでいない、または、届いたかどうか知らない」の13.4%となっている。その他として、「会社や家族が手続きを行っているため問題ない」、「税金が高い」が挙げられている。

国籍別に税金に関する理解度を見ると、ペルー、アルゼンチン、フィリピン、ブラジルでは「外国人相談窓口や納税相談窓口（英語・スペイン語・ポルトガル語）を利用しているので、特に問題はない」、ベトナムでは「内容・手続きが難しく、わかりづらい」、韓国・朝鮮では「税金の支払いに関するお知らせ“納税通知書”がわかりづらい」が最も多くなっている。

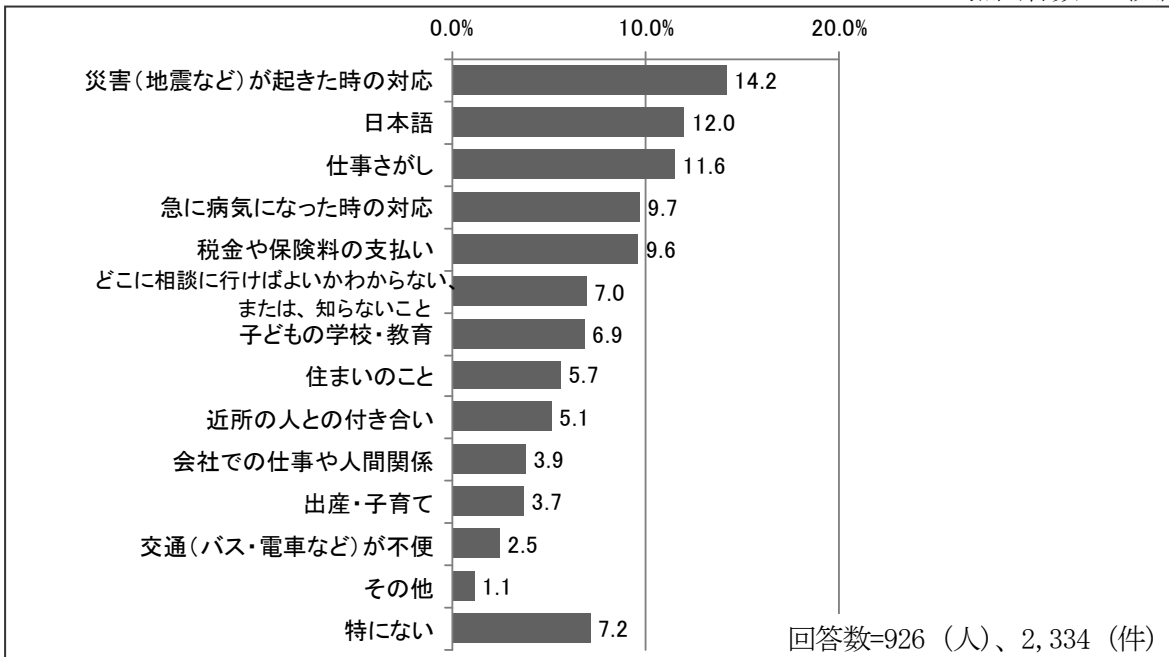
なお、当設問に対する無回答数が比較的多く見られるが、就業先の会社による税金手続き等もあることから、「納税通知書」自体に馴染みがない、あるいは、わからないなどに起因していることが推測される。

3-5 困っていることや不安なことの内容

Q5 あなたが、普段の生活で困っていることや不安なことは何ですか。(〇はいくつでも)

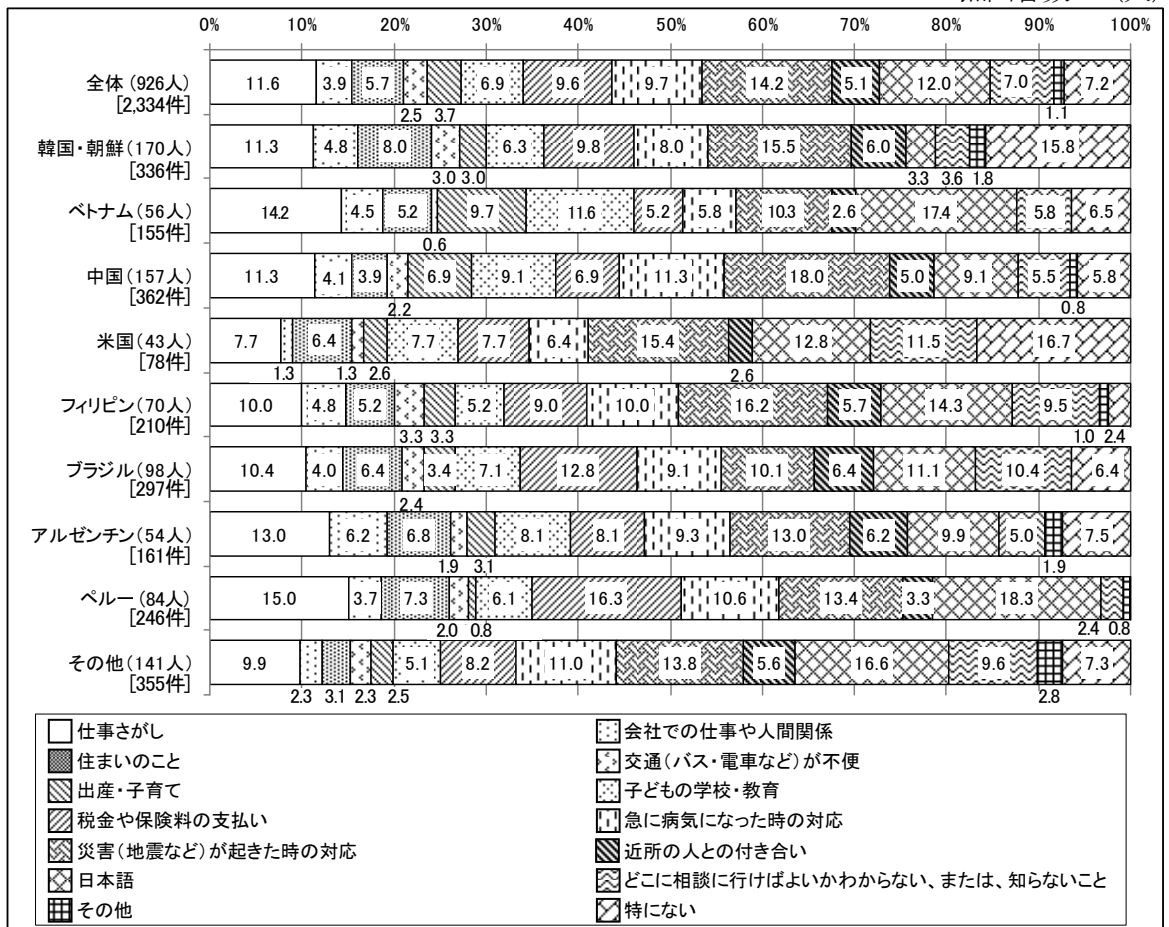
■ 図3-9 困っていることや不安なことの内容

無回答数=27(人)



■ 図3-10 困っていることや不安なことの内容(国籍別)

無回答数=27(人)



## <結果概要>

---

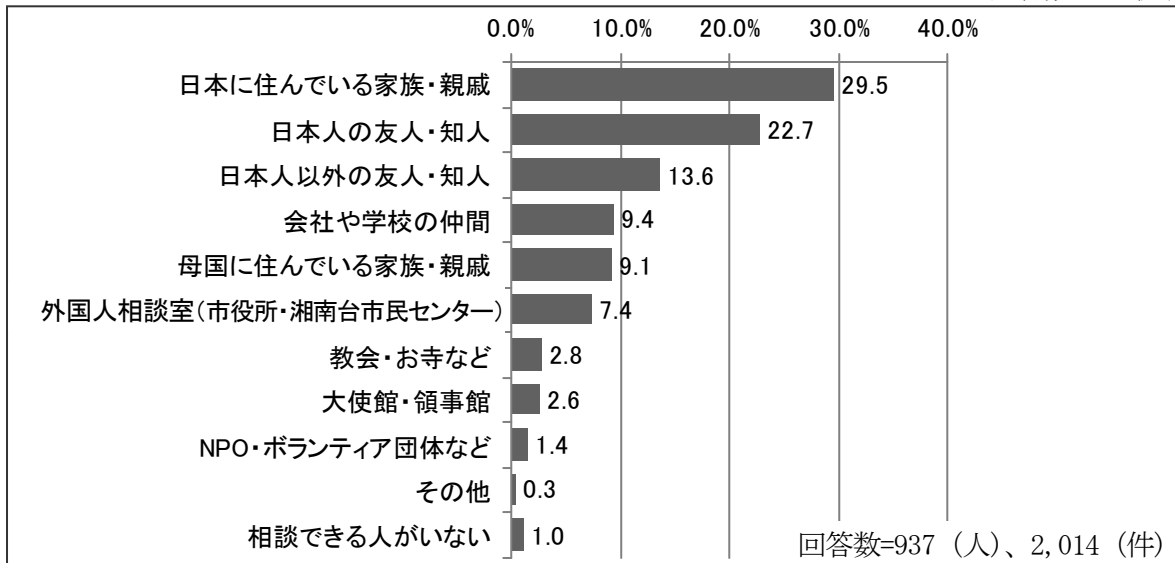
困っていることや不安なことの内容は、「災害（地震など）が起きた時の対応」が14.2%と最も多くなっている。次いで、「日本語」の12.0%、「仕事さがし」の11.6%、「急に病気になった時の対応」の9.7%、「税金や保険料の支払い」の9.6%となっている。

国籍別に困っていることや不安なことの内容を見ると、中国、フィリピンでは「災害（地震など）が起きた時の対応」、ペルー、ベトナムでは「日本語」、アルゼンチンでは「仕事さがし」、「災害（地震など）が起きた時の対応」、ブラジルでは「税金や保険料の支払い」、米国、韓国・朝鮮では「特にない」が最も多くなっている。

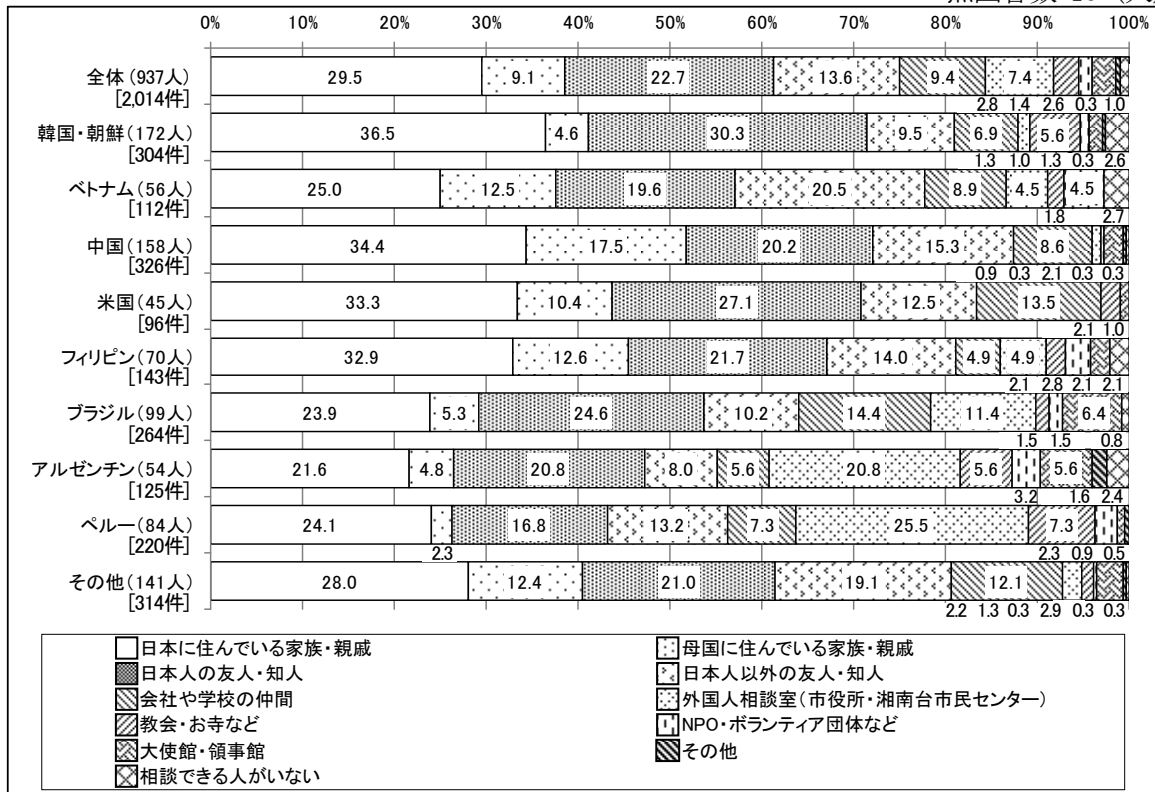
3-6 困った時の相談相手

Q6 あなたは、普段の生活で困った時、誰に相談しますか。(〇はいくつでも)

■ 図3-11 困った時の相談相手 無回答数=16 (人)



■ 図3-12 困った時の相談相手 (国籍別) 無回答数=16 (人)



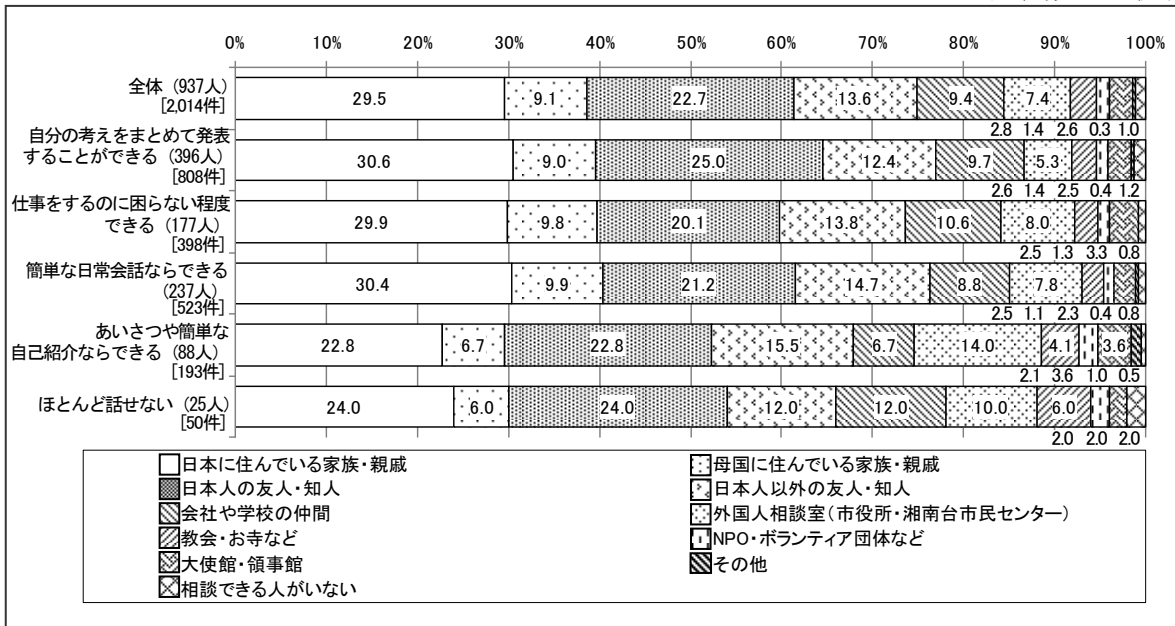
<結果概要>

困った時の相談相手は、「日本に住んでいる家族・親戚」が29.5%と最も多くなっている。次いで、「日本人の友人・知人」の22.7%、「日本人以外の友人・知人」の13.6%、「会社や学校の仲間」の9.4%、「母国に住んでいる家族・親戚」の9.1%となっている。

国籍別に困った時の相談相手を見ると、韓国・朝鮮、中国、米国、フィリピンでは「日本に住んでいる家族・親戚」、ブラジルでは「日本人の友人・知人」、ペルーでは「外国人相談室(市役所・湘南台市民センター)」が最も多くなっている。

■ 図3-13 困った時の相談相手（日本語習熟度別 話すこと）

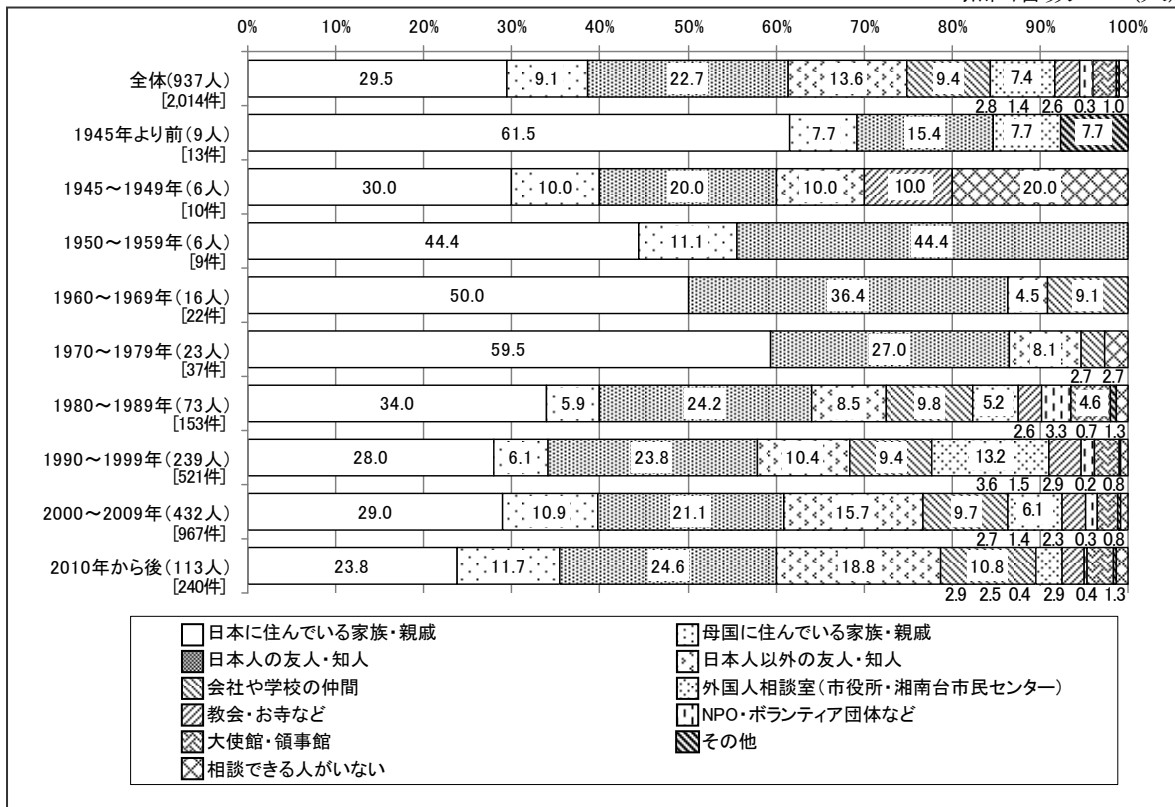
無回答数=16（人）



日本語習熟度別 話すこと 無回答数=14（人）、42（件）

■ 図3-14 困った時の相談相手（市での居住時期別）

無回答数=16（人）



市での居住時期別 無回答数=20（人）、42（件）

<結果概要>

困った時の相談相手については、本人の会話能力や居住時期との相関関係が推測されることから、『Q8 本人の日本語習熟度（話すこと）』及び『Q32 市での居住時期』とのクロス集計での分析を行う。

日本語習熟度（話すこと）別に困った時の相談相手を見ると、全ての習熟度において「日本に住んでいる家族・親戚」が最も多くなっているが、「あいさつや簡単な自己紹介ならできる」、「ほとんど話せない」では「日本に住んでいる家族・親戚」の割合が相対的に低く、「外国人相談室（市役所・湘南台市民センター）」の割合が高くなっている。

市での居住時期別に困った時の相談相手を見ると、「日本に住んでいる家族・親戚」、「日本人の友人・知人」が多いが、近年では、「日本人以外の友人・知人」、「会社や学校の仲間」も比較的多くなっている。

### 3-7 日常生活についてのまとめ 【結果の整理と方向性】

#### <現在の生活環境の満足度>

- 現在の生活環境の満足度は、総合的な住みやすさについて、「満足」、「だいたい満足」を合わせて71.9%と比較的高い割合となっている。

「町の治安の良さ」、「自然（海・川・緑）の豊かさやまちなみ・風景の美しさ」、「行政窓口での手続き・サービス」などを評価する回答も多い。あわせて、自由回答欄においては、「藤沢が好き」、「湘南台が好き」といったまちに対する愛着を感じさせる意見もいくつか見られた。

他方、言葉の壁や文化・生活習慣の違い等を反映してか、「自治会など、近所の人とおつきあい」に対する満足度が相対的に低くなっている。地域でのつながりの構築、交流を生み出すきっかけづくりが課題であると考ええる。

#### <よく利用する公共施設について>

- よく利用する公共施設については、「スポーツ施設（秩父宮記念体育館・鶴沼運動公園・秋葉台文化体育館）」、「市民図書館・市民図書室」について、「どこにあるか知らない」、「利用したことがない」、「あまり利用しない」の合計が、それぞれ77.8%、70.3%を占めている。

相対的に認知度が高い「市民センター・公民館」も含めて、外国人市民が必ずしも気軽に利用できる状況にない可能性がある。また、存在すら知られていない事実もあることから、まずは、周知に努めるとともに、「利用したことがない」「あまり利用しない」とする原因を把握した上で、例えば、多言語によるサインの設置やボランティアスタッフの配置等の施設サービスの充実を検討していくことも必要であると考ええる。

#### <各種制度（健康保険、雇用保険、介護保険、年金）の認知度>

- 各種制度（健康保険、雇用保険、介護保険、年金）の認知度は、「健康保険」が75.5%と、相対的に高いものの、「雇用保険」、「年金」、「介護保険」はそれぞれ58.9%、58.6%、34.3%に留まっている。

特に、「介護保険」の認知度が低いのは、30代、40代が多いため、身近な問題としておらず、現時点においては、日常生活にとって大きな関心事ではないことが要因であると推測される。他方、市に住む予定では、ほぼ7割が「今後とも藤沢市に住み続けるつもり」と回答していることを勘案すると、制度をきちんと理解してもらうべく、周知を図っていくことが重要と考えられる。

#### <税金（納税通知書）に関する理解度>

- 税金（納税通知書）に関する理解度は、34.4%が「問題ない」という回答であるが、国籍別に見ると、この割合は、外国人相談窓口や納税相談窓口において対応可能な言語（英語・スペイン語・ポルトガル語）を話す国での割合が高い傾向にあることから、こうした相談窓口の果たす役割の重要性が指摘出来る。

他方、「内容・手続きが難しく、わかりづらい」が21.4%、「税金の支払いに関するお知らせ“納税通知書”がわかりづらい」が20.2%と、合計で4割を超える回答があり、納税に関して十分な理解が難しい状況にあることもわかる。自由回答欄においても、税金に対する意見（税金の額やその用途について）が見受けられたが、税金の支払いについては、就業先の会社による手続き等も関係してくるため、行政の納税相談窓口等の充実と併せて、こうした就業先による支援を通じ、納税に関して十分な理解が得られるような体制づくりが求められる。

#### <困っていることや不安なことの内容>

- 困っていることや不安なことの内容は、調査時期が東日本大震災の発生直後であったこともあり、「災害（地震など）が起きた時の対応」が14.2%、「日本語」が12.0%と続いている。災害時における外国人市民の支援のあり方が極めて重要となっている中で、既に実施されている多言語による各種広報といった支援策に加え、それぞれの文化的背景を考慮した施策を検討していくことが求められる。

また、国籍別にみると、「仕事さがし」、「住まいのこと」といった、生活基盤に関する不安を示す回答が、ペルー、ベトナム、アルゼンチンで相対的に多くみられた。地域社会における外国人市民に対する理解を深めるとともに、不安を取り除く仕組みづくりが求められる。

#### <困った時の相談相手>

- 困った時の相談相手は、「日本に住んでいる家族・親戚」が29.5%、「日本の友人・知人」が22.7%で続いている。「相談できる人がいない」も1.0%あるとともに、本人の日本語習熟度（話すこと）や市での居住時期によっても状況は異なっている。NPOや各種支援団体等のノウハウを活用して、行政の外国人相談室といった機能とは別途、困った時に気軽に話が出来る“場づくり”が求められる。



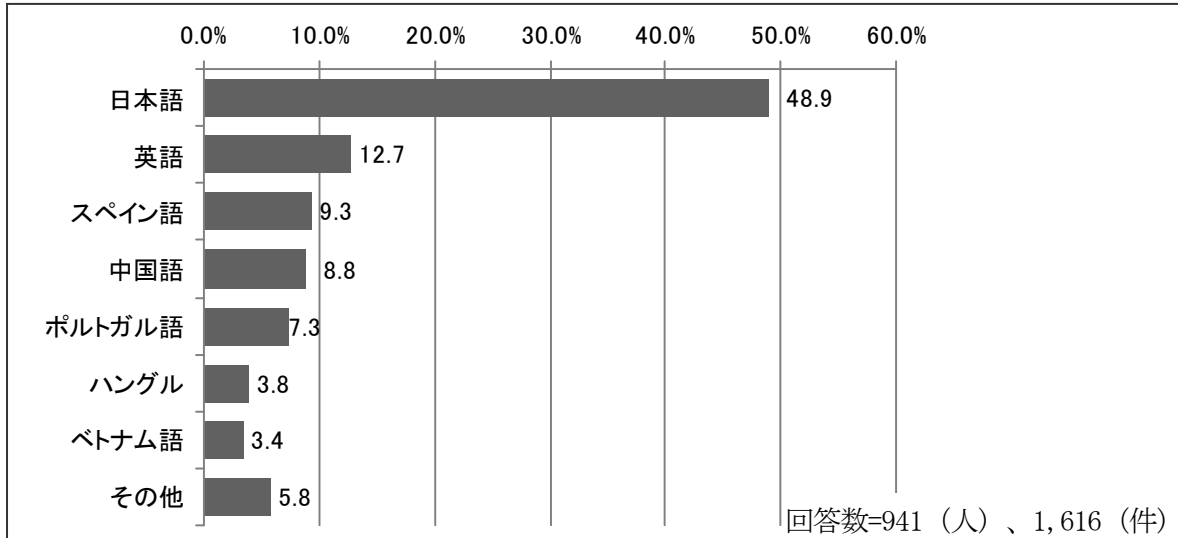
#### 4. ことばについて

##### 4-1 普段の生活でよく使う言語

Q7 あなたが、普段の生活で、よく使うことばはどれですか。(〇はいくつでも)

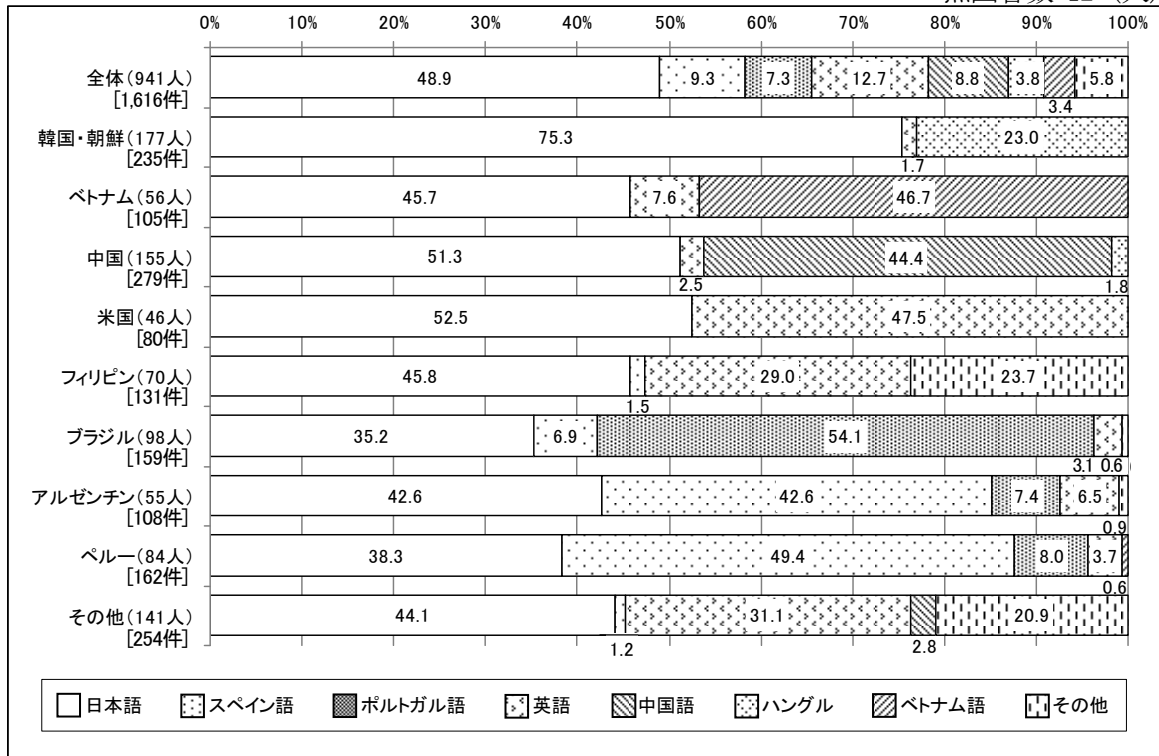
■ 図4-1 普段の生活でよく使う言語

無回答数=12 (人)



■ 図4-2 普段の生活でよく使う言語 (国籍別)

無回答数=12 (人)



#### <結果概要>

普段の生活でよく使う言語は、「日本語」が48.9%と最も多くなっている。次いで、「英語」の12.7%、「スペイン語」の9.3%となっている。国籍別に普段の生活でよく使う言語を見ると、韓国・朝鮮、米国、中国では「日本語」、ブラジルでは「ポルトガル語」、ペルーでは「スペイン語」、ベトナムでは「ベトナム語」が多くなっている。なお、アルゼンチンでは「日本語」と「スペイン語」が同率で多くなっている。その他として、以下の言語が挙げられている。

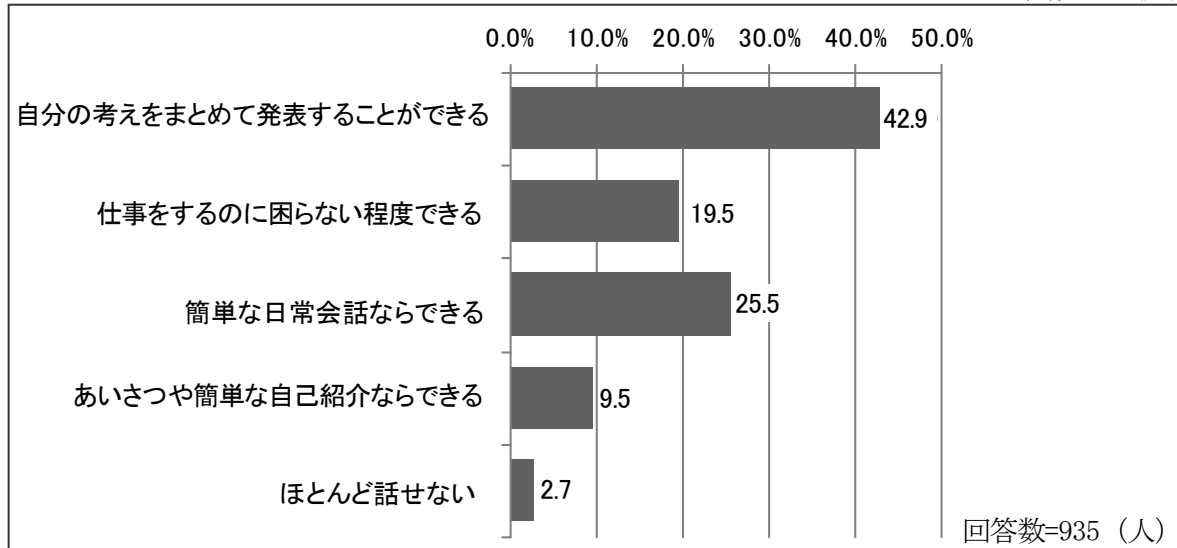
タガログ語 (31)、タイ語 (13)、インドネシア語 (12)、フランス語 (7)、ロシア語 (5)、ヒンディ語 (4)、イタリア語 (3)、タミール語 (3)、ドイツ語 (3)、オランダ語 (2)、シンハラ語 (2)、バンパンガ語 (2)、ベンガル語 (2)、ネパール語 (2)、ゲール語 (1)、カンボジア語 (1)、クメール語 (1)、シンディ語 (1)、タガール語 (1)、パキスタン語 (1)、ピサヤ語 (1)、地方言語 (1) ※一部、複数回答あり

#### 4-2 本人の日本語習熟度

Q8 あなたは、どのくらい日本語ができますか。a.~d.のそれぞれについて、一番近いと思うものはどれですか。(〇は1つずつ)

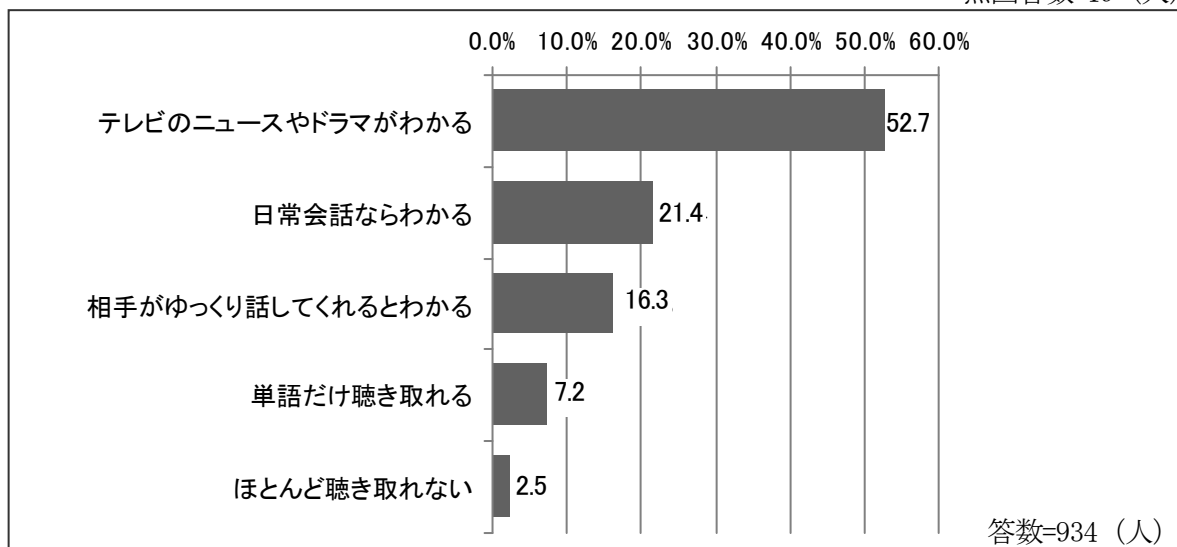
■ 図4-3 本人の日本語習熟度（話すこと）

無回答数=18 (人)



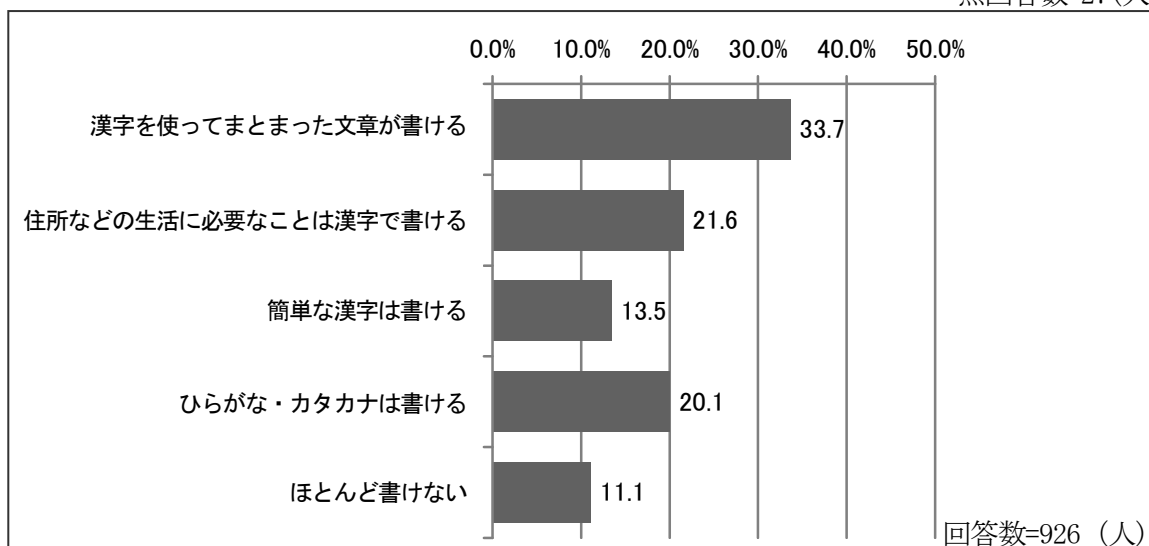
■ 図4-4 本人の日本語習熟度（聴くこと）

無回答数=19 (人)



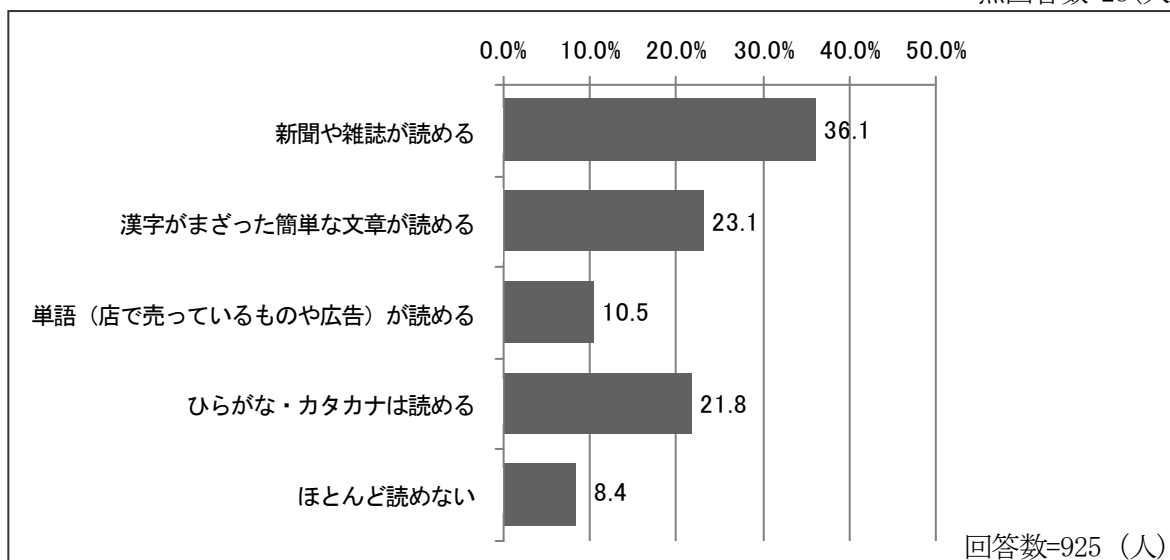
■ 図4-5 本人の日本語習熟度（書くこと）

無回答数=27(人)



■ 図4-6 本人の日本語習熟度（読むこと）

無回答数=28(人)



<結果概要>

本人の日本語習熟度（話すこと）は、「自分の考えをまとめて発表することができる」が42.9%と最も多くなっている。次いで、「簡単な日常会話ならできる」の25.5%、「仕事をするのに困らない程度できる」の19.5%となっている。

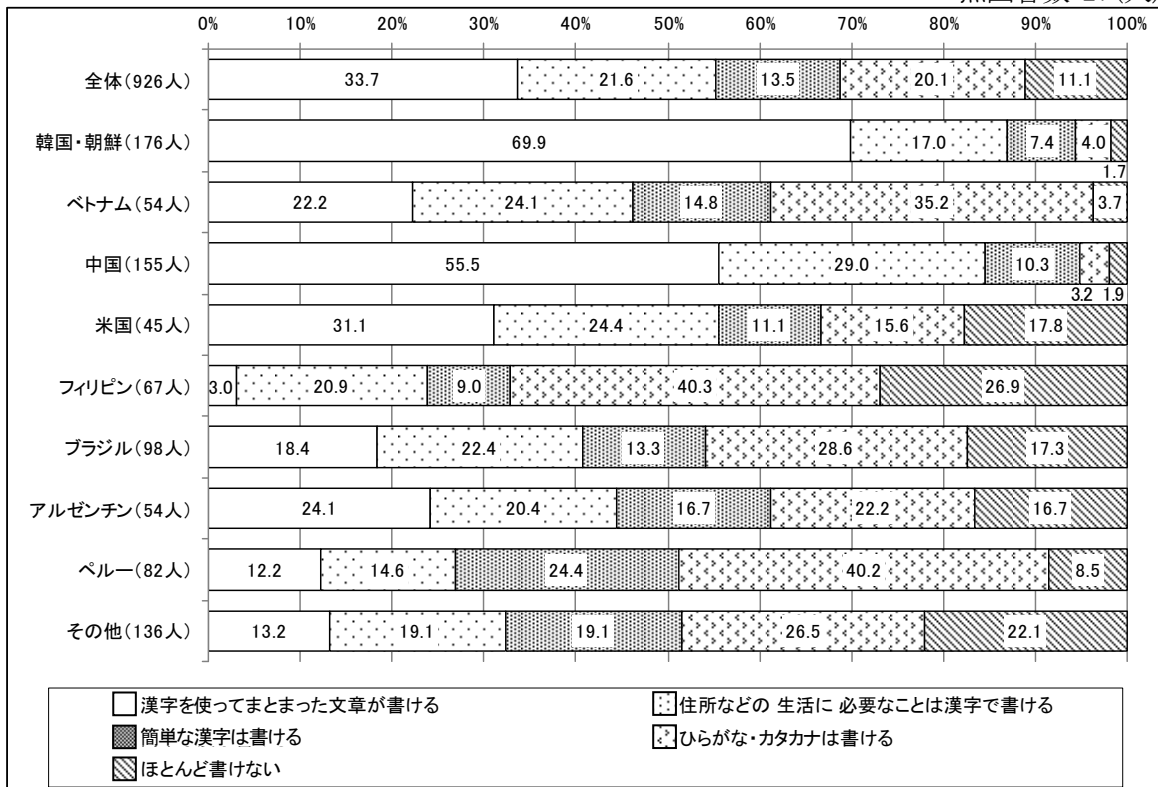
本人の日本語習熟度（聴くこと）は、「テレビのニュースやドラマがわかる」が52.7%と最も多くなっている。次いで、「日常会話ならわかる」の21.4%、「相手がゆっくり話してくれるとわかる」の16.3%となっている。

本人の日本語習熟度（書くこと）は、「漢字を使ってまとまった文章が書ける」が33.7%と最も多くなっている。次いで、「住所などの生活に必要なことは漢字で書ける」の21.6%、「ひらがな・カタカナは書ける」の20.1%となっている。一方、「ほとんど書けない」が11.1%となっている。

本人の日本語習熟度（読むこと）は、「新聞や雑誌が読める」が36.1%と最も多くなっている。次いで、「漢字がまざった簡単な文章が読める」の23.1%、「ひらがな・カタカナは読める」の21.8%となっている。

■ 図4-7 本人の日本語習熟度（書くこと）（国籍別）

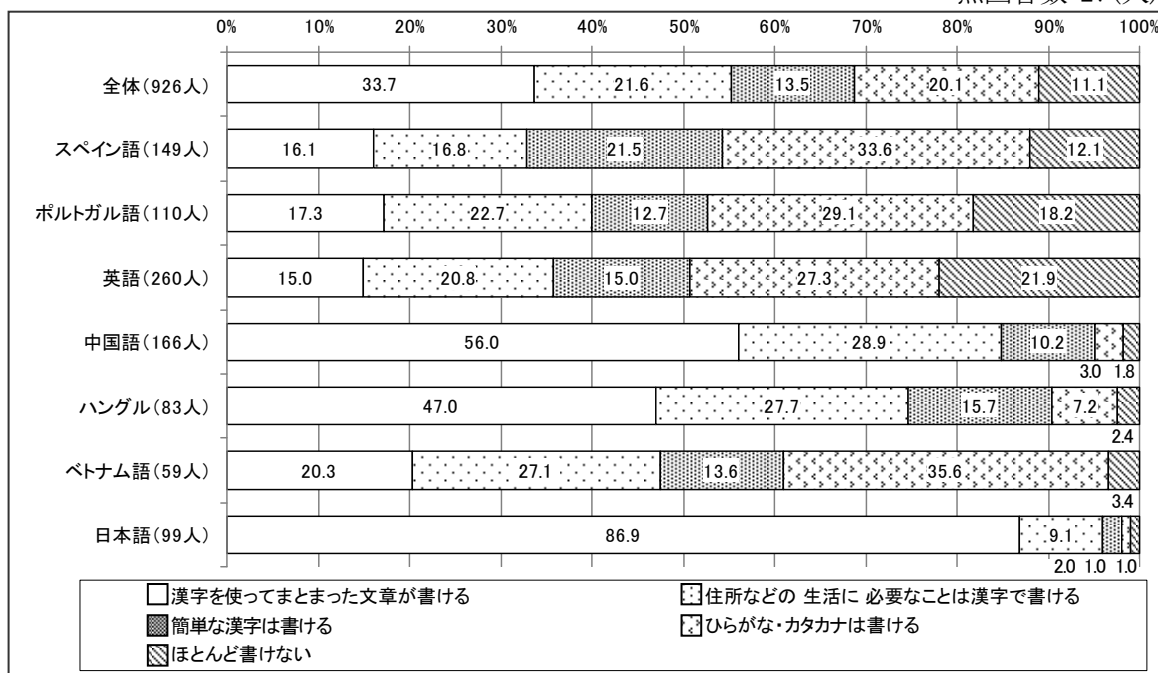
無回答数=27(人)



国籍 無回答数=59(人)

■ 図4-8 本人の日本語習熟度（書くこと）（言語別）

無回答数=27(人)



<結果概要>

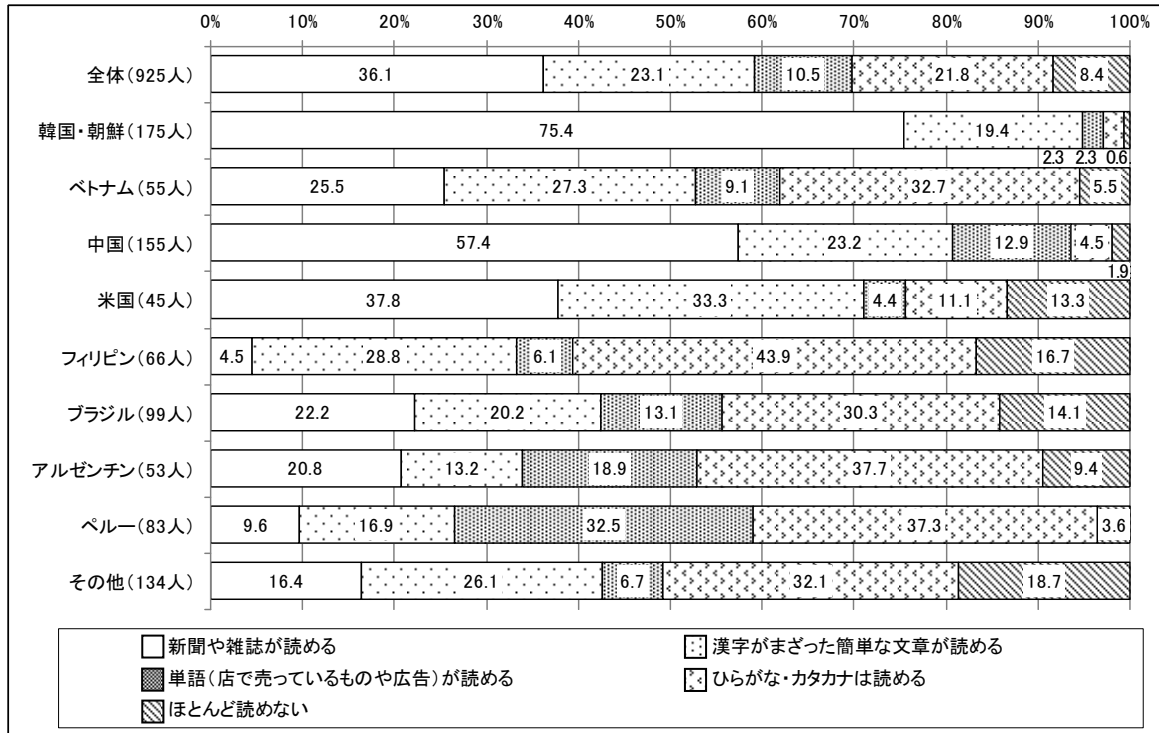
外国人の日本語習熟度における「書くこと」については、文書等による情報伝達・収集や各種手続き等の各種施策への影響が推測されることから、国籍別とともに言語別のクロス集計による分析を行う。

国籍別に本人の日本語習熟度（書くこと）を見ると、韓国・朝鮮、中国では「漢字を使ってまとまった文章が書ける」、フィリピン、ペルー、ベトナム、ブラジルでは「ひらがな・カタカナは書ける」が最も多くなっている。フィリピンでは「ほとんど書けない」が比較的多くなっている。

言語別に本人の日本語習熟度（書くこと）を見ると、日本語、中国語、ハングルでは「漢字を使ってまとまった文章が書ける」、ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語、英語では「ひらがな・カタカナは書ける」が最も多くなっている。

■ 図4-9 本人の日本語習熟度（読むこと）（国籍別）

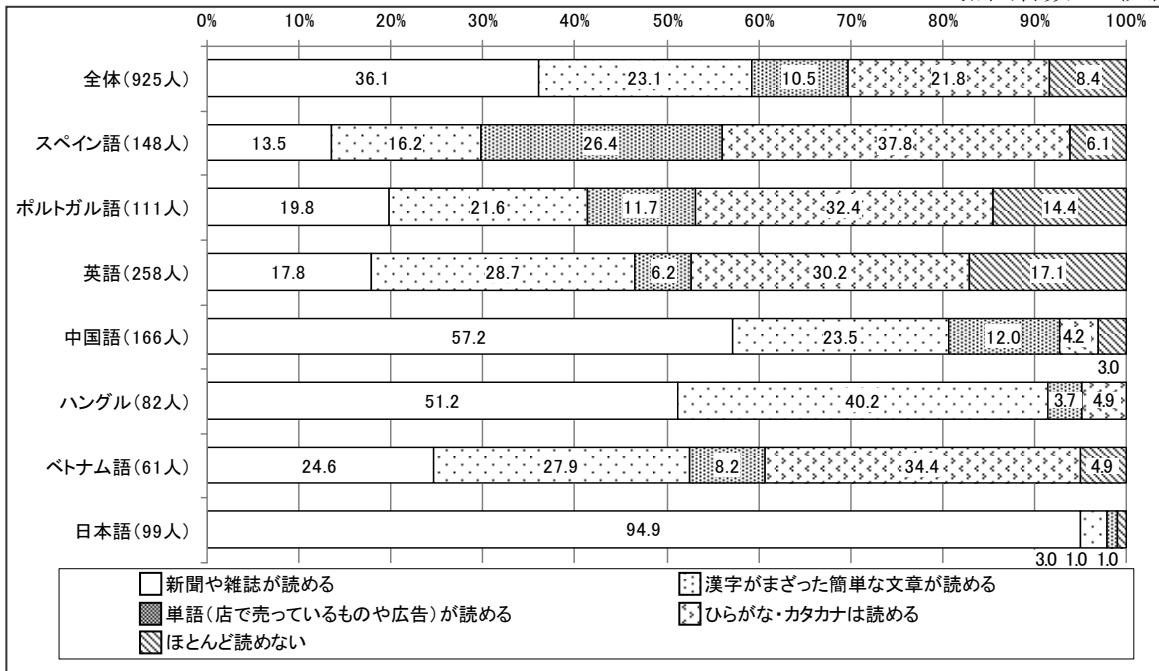
無回答数=28(人)



国籍 無回答数=60(人)

■ 図4-10 本人の日本語習熟度（読むこと）（言語別）

無回答数=28(人)



<結果概要>

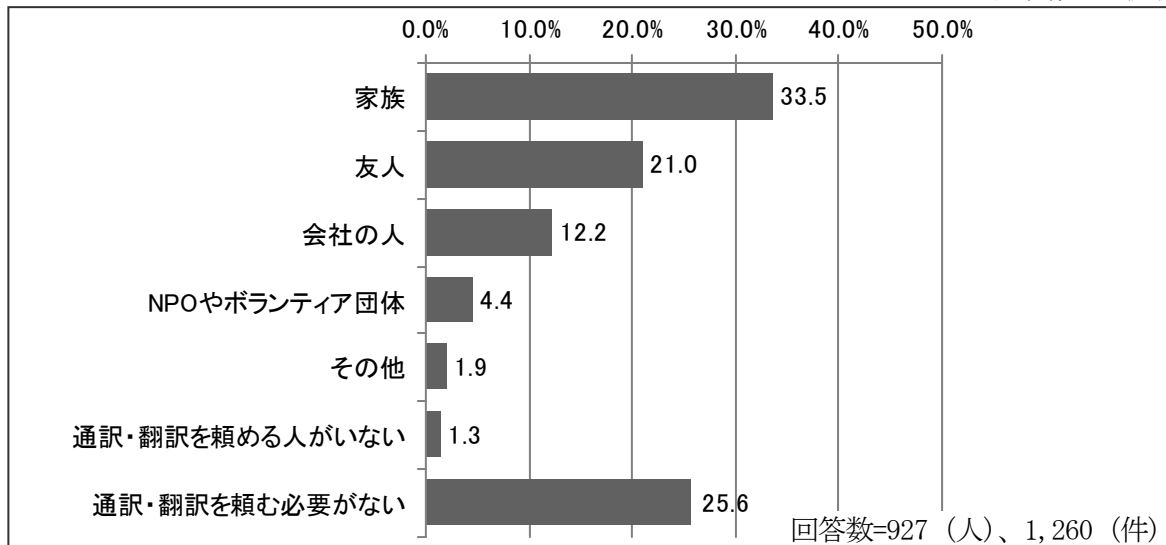
「読むこと」についても、「書くこと」と同様、国籍別とともに言語別のクロス集計による分析を行う。国籍別に本人の日本語習熟度（読むこと）を見ると、韓国・朝鮮、中国、米国では「新聞や雑誌が読める」、フィリピン、アルゼンチン、ペルー、ベトナム、ブラジルでは「ひらがな・カタカナは読める」が最も多くなっている。フィリピン、ブラジル、米国では、「ほとんど読めない」が比較的多くなっている。言語別に本人の日本語習熟度（読むこと）を見ると、日本語、中国語、ハングルでは「新聞や雑誌が読める」、スペイン語、ベトナム語、ポルトガル語、英語では「ひらがな・カタカナは読める」が最も多くなっている。

4-3 日本語の通訳・翻訳の必要性

Q9 あなたは、誰に日本語の通訳・翻訳を頼むことがありますか。(〇はいくつでも)

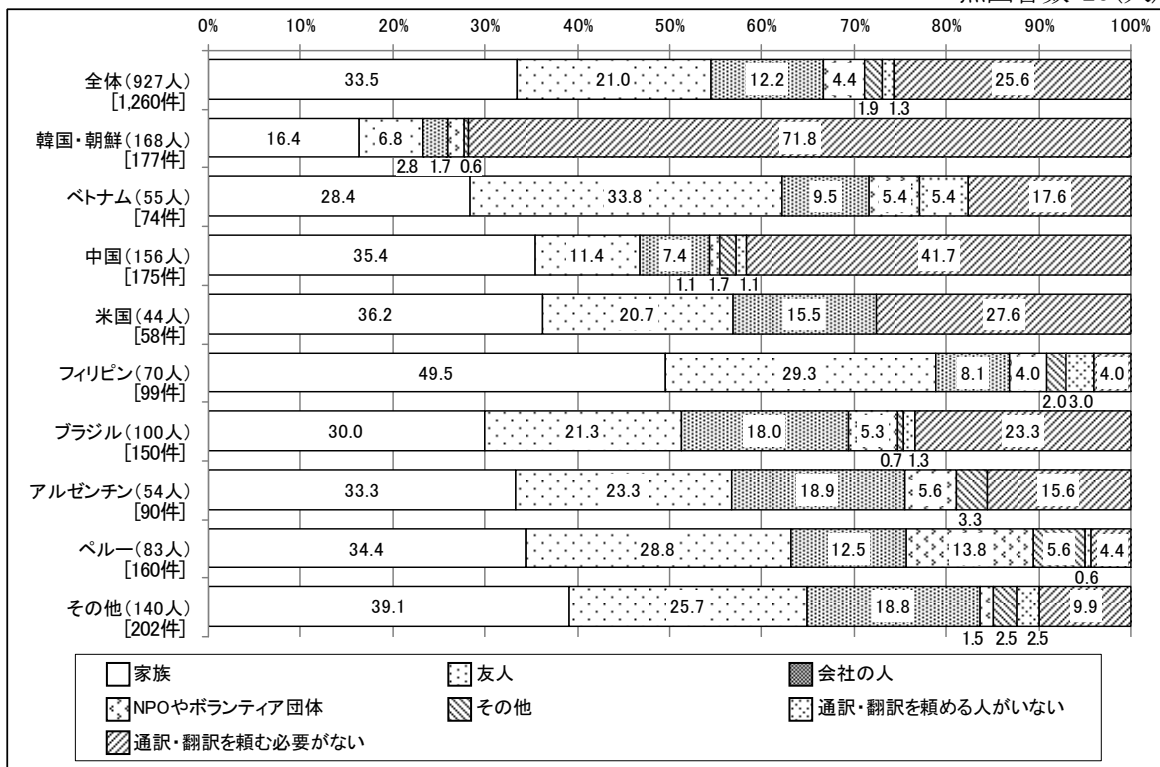
■ 図4-11 日本語の通訳・翻訳の必要性

無回答数=26(人)



■ 図4-12 日本語の通訳・翻訳の必要性(国籍別)

無回答数=26(人)



国籍 無回答数=57(人)、75(件)

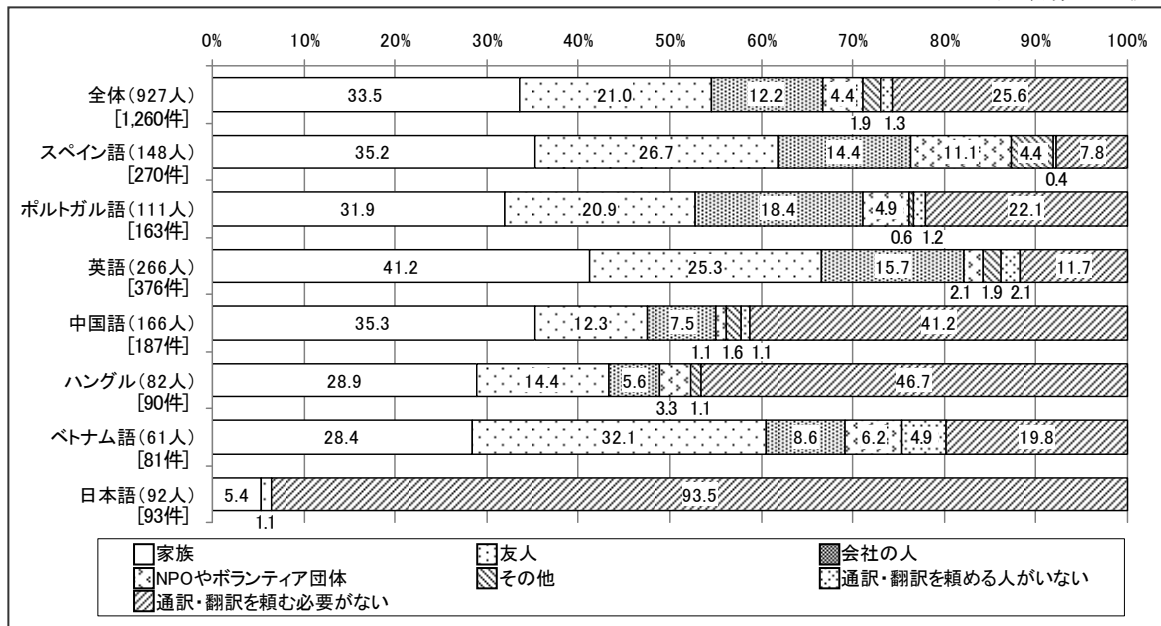
<結果概要>

日本語の通訳・翻訳の必要性は、「家族」が33.5%と最も多くなっている。次いで、「通訳・翻訳を頼む必要がない」の25.6%、「友人」の21.0%となっている。その他として、「外国人相談室」が挙げられている。

国籍別に日本語の通訳・翻訳の必要性を見ると、フィリピンでは「家族」、韓国・朝鮮、中国では「通訳・翻訳を頼む必要がない」、ベトナムでは「友人」が最も多くなっている。ベトナムでは「通訳・翻訳を頼める人がいない」が比較的多くなっている。

■ 図4-13 日本語の通訳・翻訳の必要性（言語別）

無回答数=27(人)



<結果概要>

日本語の通訳・翻訳の必要については、その言語を把握する必要があることから、言語別のクロス集計による分析を行う。

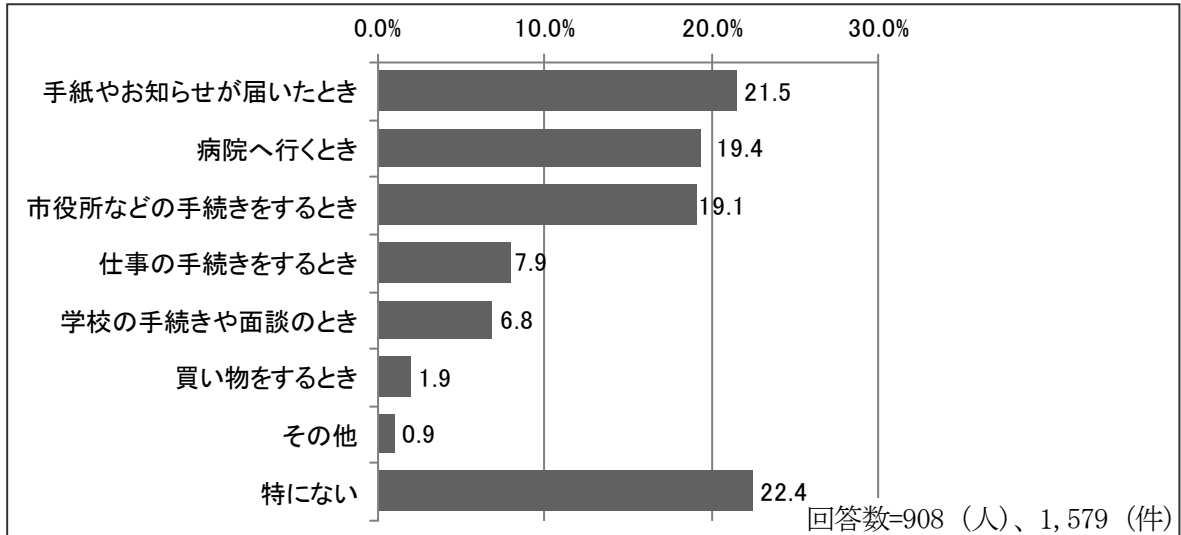
言語別に日本語の通訳・翻訳の必要性を見ると、英語、スペイン語、ポルトガル語では「家族」、日本語、ハングル、中国語では「通訳・翻訳を頼む必要がない」、ベトナム語では、国籍別と同様「友人」が最も多くなっている。ベトナム語では「通訳・翻訳を頼める人がいない」が比較的多くなっている。

4-4 日本語の通訳・翻訳が必要となる場面

Q10 あなたは、どんな時に、日本語の通訳・翻訳を頼みますか。また、頼める人がいない人は、どんな時に、通訳・翻訳を頼みたいと思いますか。(〇はいくつでも)

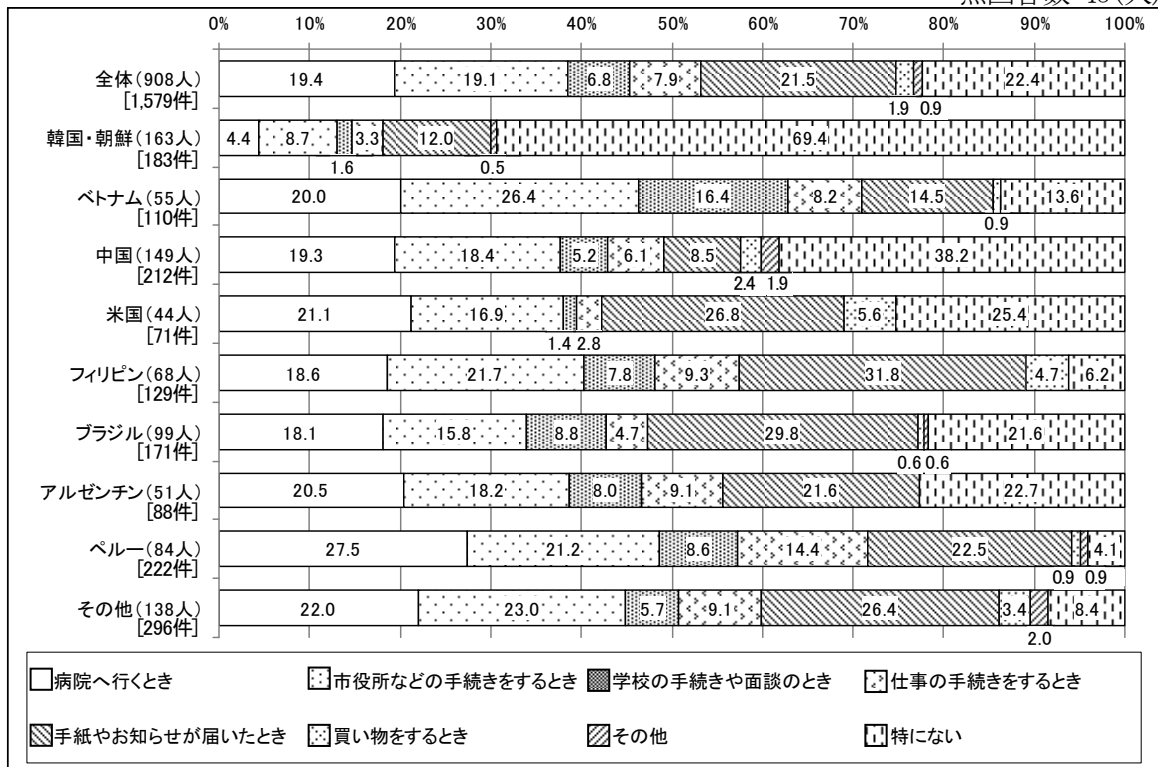
■ 図4-14 日本語の通訳・翻訳が必要となる場面

無回答数=45(人)



■ 図4-15 日本語の通訳・翻訳が必要となる場面(国籍別)

無回答数=45(人)



国籍 無回答数=57(人)、97(件)

<結果概要>

日本語の通訳・翻訳が必要となる場面は、「特にない」が22.4%と最も多くなっている。次いで、「手紙やお知らせが届いたとき」の21.5%、「病院へ行くとき」の19.4%、「市役所などの手続きをするとき」の19.1%となっている。

国籍別に日本語の通訳・翻訳が必要となる場面を見ると、韓国・朝鮮、中国では「特にない」、フィリピン、ブラジル、米国では「手紙やお知らせが届いたとき」、ペルーでは「病院へ行くとき」、ベトナムでは「市役所などの手続きをするとき」が最も多くなっている。



#### 4-5 ことばについてのまとめ 【結果の整理と方向性】

##### <普段の生活でよく使う言語>

- 普段の生活でよく使う言語は、「日本語」が48.9%に達している。日本語以外では、「英語」が12.7%と最も多いが、その他、極めて様々な言語がみられる。ビジネスの現場においても“英語の社内公用化”が見られることから、英語での広報やコミュニケーションの充実を図ることも一つの手法ではあるが、統計上は必ずしも英語が普遍化しているとは言えない状況も見て取れるため、やさしい日本語（ルビ付き）の使用あるいは可能な限り、その他の主要な言語（6カ国語については一部既に対応済み）について対応していくことが望ましいと言える。

##### <本人の日本語習熟度>

- 本人の日本語習熟度は、『話すこと』、『聴くこと』、『書くこと』、『読むこと』に分けて質問している。『話すこと』で「自分の考えをまとめて発表することができる」が42.9%、『聴くこと』で「テレビのニュースやドラマがわかる」が52.7%、『書くこと』で「漢字を使ってまとめた文章が書ける」が33.7%、『読むこと』で「新聞や雑誌が読める」が36.1%（いずれも複数回答可）となっている。  
しかし、日常生活における対話で必要と思われる『話すこと』、『聴くこと』については、約半数は何らかの問題を抱えていると言え、また、『書くこと』、『読むこと』における国籍別統計結果を見る限り、地理的な近接性や歴史的背景等から「韓国・朝鮮」や「中国」の国籍の人たちの日本語の習熟度が高く、米国籍の人たちが続いている傾向が明確にみられる。その他の国籍を持つ人たちに向けた日本語習得のための支援のあり方やひらがな・カタカナによる表記への対応等も求められるところである。

##### <日本語の通訳・翻訳の必要性>

- 日本語の通訳・翻訳の必要性は、「通訳・翻訳を頼む必要がない」という回答が25.6%となっており、頼む場合は、「家族」、「友人」が多い。国籍別・言語別統計結果を見てもほとんどが通訳・翻訳を頼む相手としては、「家族」、「友人」が大きな割合を占めている。このことから、プライバシーの問題等を含め、信頼出来る相手に頼む傾向が推測される。  
自由回答欄における意見として、公共施設における多言語対応及び通訳の必要性が寄せられているが、こうした傾向に加え、むしろ、「頼める人がいない」という回答が全体では1.3%であるものの、ベトナムでは5.4%と比較的高くなっている点や、他と比較して国籍別ではペルー、言語別ではスペイン語において、NPOやボランティア団体の割合が高くなっている点などを捉え、行政が一律に通訳・翻訳者を配置するという事にこだわらず、潜在的なニーズの把握に努め、支援していく必要もあると考えられる。

##### <日本語の通訳・翻訳が必要となる場面>

- 日本語の通訳・翻訳が必要となる場面は、「特にない」が22.4%と最も多いが、「手紙やお知らせが届いたとき」、「病院へ行くとき」、「市役所などの手続きをするとき」に通訳・翻訳を必要とする回答が多くなっており、本人の日本語習熟度と高い関連性が見てとれる。  
ただし、あらゆる言語について、すべての範囲をカバーするということが現実的に困難な中で、重要度や緊急度を踏まえ、公的な文書における多言語表示のあり方や公共施設・病院等の窓口における多言語対応をどのように推進していくのかについて検討する必要がある。

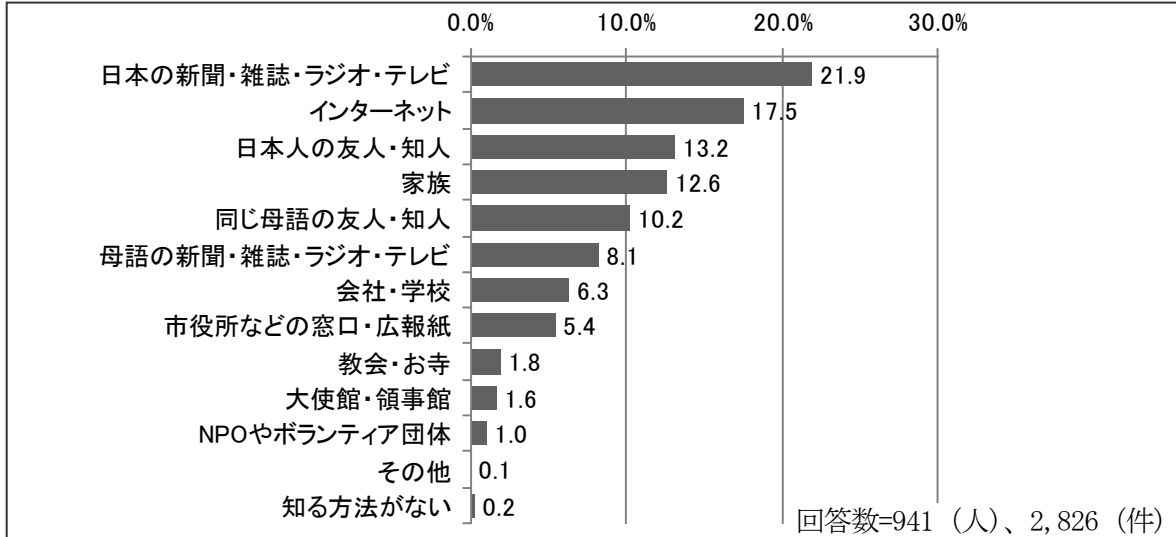
## 5. 情報について

### 5-1 生活に必要な情報の入手方法

Q11 あなたは、生活に必要な情報をどのようにして知りますか。(〇はいくつでも)

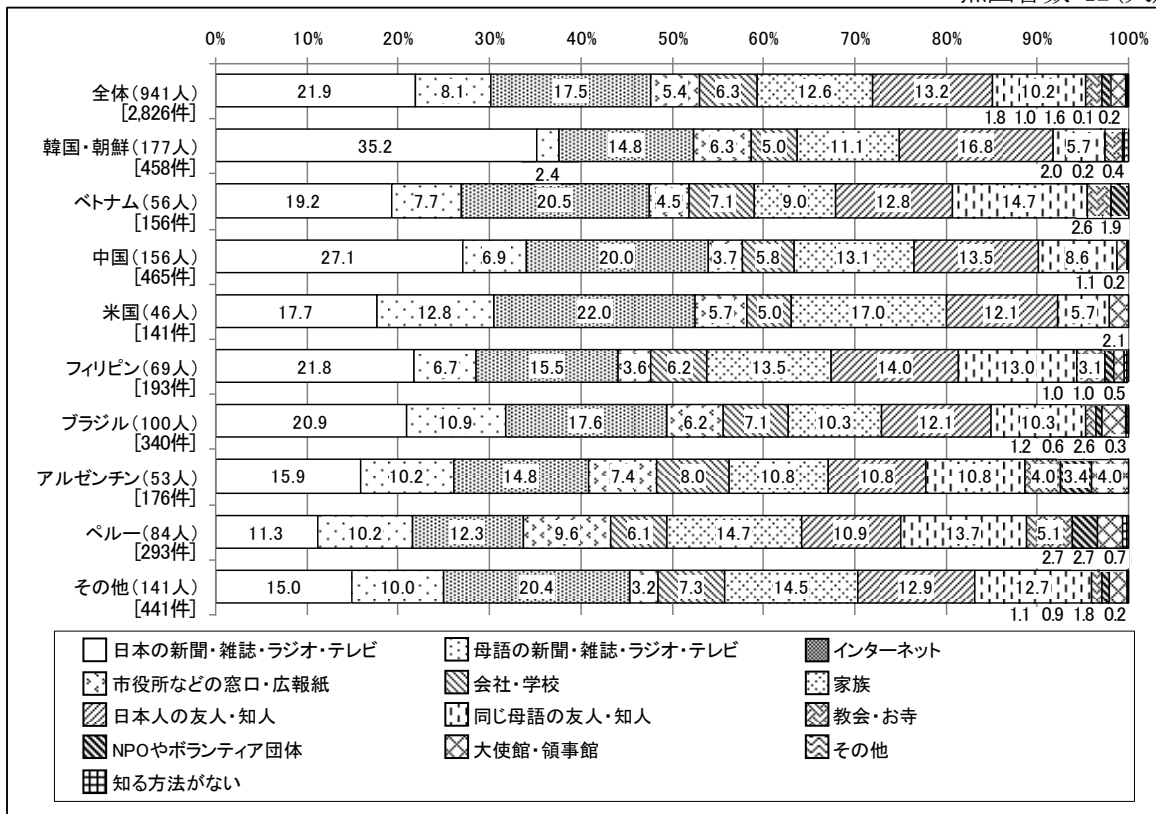
■ 図5-1 生活に必要な情報の入手方法

無回答数=12(人)



■ 図5-2 生活に必要な情報の入手方法 (国籍別)

無回答数=12(人)



国籍 無回答数=59(人)、163(件)

#### <結果概要>

生活に必要な情報の入手方法は、「日本の新聞・雑誌・ラジオ・テレビ」が21.9%と最も多くなっている。次いで、「インターネット」の17.5%、「日本人の友人・知人」の13.2%、「家族」の12.6%、「同じ母語の友人・知人」の10.2%となっている。

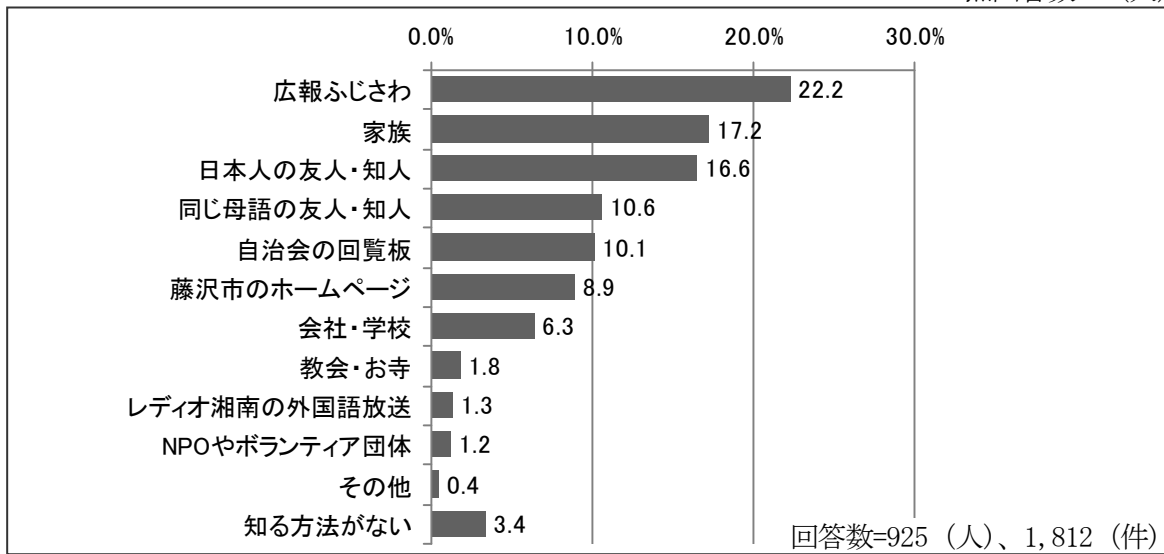
国籍別に生活に必要な情報の入手方法を見ると、韓国・朝鮮、中国では「日本の新聞・雑誌・ラジオ・テレビ」、米国、ベトナム、中国では「インターネット」、米国では「家族」が相対的に多くなっている。

5-2 市の情報の入手方法

Q12 あなたは、藤沢市の情報をどのようにして知りますか。(〇はいくつでも)

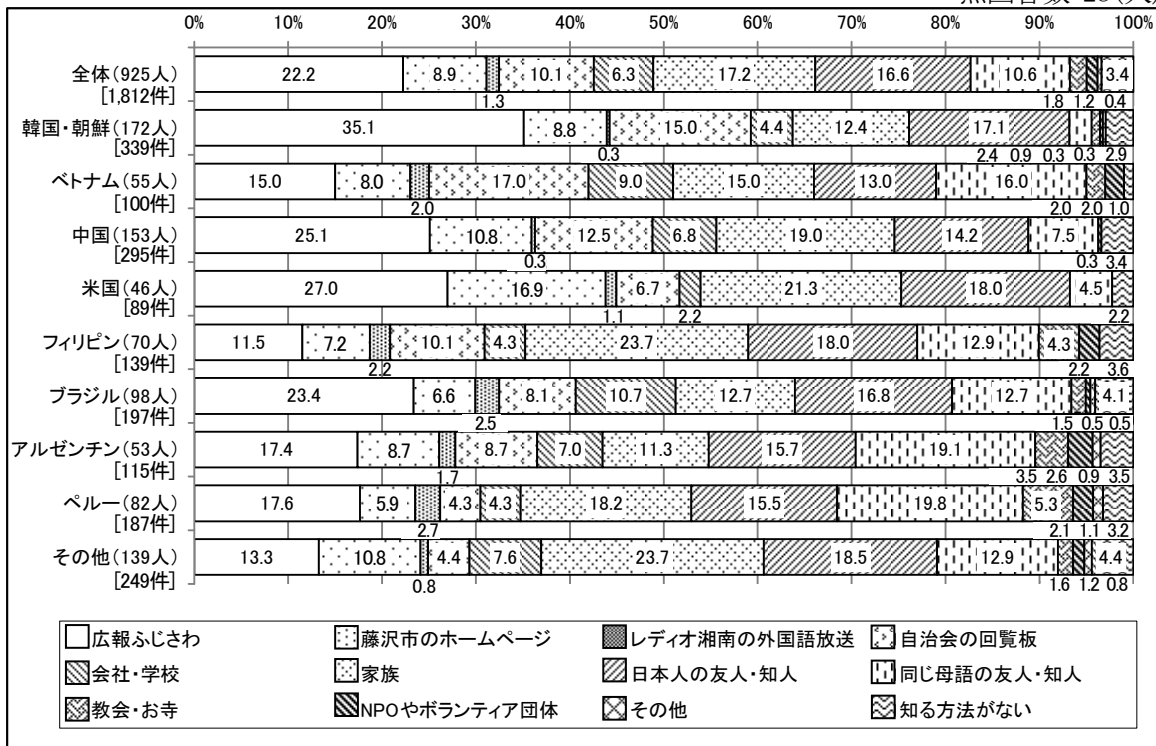
■ 図5-3 市の情報の入手方法

無回答数=28(人)



■ 図5-4 市の情報の入手方法 (国籍別)

無回答数=28(人)



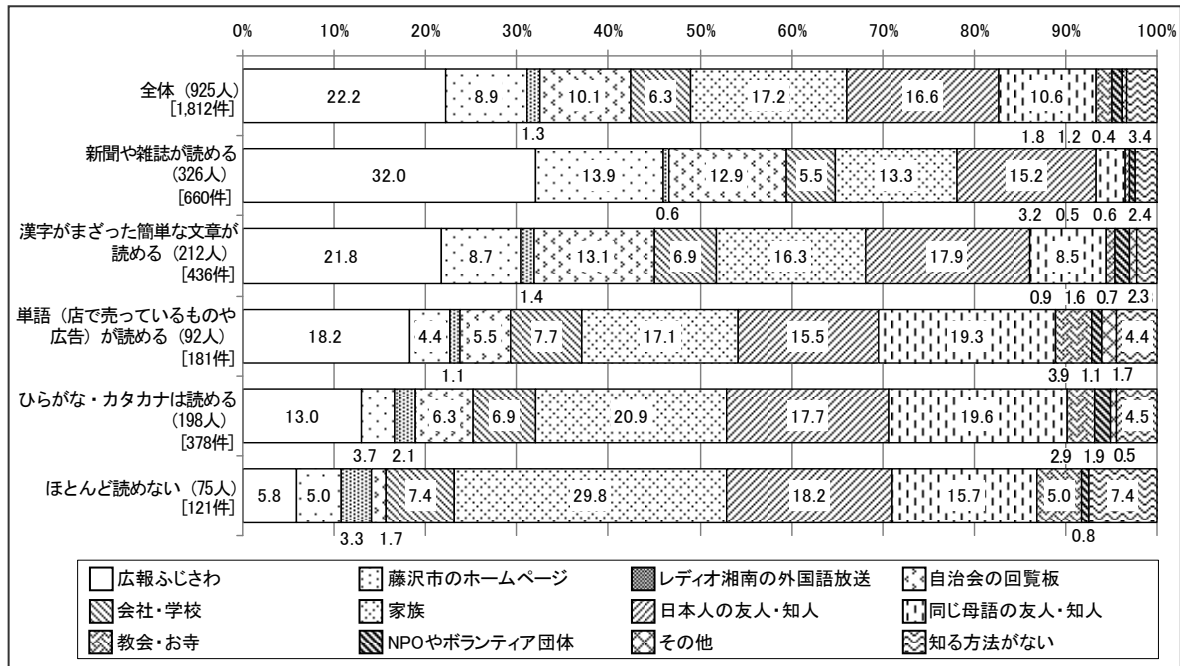
<結果概要>

市の情報の入手方法は、「広報ふじさわ」が22.2%と最も多くなっている。次いで、「家族」の17.2%、「日本人の友人・知人」の16.6%、「同じ母語の友人・知人」の10.6%、「自治会の回覧板」の10.1%となっている。一方、「藤沢市のホームページ」は8.9%であり10%に達していない。

国籍別に市の情報の入手方法を見ると、韓国・朝鮮、米国、中国、ブラジルでは「広報ふじさわ」、フィリピンでは「家族」、ペルー、アルゼンチンでは「同じ母語の友人・知人」が最も多くなっている。ベトナムでは「自治会の回覧板」、「同じ母語の友人・知人」、「広報ふじさわ」、「家族」がほぼ同等の割合で高くなっている。

■ 図5-5 市の情報の入手方法（日本語習熟度 読むこと別）

無回答数=28(人)



日本語習熟度 読むこと 無回答数=22 (人)、36 (件)

＜結果概要＞

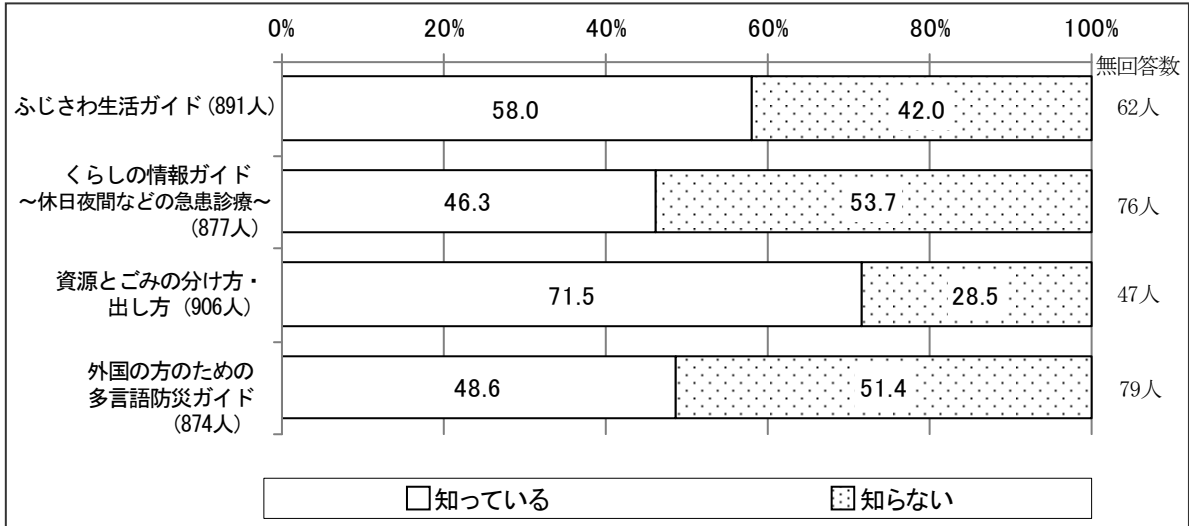
市の情報発信ツールとしては、広報、ホームページ、自治会回覧板等であり、日本語習熟度（読むこと）との相関関係を把握するため、クロス集計による分析を行う。なお、外国語放送など、日本語習熟度（聞くこと）との関係については、「ラジオ湘南の外国語放送」の回答率が低いため、ここでは言及しないものとする。

日本語習熟度（読むこと）別に市の情報の入手方法を見ると、「新聞や雑誌が読める」、「漢字がまざった簡単な文章が読める」では「広報ふじさわ」、「ひらがな・カタカナは読める」、「ほとんど読めない」では「家族」、「単語（店で売っているものや広告）が読める」では「同じ母語の友人・知人」が最も多くなっている。市の情報の入手方法について、日本語習熟度（読むこと）が高くなるにつれ「知る方法がない」が少なくなっている。

5-3 市の多言語による情報提供の認知度

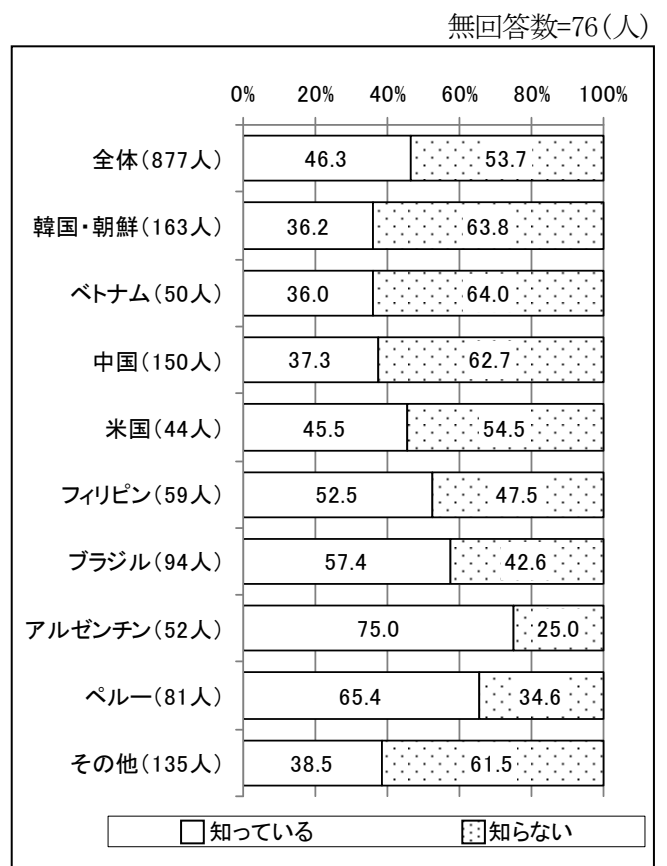
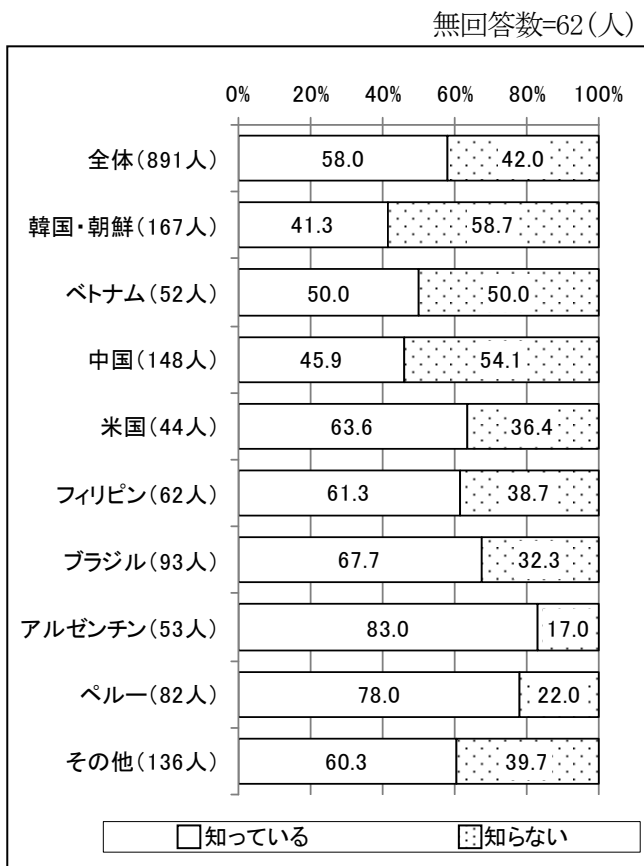
Q13 藤沢市では、外国語による情報提供を行うようにしています。あなたは、次の情報が、外国語で用意されていることを知っていますか。(〇は1つずつ)

■ 図5-6 市の多言語による情報提供の認知度



■ 図5-7 ふじさわ生活ガイド (国籍別)

■ 図5-8 くらしの情報ガイド  
～休日夜間などの急患診療～ (国籍別)

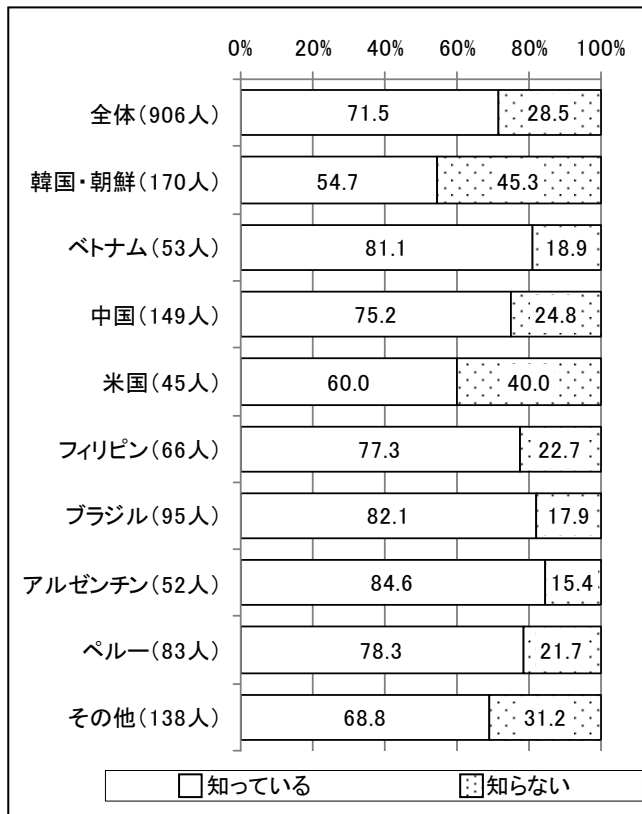


国籍 無回答数=54(人)

国籍 無回答数=49(人)

■ 図5-9 資源とごみの分け方・出し方  
(国籍別)

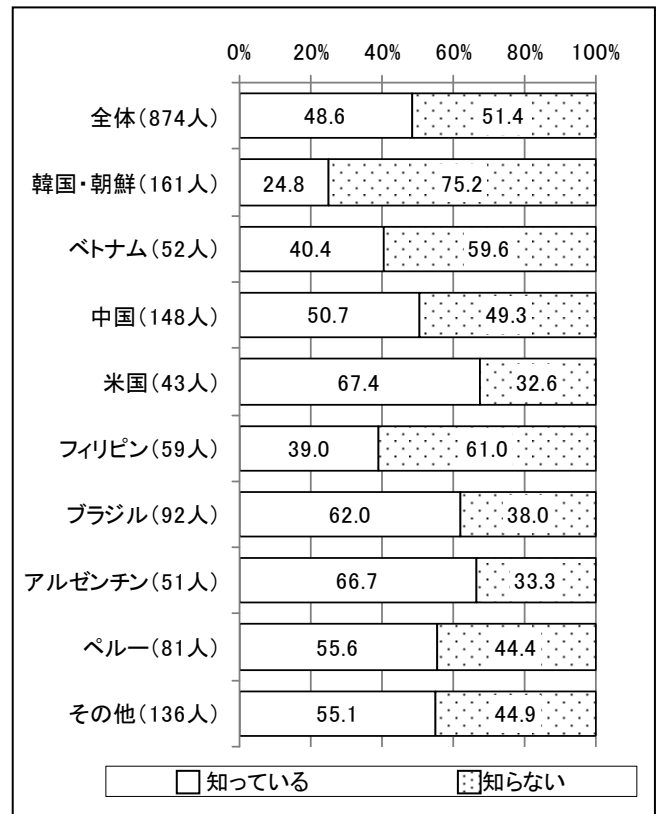
無回答数=47(人)



国籍 無回答数=55(人)

■ 図5-10 外国の方のための多言語防災ガイド  
(国籍別)

無回答数=79(人)



国籍 無回答数=51(人)

<結果概要>

市の多言語による情報提供の認知度は、「資源とごみの分け方・出し方」が71.5%と多くなっている。次いで、「ふじさわ生活ガイド」の58.0%、「外国の方のための多言語防災ガイド」の48.6%、「くらしの情報ガイド～休日夜間などの急患診療～」の46.3%となっている。

国籍別に市の多言語による情報提供の認知度を見ると、「ふじさわ生活ガイド」について、アルゼンチン、ペルー、ブラジル、米国、フィリピンでは「知っている」、韓国・朝鮮、中国では「知らない」が多くなっている。特に、アルゼンチン、ペルーの認知度が高い。

「くらしの情報ガイド～休日夜間などの急患診療～」について、アルゼンチン、ペルー、ブラジル、フィリピンで「知っている」、ベトナム、韓国・朝鮮、中国、米国では「知らない」が多くなっている。同じく、アルゼンチン、ペルーの認知度が高い。

「資源とごみの分け方・出し方」について、全ての国籍で「知っている」が多くなっている。特に、アルゼンチン、ブラジルの認知度が高い。

「外国の方のための多言語防災ガイド」について、米国、アルゼンチン、ブラジル、ペルー、中国では「知っている」、韓国・朝鮮、フィリピン、ベトナムでは「知らない」が多くなっている。同じく、アルゼンチン、ブラジルの認知度が高い。

## 5-4 情報についてのまとめ 【結果の整理と方向性】

### <生活に必要な情報の入手方法>

- 生活に必要な情報の入手方法は、「日本の新聞・雑誌・ラジオ・テレビ」が最多で21.9%に達しており、「インターネット」が17.5%で続いている。その他、「日本人の友人・知人」、「家族」も比較的多くみられるなど、比較的近い関係にある人を通じた情報入手が行われている点にも着目すべきである。こうした傾向は、『Q6 日本語の通訳・翻訳の必要性（通訳・翻訳を誰に頼むか）』の結果として、「家族」「友人」といった回答が高くなっていることとも関係するが、こうした状況をより具体的に把握するとともに、いわゆる地域コミュニティと呼べる状況が構築されているのであれば、それらを通じた情報提供のあり方について検討していく必要がある。

### <市の情報の入手方法>

- 市の情報の入手方法は、「広報ふじさわ」によるものが22.2%と最も多く、「家族」、「日本人の友人・知人」が続いている。広報紙は、市全体として見ても、重要かつ効果的な情報伝達ツールであることや、市民同士をつなぐツールともなり得ることから、日本語習熟度による統計結果なども考慮し、今後も充実させていく必要がある。

### <インターネットによる情報発信の可能性>

- 生活に必要な情報の入手方法は、「インターネット」が比較的高い割合を示したものの、市の情報に限ると、「藤沢市のホームページ」は8.9%に留まっている。このことは、インターネット利用者それ自体が少ないということではなく、むしろ、藤沢市のホームページ上においては、多言語による情報提供が進められているものの、基本的な生活ガイド及び休日夜間などの急患診療のお知らせなど一部に留まっているため、日常的に閲覧する状況にはないことが推測される。ホームページによる情報発信の利点として、即時性のある情報発信が可能な点があげられるが、利用率が高くない原因の把握を行うとともに、外国人市民にとって使い勝手のよいページ構成など、効果的な情報提供の方法について検討を行う必要がある。

### <市の多言語による情報提供の認知度>

- 市の多言語による情報提供の認知度は、「ふじさわ生活ガイド」、「くらしの情報ガイド～休日夜間などの急患診療」、「資源とごみの分け方・出し方」、「外国の方のための多言語防災ガイド」について、それぞれ58.0%、46.3%、71.5%、48.6%で、「資源とごみの分け方・出し方」が最も高く、「ふじさわ生活ガイド」が続いている。このため、日常的に必要な性の高い情報に関心が集まることが推測されるため、こうした点を効果的に活用するとともに、情報内容について、どの程度伝わっているのか、理解されているのかといった状況についても把握することが必要である。

### <情報提供のあり方>

- 基本的に、市による多言語による情報提供は一定程度なされているとも言えるが、自由回答欄の「藤沢市には韓国語のパンフレットがたくさんあり助かるが、どこにあるのかわからず不便に感じている」との意見にも見られるように、まずは既に発行している多言語情報の周知等を進めることが必要である。その上で、単に行政があらゆる情報の多言語版を発行すればよいということではなく、情報化社会にあっては、外国人市民が本当に必要としている情報は何か、対象として国籍や言語をどのように考慮すべきか、といった点を見極めるとともに、他の公的機関を始め、多様な団体がその経験やノウハウを活かした種々の情報を発信している事実もあることから、相互で有効活用を図ることも必要である。
- 他方、『Q5 困っていることや不安なことの内容』の回答として、「災害（地震など）が起きた時の対応」がトップに挙げられているものの、「外国の方のための多言語防災ガイド」の認知度は、全体の約半数に留まっている等、受け手の立場に立った情報提供のあり方を見直すとともに、受け手である外国人市民自らも、情報収集に努める姿勢が求められるところである。

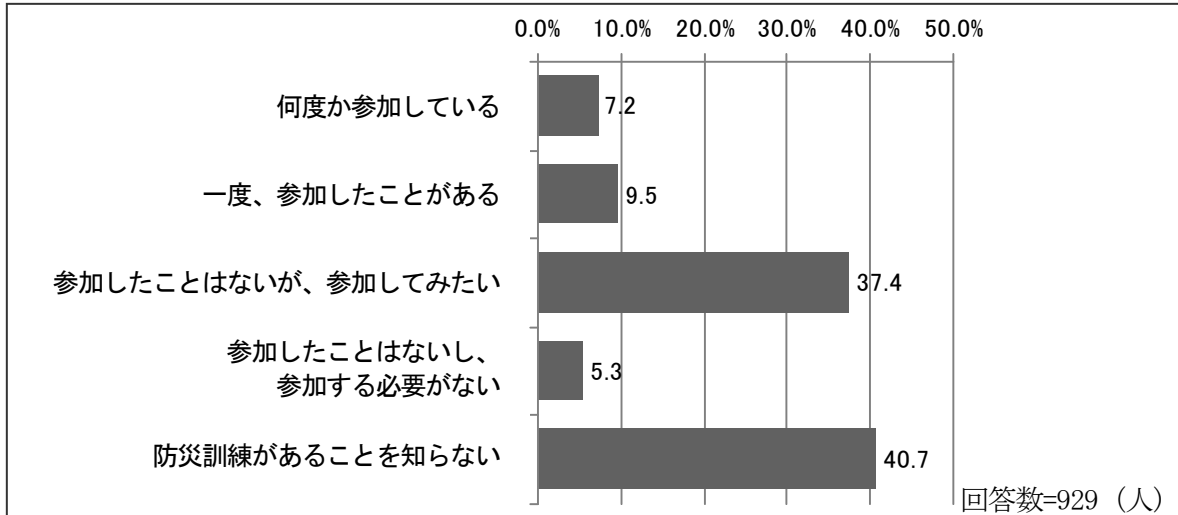
## 6. 防災などについて

### 6-1 防災訓練への参加状況

Q14 藤沢市では、毎年、地域ごとに防災訓練を行っています。あなたは、防災訓練に参加したことがありますか。(〇は1つだけ)

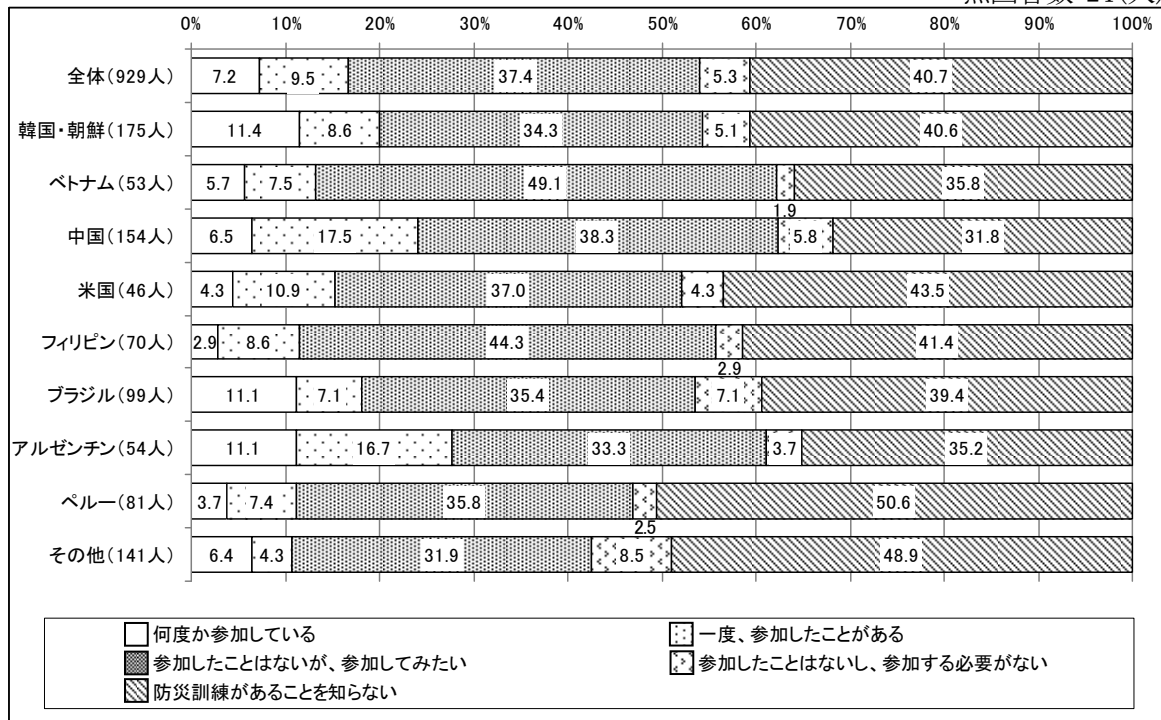
■ 図6-1 防災訓練への参加状況

無回答数=24(人)



■ 図6-2 防災訓練への参加状況 (国籍別)

無回答数=24(人)



国籍 無回答数=56(人)

#### <結果概要>

防災訓練への参加状況は、「防災訓練があることを知らない」が40.7%と最も多くなっている。次いで、「参加したことはないが、参加してみたい」の37.4%、「一度、参加したことがある」の9.5%となっている。

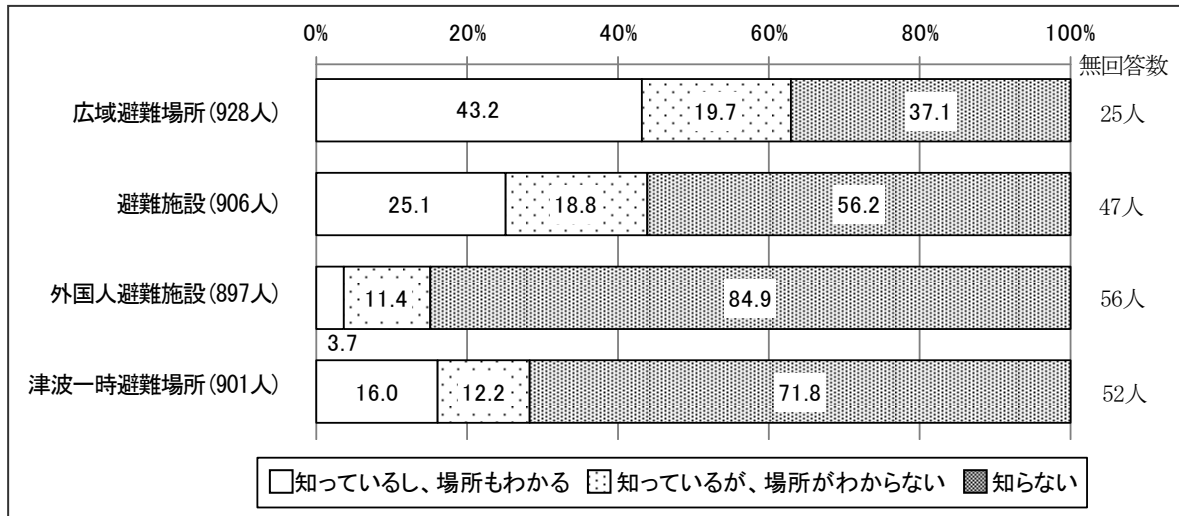
国籍別に防災訓練への参加状況を見ると、ペルーでは「防災訓練があることを知らない」、ベトナム、フィリピン、中国では「参加したことはないが、参加してみたい」が最も多くなっているが、各国ともこの回答が比較的近い割合で均衡している。韓国・朝鮮、ブラジル、アルゼンチンでは「何度か参加している」が比較的多くなっている。



6-2 避難場所の認知度

Q15 あなたは、災害が起きた時に避難する次の場所を知っていますか。(〇は1つずつ)

■ 図6-3 避難場所の認知度

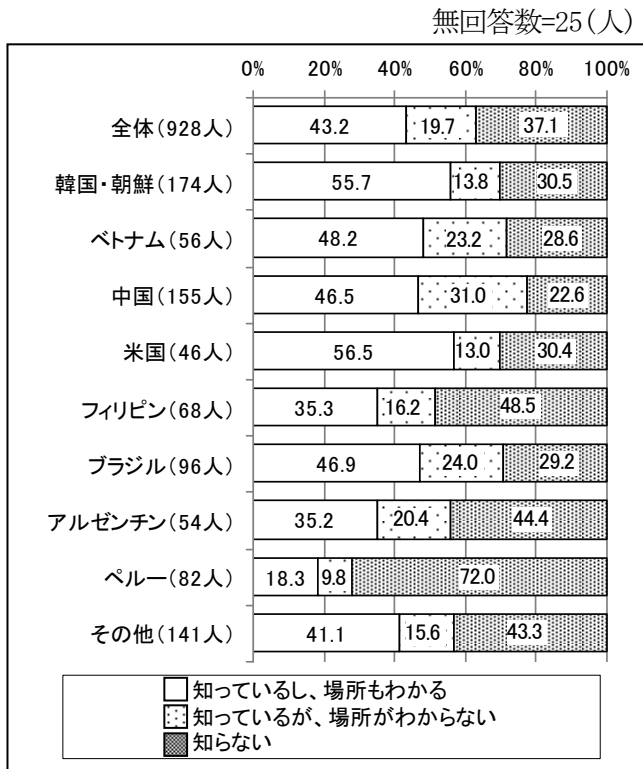


※ 広域避難場所：地震で大火災が起きた時、避難する場所  
 避難施設：家が倒れたりして使えなくなった時、避難する場所  
 外国人避難施設：避難施設の中で、通訳ボランティアの派遣が行われる場所  
 津波一時避難場所：津波災害から一時的に身を守るために避難する場所

<結果概要>

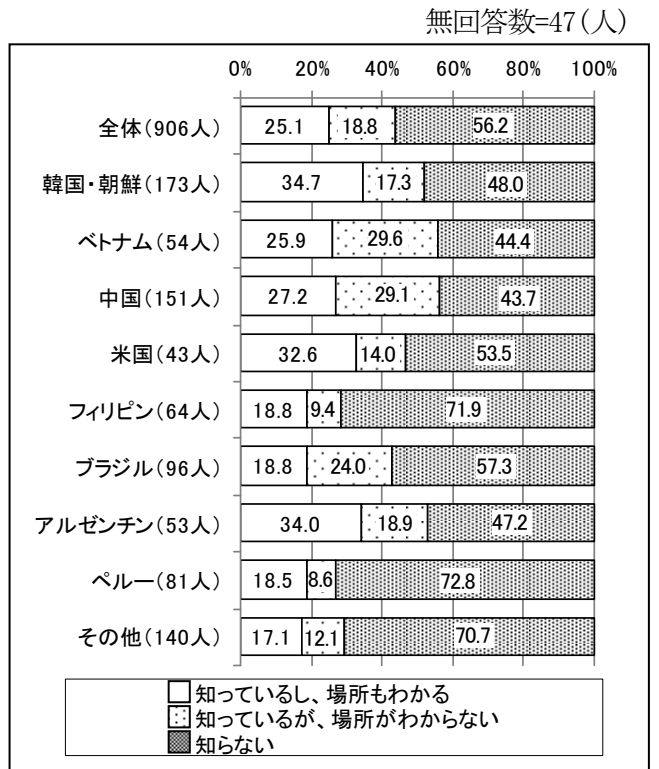
避難場所の認知度は、広域避難場所では「知っているし、場所もわかる」が43.2%と最も多くなっている。次いで、避難施設では「知っているし、場所もわかる」が25.1%、津波一時避難場所では16.0%となっている。なお、市内にある避難施設のうち、国際交流組織等の協力を得て、通訳ボランティアの派遣が予定されている施設である、外国人避難施設については、3.7%となっており、外国人避難施設の認知度が極端に低くなっている。

■ 図6-4 広域避難場所 (国籍別)



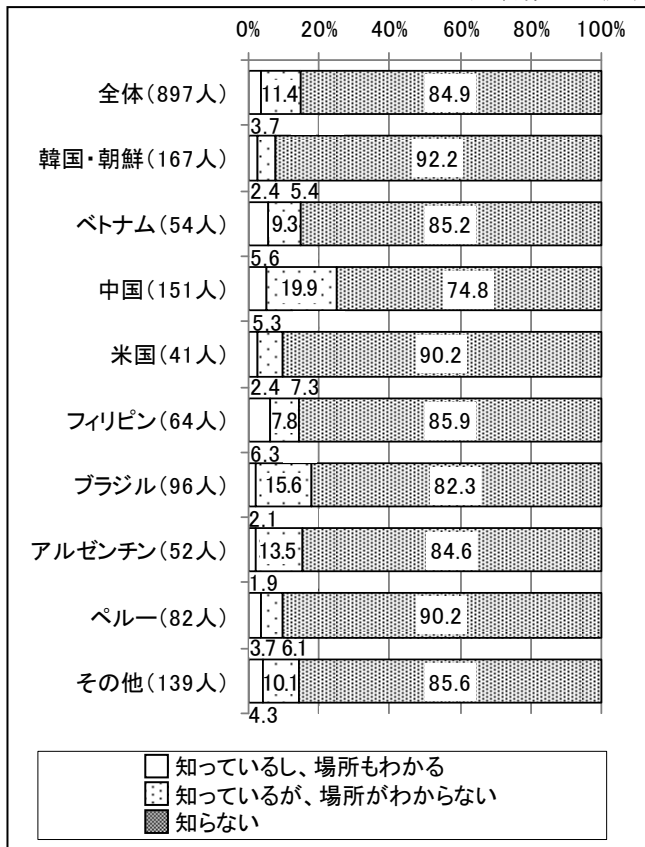
国籍 無回答数=56(人)

■ 図6-5 避難施設 (国籍別)



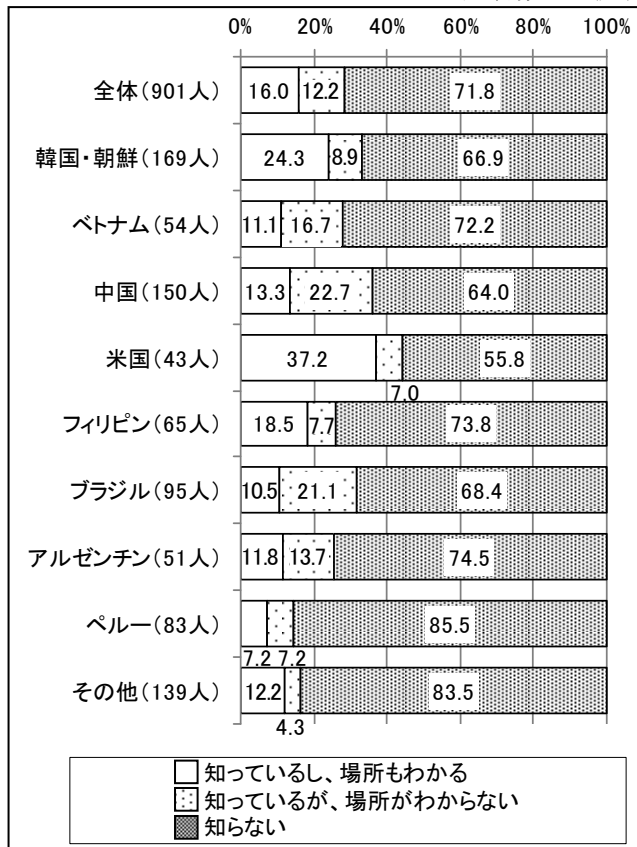
国籍 無回答数=51(人)

■ 図6-6 外国人避難施設(国籍別)  
無回答数=56(人)



国籍 無回答数=51(人)

■ 図6-7 津波施設一時避難場所(国籍別)  
無回答数=52(人)



国籍 無回答数=52(人)

<結果概要>

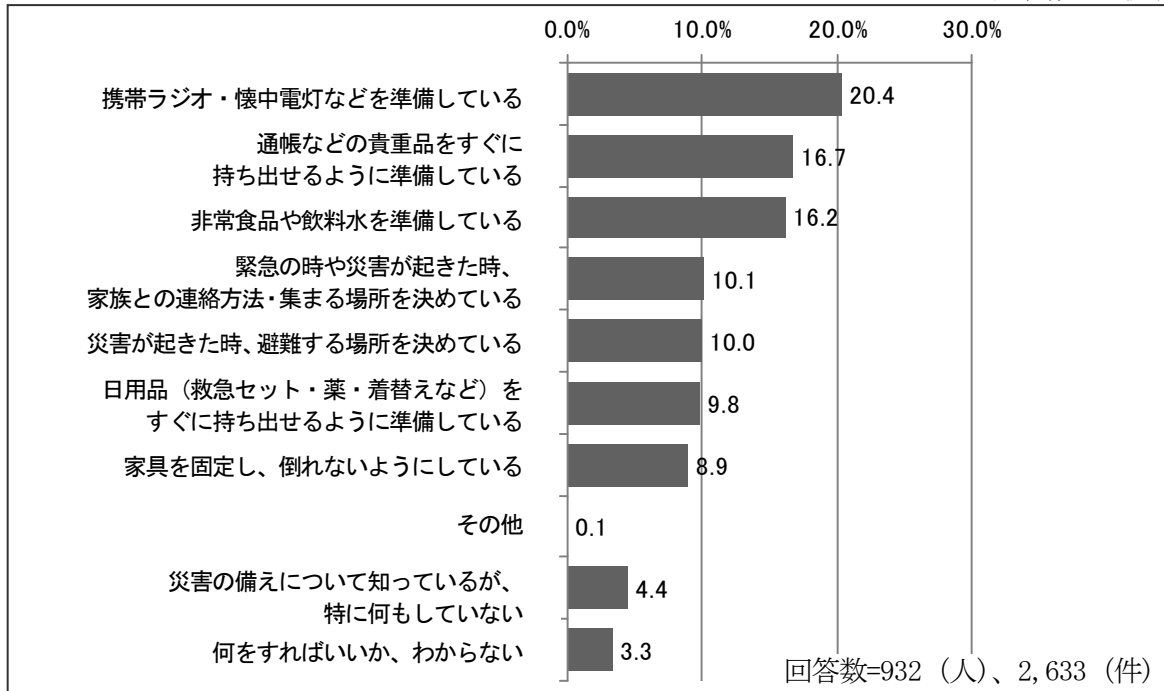
国籍別に避難場所の認知度を見ると、広域避難場所について、米国、韓国・朝鮮、ベトナム、ブラジル、中国では「知っているし、場所もわかる」が最も多く、ペルー、フィリピン、アルゼンチンでは「知らない」が最も多くなっている。避難施設、外国人避難施設、津波一時避難場所について、全ての国籍で「知らない」が最も多くなっている。

6-3 日常的な災害への備え

Q16 あなたは、日ごろから、災害（地震など）への備えをしていますか。（〇はいくつでも）

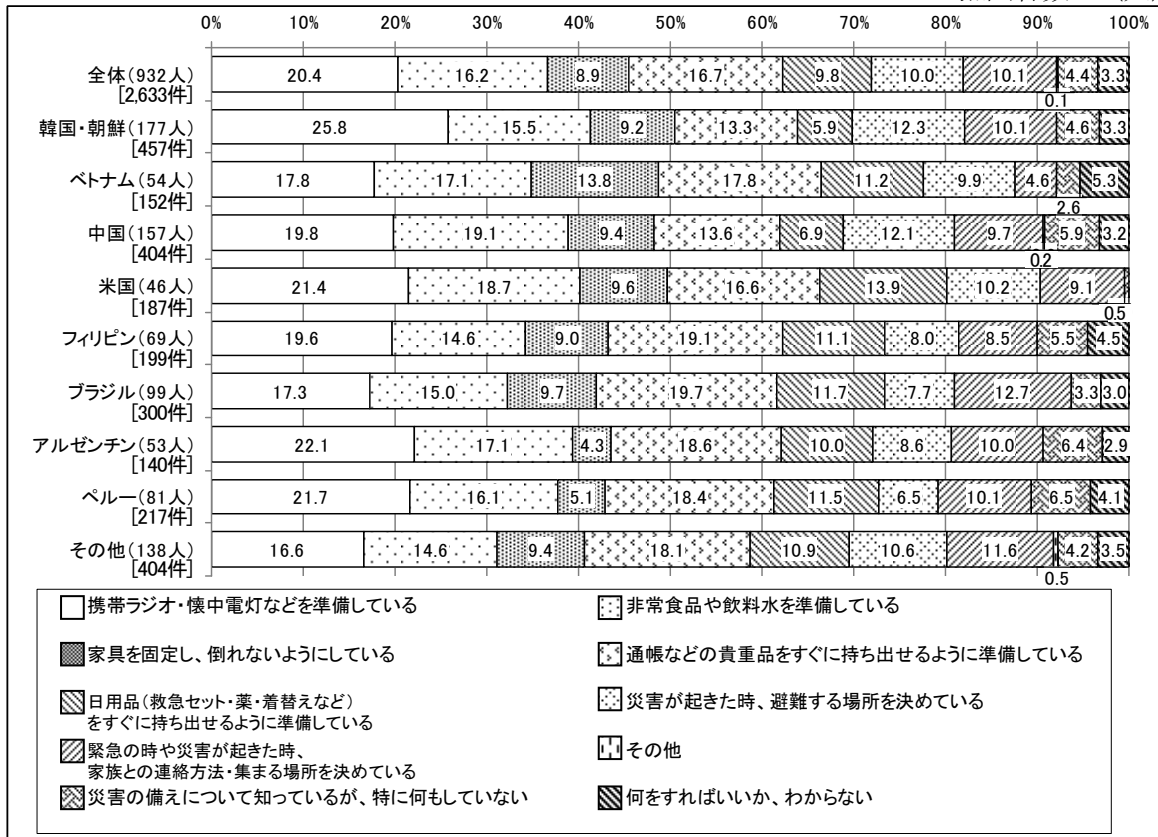
■ 図6-8 日常的な災害への備え

無回答数=21(人)



■ 図6-9 日常的な災害への備え（国籍別）

無回答数=21(人)



国籍 無回答数=58(人)、173(件)

## <結果概要>

---

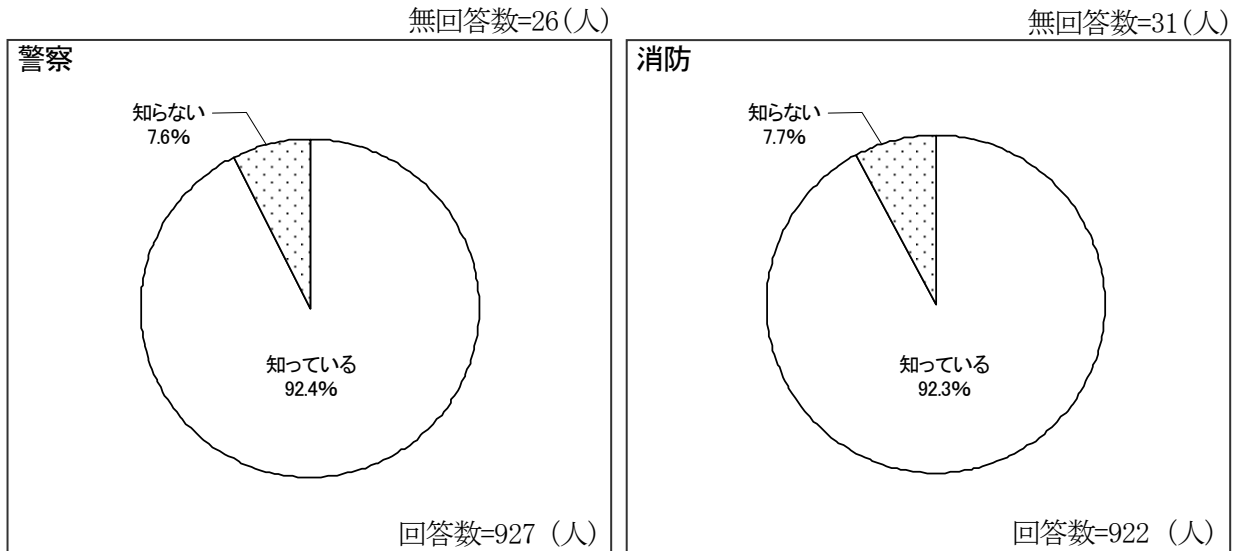
日常的な災害への備えは、「携帯ラジオ・懐中電灯などを準備している」が20.4%と最も多くなっている。次いで、「通帳などの貴重品をすぐに持ち出せるように準備している」の16.7%、「非常食品や飲料水を準備している」の16.2%、「緊急の時や災害が起きた時、家族との連絡方法・集まる場所を決めている」の10.1%、「災害が起きた時、避難する場所を決めている」の10.0%となっている。

国籍別に日常的な災害への備えを見ると、韓国・朝鮮、アルゼンチン、ペルー、米国では「携帯ラジオ・懐中電灯などを準備している」、ブラジルでは「通帳などの貴重品をすぐに持ち出せるように準備している」が最も多くなっている。ベトナムでは「携帯ラジオ・懐中電灯などを準備している」、「通帳などの貴重品をすぐに持ち出せるように準備している」が同数で最も多くなっている。なお、ペルーでは「災害の備えについて知っているが、特に何もしていない」、ベトナムでは「何をすればいいか、わからない」が比較的多くなっている。

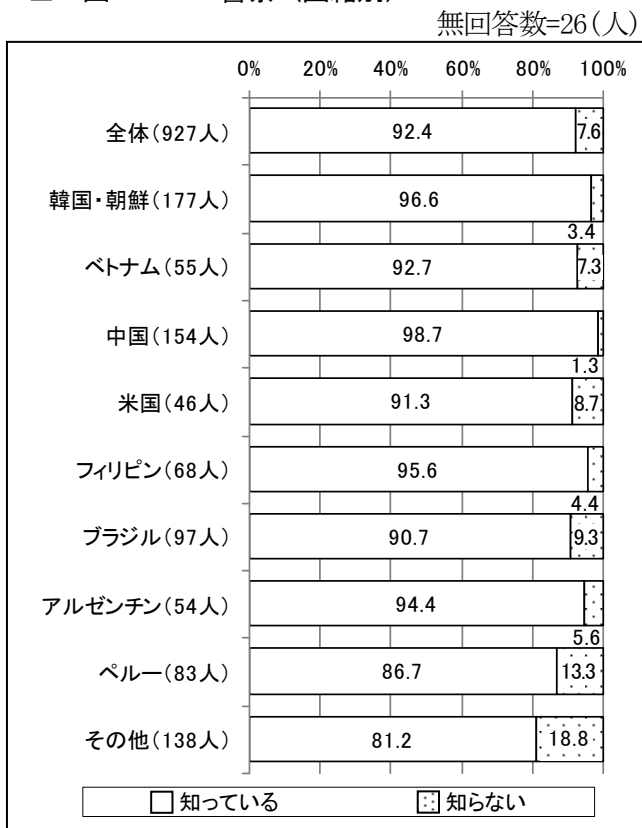
6-4 緊急時の連絡先（警察、消防）の認知度

Q17 あなたは、緊急の時に連絡するための次の電話番号を知っていますか。(〇は1つずつ)

■ 図6-10 緊急時の連絡先（警察、消防）の認知度

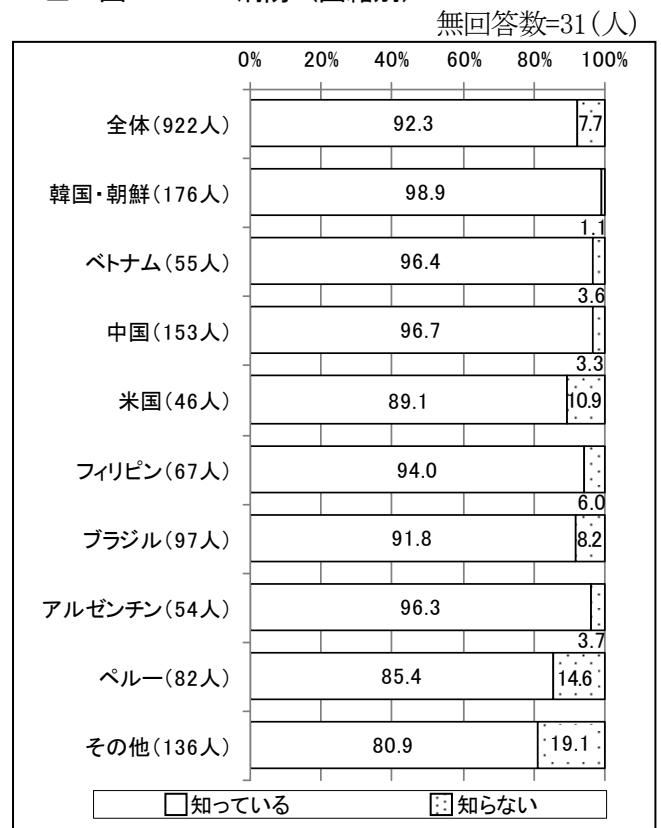


■ 図6-11 警察（国籍別）



国籍 無回答数=55(人)

■ 図6-12 消防（国籍別）



国籍 無回答数=56(人)

<結果概要>

緊急時の連絡先（警察、消防）の認知度は、警察、消防ともに「知っている」がそれぞれ92.4%、92.3%と多くなっている。

国籍別に緊急時の連絡先（警察、消防）の認知度を見ると、ペルーでは警察、消防とも「知っている」が比較的少なくなっている。

## 6-5 防災などについてのまとめ 【結果の整理と方向性】

### <防災訓練への参加状況>

- 防災訓練への参加状況は、「防災訓練があることを知らない」が40.7%と最も多いが、「参加したことはないが、参加してみたい」が37.4%で続いている。『Q5 困っていることや不安なことの内容』の回答としても、「災害（地震など）が起きた時の対応」がトップに挙げられており、対応への不安の声も多い。まずは、参加のための広報やきっかけづくりを行うことで、防災訓練への参加が期待できる。

また、『Q1 現在の生活環境における満足度』において、「自治会など、近所の人とおつきあい」に対する満足度が低いことを踏まえると、防災訓練をきっかけとした自治会やコミュニティ活動への参加促進への効果も期待できる。

### <避難場所の認知度>

- 避難場所の認知度は、「広域避難場所」、「避難施設」、「外国人避難施設」、「津波一時避難場所」について、「知っているし場所もわかる」がそれぞれ43.2%、25.1%、3.7%、16.0%で、特に「外国人避難施設」の認知度が低い。

また、「知らない」、「知っているが場所がわからない」を合わせると、「広域避難場所」、「避難施設」、「外国人避難施設」、「津波一時避難場所」がそれぞれ56.8%、75.0%、96.3%、84.0%と、おおむね6割以上の人が場所を認知していない状況にあり、まずは、それぞれの避難場所をきちんと把握できるような仕組みが求められる。

### <日常的な災害への備え>

- 日常的な災害への備えは、「携帯ラジオ・懐中電灯などを準備している」が20.4%と最も多く、「通帳などの貴重品をすぐに持ち出せるよう準備している」、「非常食品や飲料水を準備している」が続いている。「外国の方のための多言語防災ガイド」には、普段からの対策についても記載されているが、学校や職場等を通じ、適宜周知していくことも大切である。

### <東日本大震災の発生をふまえた体制づくり>

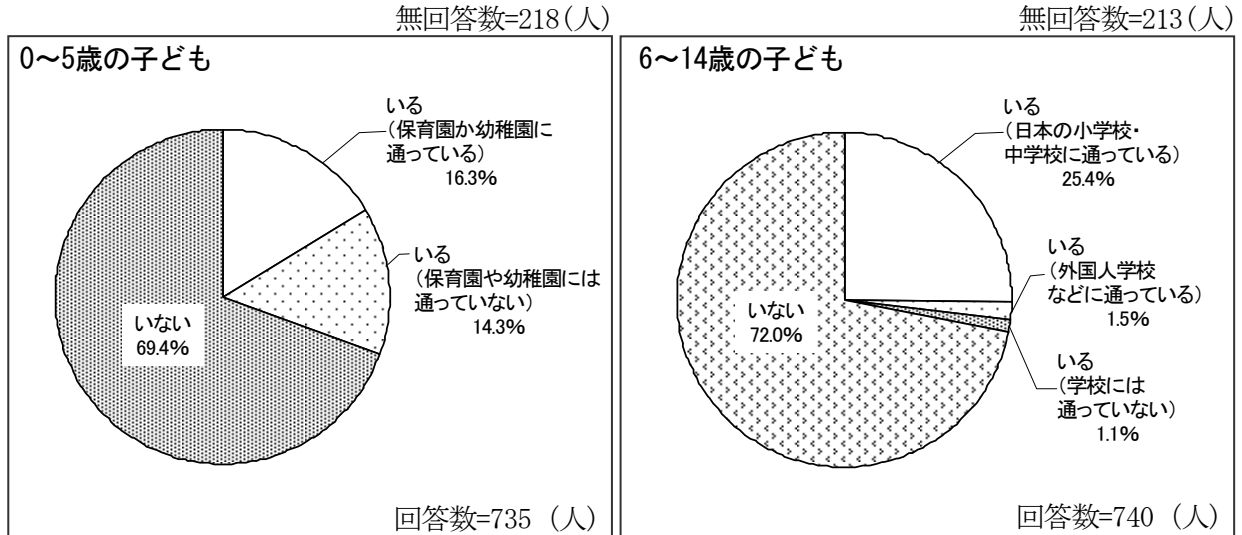
- 東日本大震災の発生により、地域の多文化共生の状況は大きく変化しつつあると言われる。被災地では、とりわけ、母語で情報を得る機会や頼る人の少なさから、外国人はいかにして情報を得るかということが大きな課題となっている。その一方で、震災直後は外国人であることにより、十分な支援を受けることが出来ないのではないか、という不安や心配もあったが、そのようなことはなく、地域住民であることを認識する貴重な機会になったとの声も寄せられているという。
- 災害が発生し、ひとたび被災すれば、“日本人”も“外国人”も同じ被災者となることから、「外国人避難施設」にこだわらない柔軟な体制も求められる。また、そのような中で、外国人市民一人ひとりについても、『Q6 困った時の相談相手』や『Q12 市の情報の入手方法』において、家族・親戚や友人・知人の役割が大きく示されていることから、安否確認を含め、まずはしっかりと災害時における家族などとの連絡手段の確保を行うとともに、家族・親戚、友人・知人を介した地域とつながる自主・自律的な防災体制づくり（ネットワークづくり）に取り組むことも極めて重要といえる。

## 7. 子育てについて

### 7-1 子ども（0～5歳、6～14歳）の有無

Q18 あなたには、0～14歳のお子さんがいますか。（○は1つずつ）

■ 図7-1 子ども（0～5歳、6～14歳）の有無



#### <結果概要>

子ども（0～5歳）の有無は、「いない」が69.4%と最も多く、次いで、「いる（保育園か幼稚園に通っている）」の16.3%、「いる（保育園や幼稚園には通っていない）」の14.3%となっている。

子ども（6～14歳）の有無は、「いない」が72.0%と最も多く、次いで、「いる（日本の小学校・中学校に通っている）」の25.4%となっている。

0～5歳の子どもがいると回答した人は225人（うち0～5歳の子どものみの人は147人）、6～14歳の子どもがいると回答した人は207人（うち6～14歳の子どものみの人は129人）、いずれもいると回答した人は78人であり、全体としては、354人が0～14歳の子どもがいると回答している。

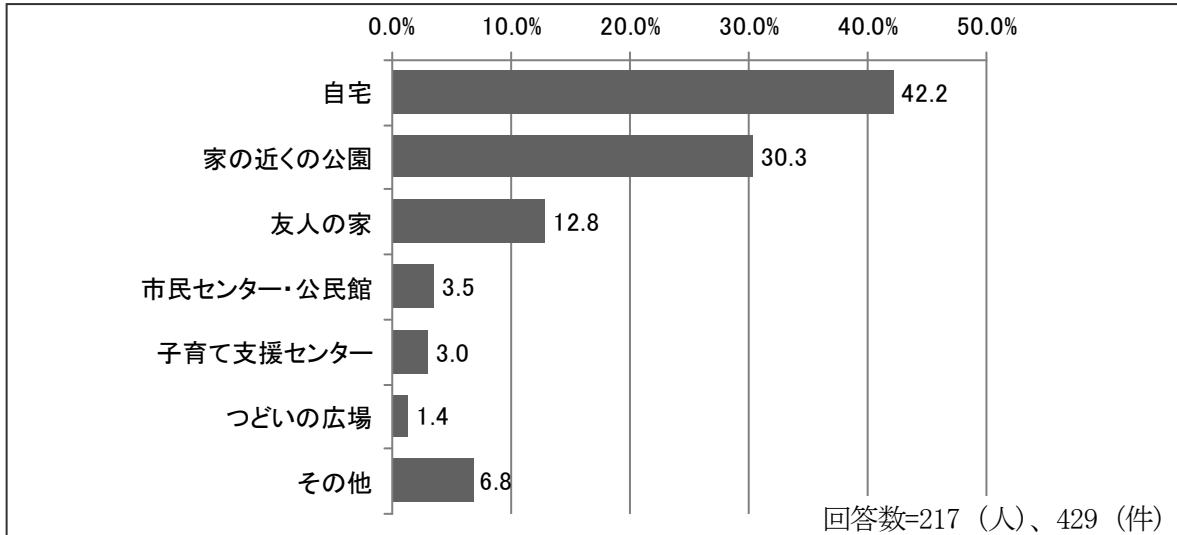
なお、当設問に対する無回答数が比較的多く見られるが、子どものいない回答者が自分に関係のない設問と判断し回答しなかったことが推測される。

7-2 子ども（0～5歳）の居場所

Q19 0～5歳のお子さんがいる方にお聞きします。  
あなたは、普段（日中）、お子さんと一緒にいる場所はどこですか。（〇はいくつでも）

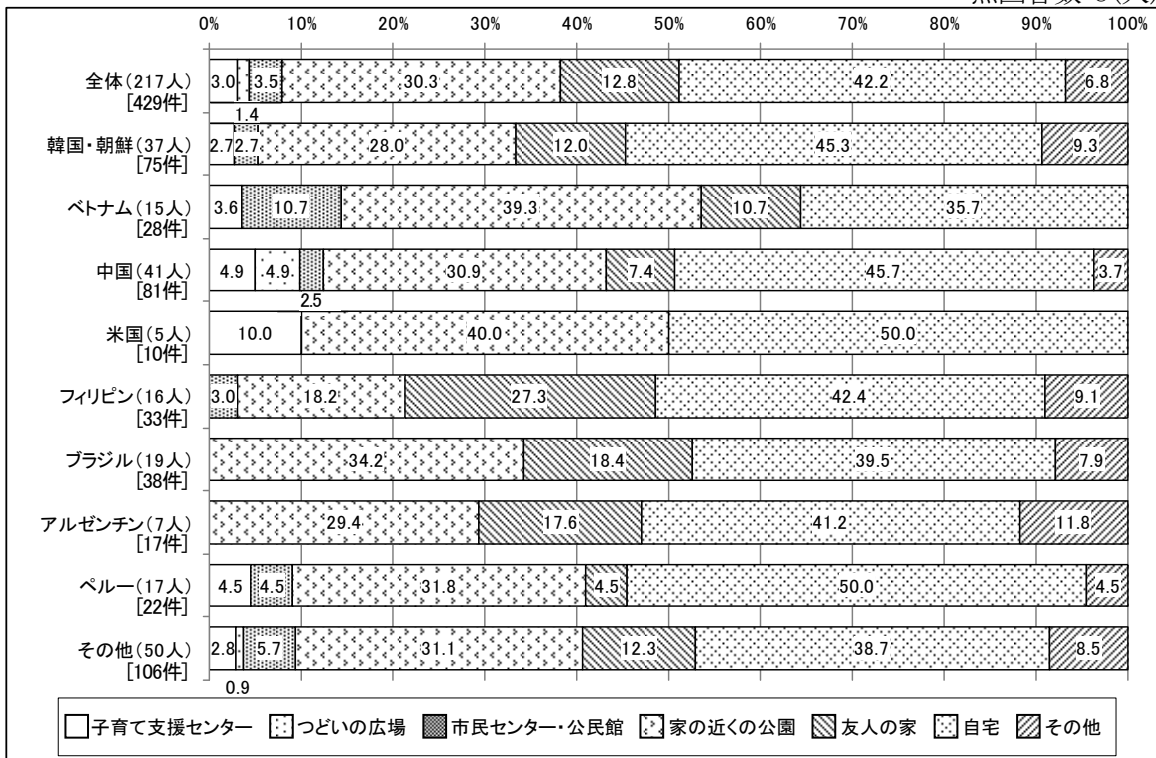
■ 図7-2 子ども（0～5歳）の居場所

無回答数=8(人)



■ 図7-3 子ども（0～5歳）の居場所（国籍別）

無回答数=8(人)



国籍 無回答数=10(人)、19(件)

<結果概要>

子ども（0～5歳）の居場所は、「自宅」が42.2%と最も多くなっている。次いで、「家の近くの公園」の30.3%、「友人の家」の12.8%となっている。その他として、「デパート・ショッピングモール等の民間商業施設」が挙げられている。

国籍別に子ども（0～5歳）の居場所を見ると、全ての国籍で「自宅」が最も多く、「子育て支援センター」、「つどいの広場」、「市民センター・公民館」について、国籍別で見ても少なくなっている。



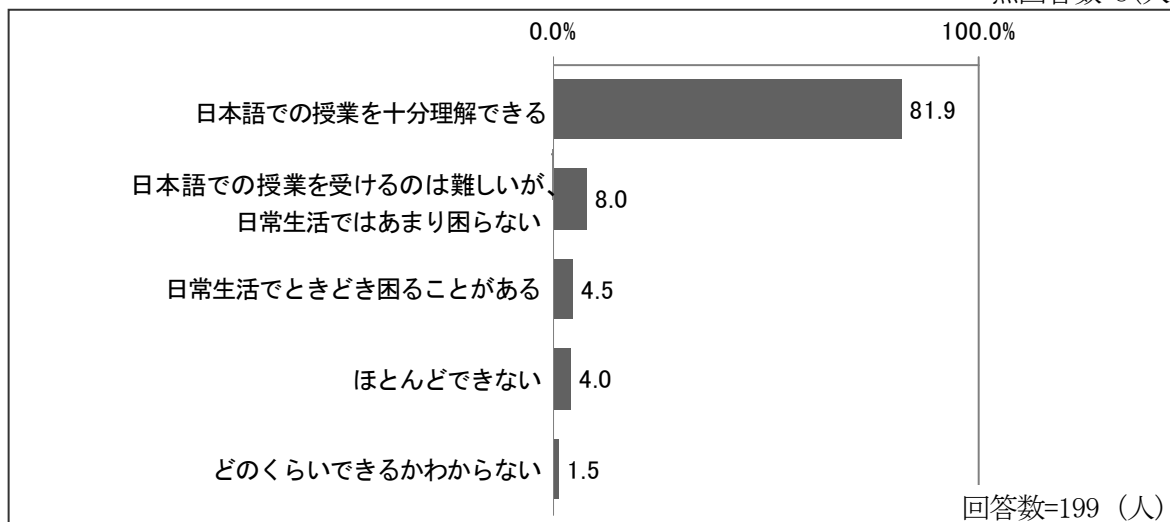
### 7-3 子ども（6～14歳）の日本語習熟度

Q20 6～14歳のお子さんがある方にお聞きます。

あなたのお子さんは、どのくらい日本語ができますか。（〇は1つだけ）

■ 図7-4 子ども（6～14歳）の日本語習熟度

無回答数=8(人)



#### <結果概要>

子ども（6～14歳）の日本語習熟度は、「日本語での授業を十分理解できる」が81.9%と最も多く、次いで、「日本語での授業を受けるのは難しいが、日常生活ではあまり困らない」の8.0%となっている。一方、「日常生活でときどき困ることがある」、「ほとんどできない」はそれぞれ4.5%、4.0%と少なくなっている。

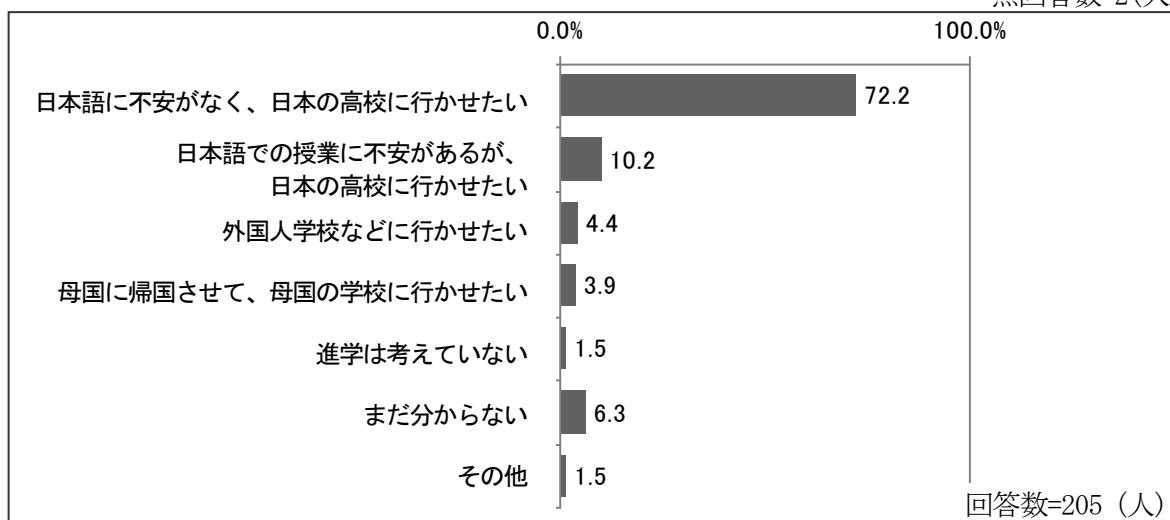
### 7-4 子ども（6～14歳）の中学校卒業後の進路希望

Q21 6～14歳のお子さんがある方にお聞きます。

中学校卒業後の進路について、どのように考えていますか。（〇は1つだけ）

■ 図7-5 子ども（6～14歳）の中学校卒業後の進路希望

無回答数=2(人)



#### <結果概要>

子ども（6～14歳）の中学校卒業後の進路希望は、「日本語に不安がなく、日本の高校に行かせたい」が72.2%と最も多く、次いで、「日本語での授業に不安があるが、日本の高校に行かせたい」の10.2%、「まだ分からない」の6.3%となっている。一方、「外国人学校などに行かせたい」、「母国に帰国させて、母国の学校に行かせたい」はそれぞれを4.4%、3.9%と少なくなっている。

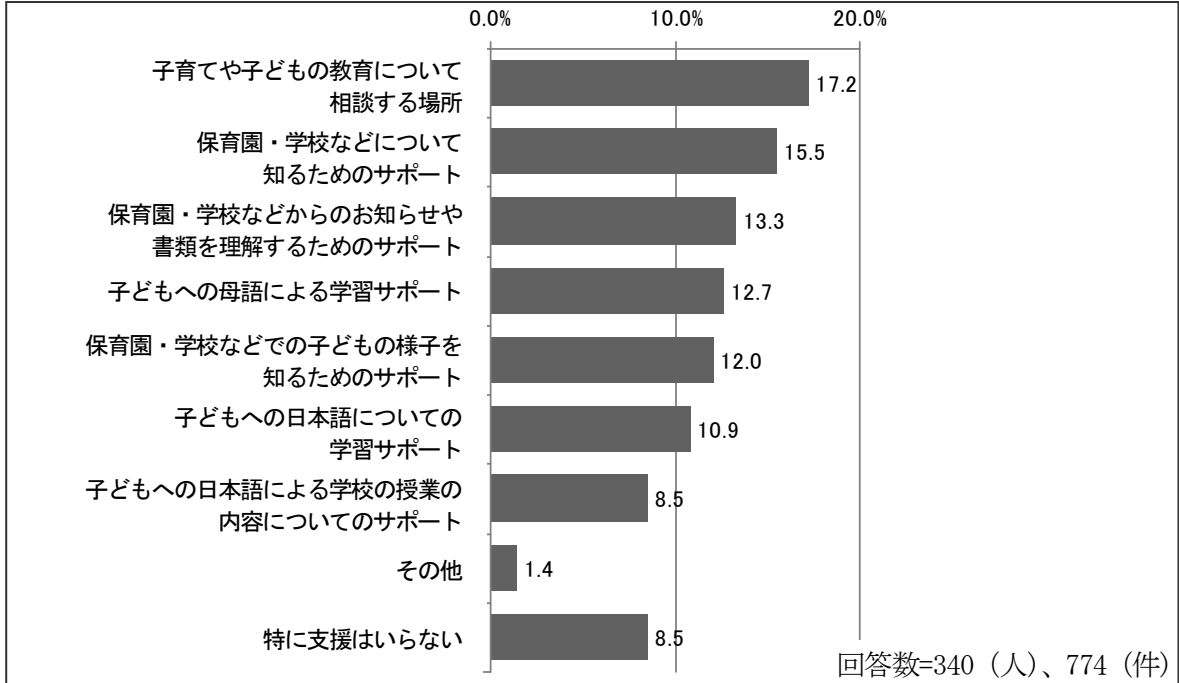
7-5 必要と思われる子育て支援の内容

Q22 0~14歳のお子さんがある方にお聞きします。

あなたは、子育てについて、どんな支援があればいいと思いますか。(〇はいくつでも)

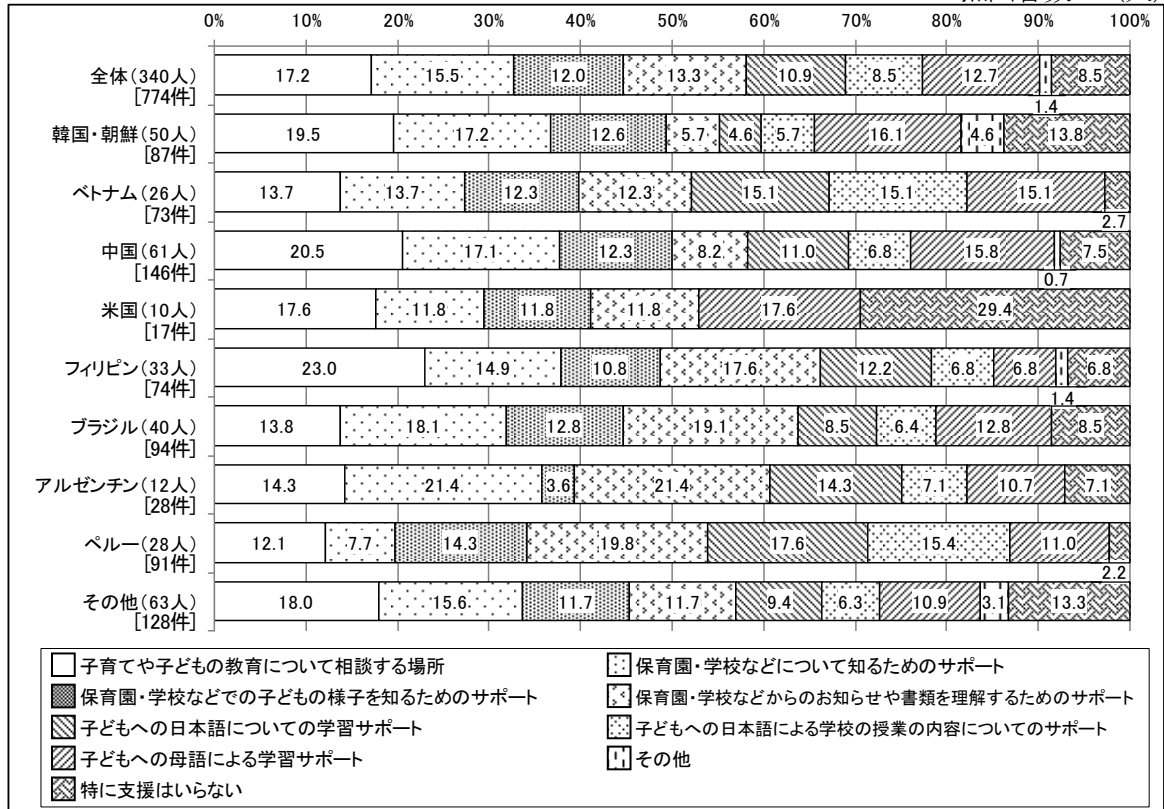
■ 図7-6 必要と思われる子育て支援の内容

無回答数=14(人)



■ 図7-7 必要と思われる子育て支援の内容(国籍別)

無回答数=14(人)



## <結果概要>

---

必要と思われる子育て支援の内容は、「子育てや子どもの教育について相談する場所」が17.2%と最も多くなっている。次いで、「保育園・学校などについて知るためのサポート」の15.5%、「保育園・学校などからのお知らせや書類を理解するためのサポート」の13.3%、「子どもへの母語による学習サポート」の12.7%、「保育園・学校などでの子どもの様子を知るためのサポート」の12.0%となっている。

国籍別に必要と思われる子育て支援の内容を見ると、フィリピン、中国、韓国・朝鮮では「子育てや子どもの教育について相談する場所」、ペルー、ブラジルでは「保育園・学校などからのお知らせや書類を理解するためのサポート」、米国では「特に支援はらない」が最も多くなっている。また、アルゼンチンでは「保育園・学校などについて知るためのサポート」、「保育園・学校などからのお知らせや書類を理解するためのサポート」、ベトナムでは「子どもへの日本語についての学習サポート」、「子どもへの日本語による学校の授業の内容についてのサポート」、「子どもへの母語による学習サポート」が最も多くなっている。

## 7-6 子育てについてのまとめ 【結果の整理と方向性】

### <子ども（0～5歳、6～14歳）の有無>

- 子ども（0～5歳、6～14歳）の有無は、「0～5歳の子どもがいる」が30.6%で、「保育園か幼稚園に通っている」割合は16.3%である。「6～14歳の子どもがいる」が28.0%で、「日本の小学校・中学校に通っている」割合は25.4%である。「外国人学校などに通っている」は1.5%である。

### <子ども（0～5歳）の居場所>

- 子ども（0～5歳）の居場所は、「自宅」が42.2%であり、「家の近くの公園」が続いている。一方、「子育て支援センター」、「つどいの広場」、「市民センター・公民館」といった公共施設を利用しているという回答は少ない。その理由としては、言葉の壁や施設自体になじみがないなど、何らかの利用しづらい環境があることが推測される。一般に子どもを通じた交流は、同じ悩みを抱える者として、何らかのきっかけさえつかめれば、自然なお付き合いやネットワークづくりが比較的成り立ちやすい分野であるため、「子どもの居場所づくり」に積極的に取り組んでいる中、外国人市民のニーズや懸念を適切に把握し、支援につなげていくことが大切である。

### <子ども（6～14歳）の日本語習熟度>

- 子ども（6～14歳）の日本語習熟度は、「日本語での授業を理解できる」が81.9%、「日本語での授業を受けるのは難しいが、日常生活ではあまり困らない」が8.0%と、9割近くの子どもがそれほど日本語に問題を感じていないことがわかる。ただし、数は少なくとも、ことばの問題を抱えている子どもたちを支援していくことは極めて重要である。
- 特に、思春期には、一般的に外国人児童生徒が、学校生活においてアイデンティティ、ことば、進路等の様々な課題に直面し、不就学や不登校となる事例もある。学校生活を楽しく、生き生きと過ごせるよう、外国人市民の母国の文化や言語の紹介など、互いの異なる文化を認め合い、人権を尊重する取り組みとしての相互理解の推進も必要といえる。
- こうした状況において、市内で活動している日本語支援団体の果たす役割は極めて大きいものがあり、外国人児童生徒の“心のよりどころ”となっている。こうした団体の活動を通じた支援・交流のあり方も併せて検討することが求められる。

### <子ども（6～14歳）の中学校卒業後の進路希望>

- 子ども（6～14歳）の中学校卒業後の進路希望は、「日本語に不安がなく、日本の高校に行かせたい」が72.2%と回答している。やはり数は多くないものの、「日本語での授業に不安があるが、日本の高校に行かせたい」という回答が10.2%あることから、こうした生徒に対する安定した支援が求められる。
- 当調査に関して言えば、こうした子どもの親の世代を含む回答として、『Q8 本人の日本語習熟度』との差異は明らかであり、また、『Q35 市に住む予定』を見ても、今後も藤沢市に住み続ける予定の人が7割近いことから、家族やコミュニティへの影響を踏まえると、家族間や世代間の言語能力のギャップを埋めることも必要であると考えられる。

### <必要と思われる子育て支援の内容>

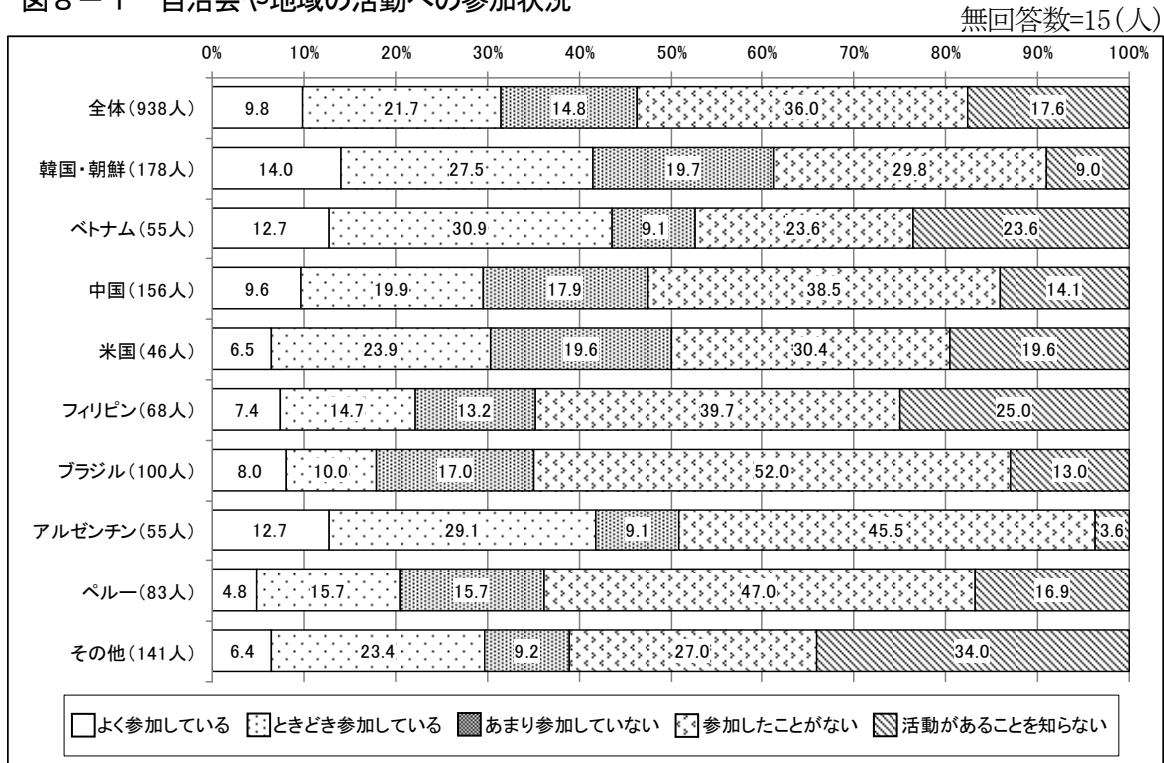
- 必要と思われる子育て支援の内容は、「子育てや子どもの教育について相談する場所」が17.2%と最も多く、「保育園・学校などについて知るためのサポート」、「保育園・学校などからのお知らせや書類を理解するためのサポート」が続いており、子どもの親を対象とするサポートが比較的多くなっている。保育・教育現場においては、サポート体制が図られている面もあるものの、支援策に対する要望割合に大きな差異はみられないことから、相談体制の充実を基本としつつ、重要度や優先度を考慮した具体的施策を推進していくことが必要である。
- 『Q5 困っていることや不安なことの内容』として、「子どもの学校・教育」は、6.9%とそれほど高い割合ではなかったものの、この分野においては、デリケートな問題も多く、悩みや不安が顕在化しにくいいため、きめ細やかに対応していく必要もある。

## 8. 地域活動について

### 8-1 自治会や地域の活動への参加状況

Q23 あなたは、自治会や地域の活動（町のそうじ・お祭りなど）に参加していますか。（〇は1つだけ）

■ 図8-1 自治会や地域の活動への参加状況



#### <結果概要>

自治会や地域の活動への参加状況は、「参加したことがない」が36.0%と最も多くなっている。次いで、「ときどき参加している」の21.7%、「活動があることを知らない」の17.6%となっている。

国籍別に自治会や地域の活動への参加状況を見ると、ブラジル、ペルー、アルゼンチン、フィリピン、中国では「参加したことがない」、ベトナムでは「ときどき参加している」が最も多くなっている。

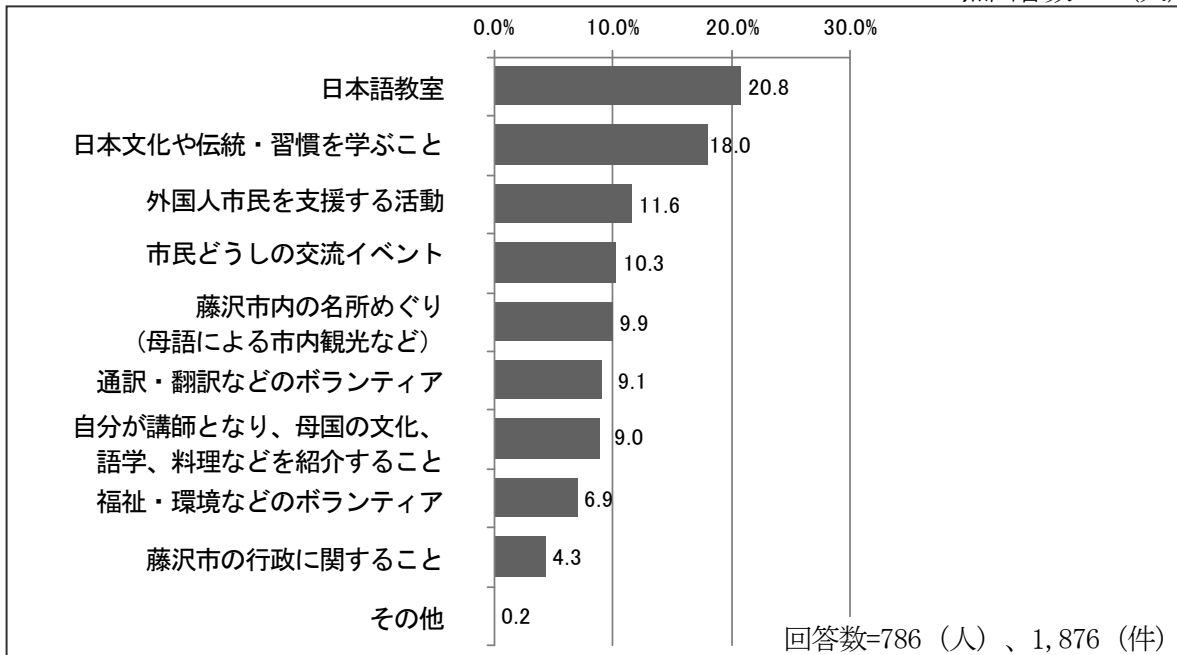
「よく参加している」、「ときどき参加している」の割合を見ると、ベトナム、アルゼンチン、韓国・朝鮮が比較的が多くなっている。

8-2 講座や活動への参加意欲

Q24 あなたが次のうち参加してみたいと思うのはどれですか。(〇はいくつでも)

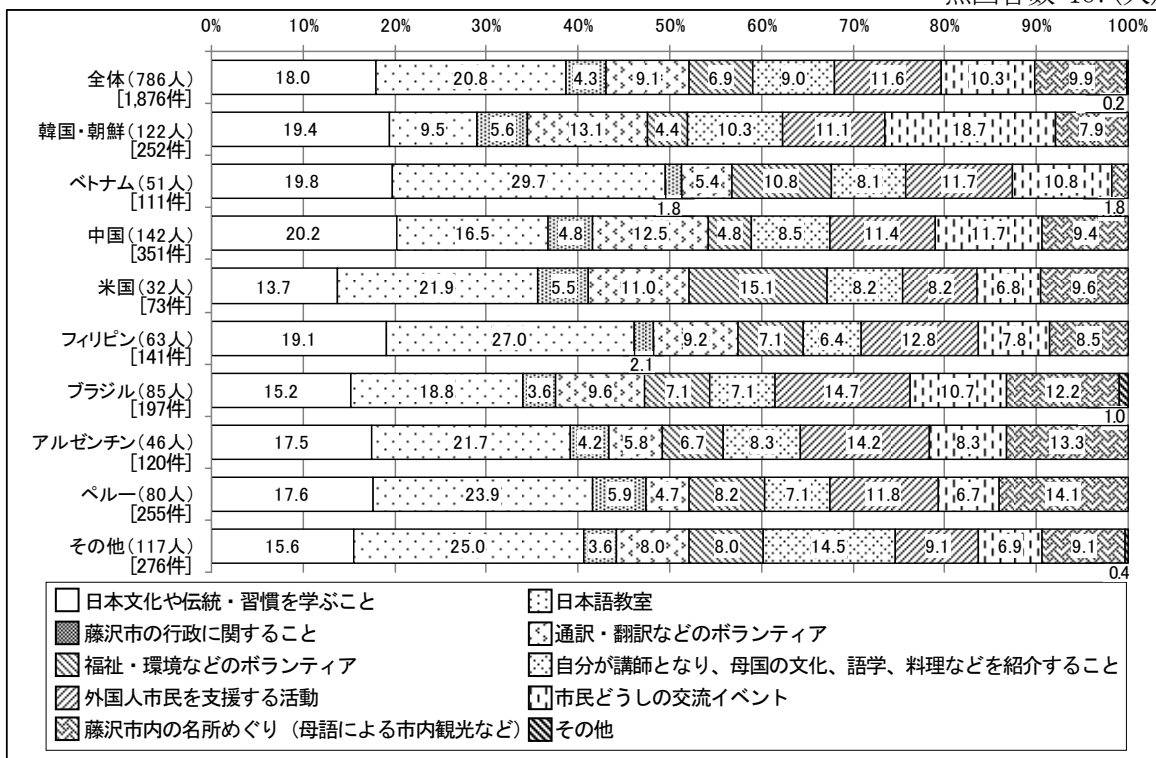
■ 図8-2 講座や活動への参加意欲

無回答数=167(人)



■ 図8-3 講座や活動への参加意欲 (国籍別)

無回答数=167(人)



<結果概要>

講座や活動への参加意欲は、「日本語教室」が20.8%と最も多くなっている。次いで、「日本文化や伝統・習慣を学ぶこと」の18.0%、「外国人市民を支援する活動」の11.6%、「市民どうしの交流イベント」の10.3%、「藤沢市内の名所めぐり (母語による市内観光など)」の9.9%となっている。

国籍別に講座や活動への参加意欲を見ると、ベトナム、フィリピン、ペルーでは「日本語教室」、中国、韓国・朝鮮では「日本文化や伝統・習慣を学ぶこと」が最も多くなっている。

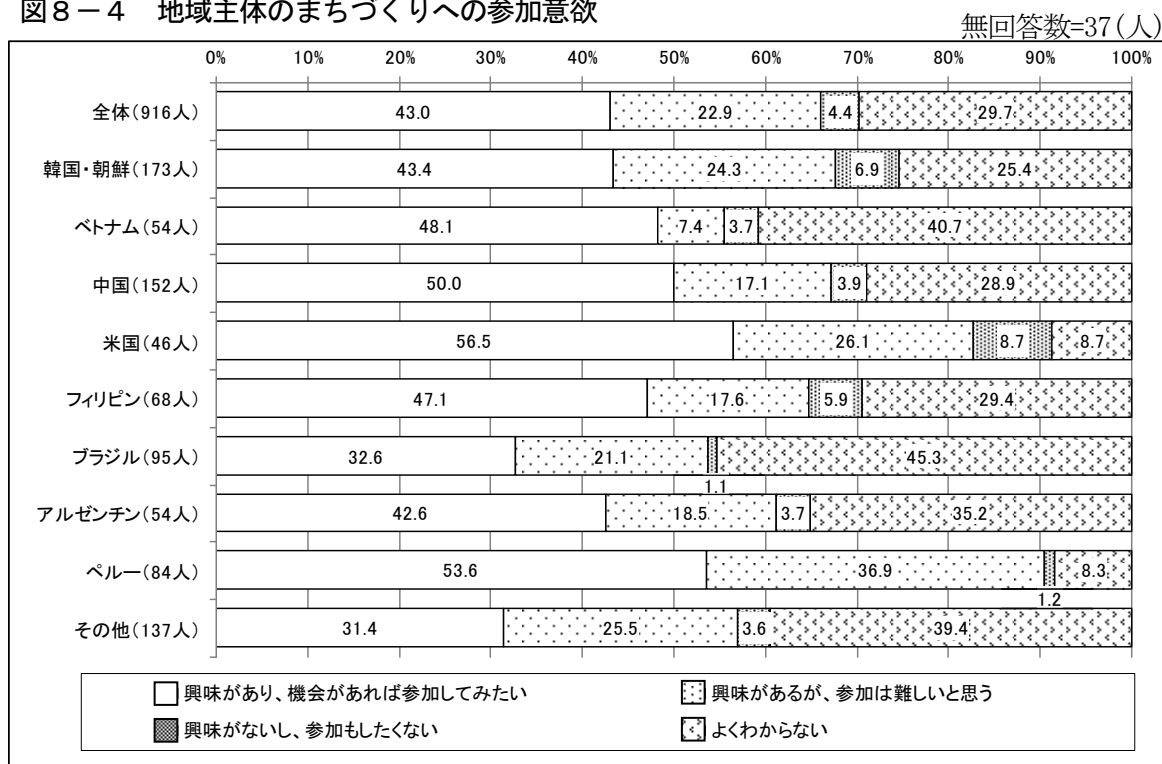
韓国・朝鮮では、「市民どうしの交流イベント」が比較的多く、米国では、「福祉・環境などのボランティア」、「通訳・翻訳などのボランティア」が比較的多くなっている。

なお、当設問に対する無回答数が比較的多く見られるが、参加活動に対する関心や質問項目に対する興味あまり高くないことが推測される。

### 8-3 地域主体のまちづくりへの参加意欲

Q25 藤沢市では、市民と地域が中心になって、自分たちでまちづくりを進める取り組みがされていますが、そのことについてどのように感じますか。(〇は1つだけ)

■ 図8-4 地域主体のまちづくりへの参加意欲



#### <結果概要>

地域主体のまちづくりへの参加意欲は、「興味があり、機会があれば参加してみたい」が43.0%と最も多くなっている。次いで、「よくわからない」の29.7%、「興味があるが、参加は難しいと思う」の22.9%、「興味がないし、参加もしたくない」の4.4%となっている。「興味があるが、参加は難しいと思う」の理由として、仕事や言葉の問題、子育て等が挙げられている。

国籍別に地域主体のまちづくりへの参加意欲を見ると、米国、ペルー、中国、ベトナム、フィリピンでは「興味があり、機会があれば参加してみたい」、ブラジルでは「よくわからない」が最も多くなっている。なお、ペルーでは「興味があるが、参加は難しいと思う」が比較的多くなっている。

## 8-4 地域活動についてのまとめ 【結果の整理と方向性】

### ＜自治会や地域の活動への参加状況＞

- 自治会や地域の活動への参加状況は、「よく参加している」が9.8%で、「ときどき参加している」が21.7%、合計すると約3割であり、参加状況は余り高いとはいえない状況である。

しかしながら、『Q35 市に住む予定』では、「今後とも藤沢市に住み続けるつもり」がほぼ7割であることや、『Q1 現在の生活環境の満足度』では、「自治会など、近所の人とおつきあい」に対する満足度は必ずしも高くないことから、長期的な地域活動への参加促進を行う必要があるといえる。

日本人においても地域コミュニティ力の衰退が指摘される中、普段から参加している外国人市民による呼びかけなどを通じ、自治会や地域の活動への参加のきっかけづくりを広めていくことが必要であると考えられる。

### ＜講座や活動への参加意欲＞

- 講座や活動への参加意欲は、「日本語教室」が20.8%と最も多く、「日本文化や伝統・習慣を学ぶこと」が続いている。その他は、大きな差異がみられないことから、日本語と日本文化の学習機会を基本に、ニーズを踏まえた多様な機会を提供していくことが求められているといえる。

特に、中国、韓国・朝鮮では「日本文化や伝統・習慣を学ぶこと」、ベトナム、フィリピンなどでは「日本語教室」を希望する意見が多くみられるのが特徴的である。実際に、市民センター・公民館では、日本語講座や異文化理解講座などが行われる機会もあり、『Q2 よく利用する公共施設』では、「市民センター・公民館」の利用度が他の公共施設に比べて高いことから、今後も身近な施設としての有効活用が考えられる。

- 一方、「藤沢市の行政に関すること」という回答は4.3%と少ないが、日本語の問題を抱えていること、行政が身近な関心事ではないことなどが考えられるとともに、「藤沢市の行政」という言葉が漠然としているため、具体的な活動内容がイメージできないことも推測される。『Q25 地域主体のまちづくりへの参加意欲』は高いことから、言葉としてわかりやすく、具体的にイメージしやすい表現や外国人市民が興味を持てるテーマ設定を行うなどの工夫が必要である。

### ＜地域主体のまちづくりへの参加意欲＞

- 地域主体のまちづくりへの参加意欲は、「興味があり、機会があれば参加してみたい」が43.0%と最も多く、「興味があるが、参加は難しいと思う」の22.9%と合わせると65.9%と、3分の2近くに達する。また、『Q24 講座や活動への参加意欲』においては、ボランティア活動に対する関心度も見受けられたところである。まずは、こうした意欲のある人たちが何らかの形で参加できる機会や場を提供していくことが重要であると考えられる。

### ＜共に生き、共に創る地域社会の創出に向けて＞

- 地域活動については、ネットワークづくりの基盤となるものであるが、ネットワークは必要に応じてつくられる一方で、つくる取り組みを積極的に進めることの重要性も指摘されている。家族・友人・同国出身者によるネットワーク化を支援することなども大切であるが、多文化共生の視点から考えると、「外国人」「日本人」が同じ地域に暮らす者として、共にネットワークづくりを進めていく姿勢、NPOや大学等と連携し、「地域のキーパーソン」を中心とした複層的なネットワークの構築も重要である。
- すべてに関することでもあるが、今や行政だけで解決出来る課題や問題は極めて少ない。そのため、NGOやNPO、各種ボランティア団体や企業、大学等の多様な主体との連携が必要になる場面が少なくない。加えて、地域活動の基盤となるネットワークづくりにおいては、地域に根ざした活動が重要になってくる。こうした活動は必ずしも結果がすぐに表れるものではないが、必要に応じた適正な評価を通じ、地道に取り組むことが重要であると考えられる。



## 第3章 自由回答

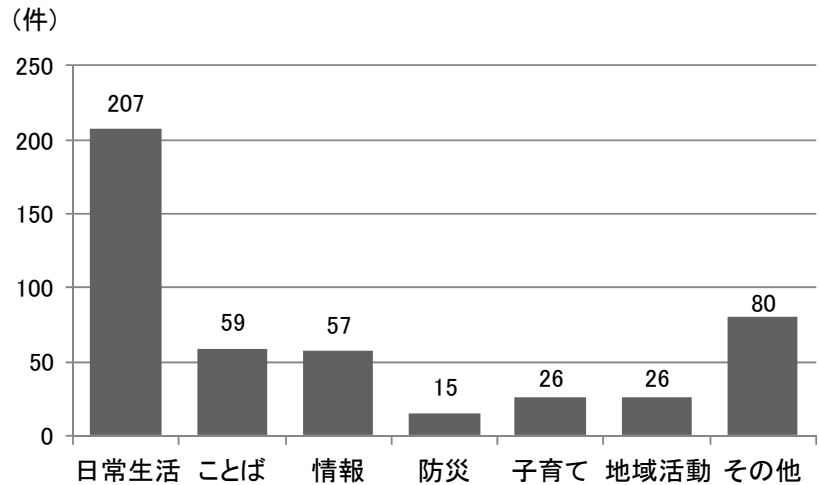


### 第3章 自由回答

#### 1. 自由回答の概要

藤沢市についての意見・要望を274人、延べ461件の回答が寄せられた。寄せられた意見を調査票をもとに、7分野（日常生活、ことば、情報、防災、子育て、地域活動、その他）別に整理すると以下のようになる。

分野	件数
日常生活	211
ことば	55
情報	53
防災	12
子育て	26
地域活動	26
その他	78
合計	461



#### 各分野の主な意見・要望

分野	主な意見・要望
日常生活	藤沢市はとても美しいまちで、とても気に入っている/藤沢市は、電車の交通の便が良く、スーパーやデパートを利用するのに便利である/燃えないゴミとリサイクルゴミの回収をもっと増やしてほしい/「ゴミ袋」が高い/スポーツ施設の使用法をもっと簡単にしたい/外国人への雇用機会を増やしてほしい/住民税を観光振興ではなく市民福祉のために使ってほしい/税金やアパートの家賃が高い/税金を安くしてほしい/アパートに住めるように支援してほしい/国民健康保険料の減免制度について具体的な説明が必要である/暴走族の騒音問題を解決してほしい/泥棒が多すぎるので治安維持に力を入れることなど賢明な政策を立てて行くべきである/外国人登録済証明書を市民センターでも取れるようにしてほしい/地方公共団体は、日本に居住している外国人に関心を持ってほしい/駅周辺の開発状況が残念である 等
ことば	日本語や習慣を学べる機会がたくさんあると嬉しい/外国人相談室の翻訳の人が他の曜日にも来て欲しい（待っている人がとても多い）/外国人相談窓口や納税相談窓口などで対応語種が少ない/市役所や保健所など公共の部門に、通訳がいればさらによい/できれば公立病院に通訳を置いてほしい/通訳を伴った弁護士に無料で相談できる場所がほしい/「広報ふじさわ」などを自分で読みたい、この調査票のように自分で読める（ふりがながふってある）とよい/中国の簡体漢字はわかりにくいので、繁体字、もしくは日本の漢字で表記してほしい（駅のホーム等も）/外国語で書いたビラやお知らせなどを郵送してほしい 等

分野	主な意見・要望
情報	ボランティア活動（翻訳・文化交流）の情報が得られにくい/重要あるいは緊急の情報があつた時、ホームページに、英語で広報が掲載されていると良い/市報などの毎月発行物や、仕事、学校、公共施設、社会保険に関する情報の英語版がほしい/国外へ一時的に出る場合の手続きや健康保険、年金、助成金など詳しい情報がほしい/政府や市役所、公共機関の提供する支援について、全ての情報をもっと詳しく、できれば多言語で提供してほしい/藤沢市には韓国語のパンフレットがたくさんあり助かるが、どこにあるのかわからず不便に感じている/外国人の就業に対して、たくさんの情報がほしい等
防災	津波があつた場合、どの方角に避難すればよいのかを知りたい/市民のための避難所と食料を充実させ避難訓練の内容と質を向上させてほしい/将来起こるといわれている大地震による被害、津波が心配なので、大規模な避難訓練をしてもらいたい/長久保公園が広域避難場所として指定されているが、夕方5時になると裏門が閉まってしまう、広域避難場所の意味がないので、住宅街に面している裏門を何とか開けてもらいたい等
子育て	小学校のように中学校でも給食があると嬉しい/保育園にもっと多くの子どもが入園できるとよい/親が働けるように保育園を増やしてほしい/「青空教室」として、もっと子ども達への授業を屋外で行ってほしい/保育園に不審者が入れないように、ゲートにキーをつけるなど、防犯対策をもっと厳しくしてほしい/障がい者をもつ子供の将来が心配/子供に日本で勉強させたいので支援をお願いしたい等
地域活動	他国の文化についてさらに学ぶことができればよい/外国人向けのイベントを市がもっと提供してくれると良い/国際交流イベントを定期的に行つて多文化共生が普通になって欲しい/消防団に外国人も参加できるようにしてほしい/外国人同士が頻繁に顔を合わせられるように、多くのイベントやプログラムを開催してほしい/参加したいので、藤沢市の活動を知らせてほしい/ボランティアグループによる日本語クラスがほしい等
その他	藤沢市が外国人のためにしてくれていることに感謝している/外国人が地方選挙の投票権を持たなければ、多文化社会づくりへの完全な参加は不可能/選挙権が欲しい/日本人のこと外国人のこと両方を考えていただきたい/藤沢市の急速な都市化が気になる/夜間に騒音を生じている厚木基地の問題解決を望む/政府にはもっと外国人の生活や仕事に関心を示し、尋ねてほしい/もっと在日の人が日本の政治にも係る事が出来れば良い/在日二世だが、まだまだ根底には差別はあると痛感している/帰化の制度をもっと少し簡略化してほしい/帰化の方法がわかりづらく、どこで手続きをすればいいのかもわからない/初めて市営住宅に入居したが、安い家賃で3軒に1台の高級車を所持しているのはおかしい/日本（藤沢）に生まれて日本（藤沢）で育っているのでこの質問はとて違和感がある等

が い こ く じ ん し み ん い し き ち ょ う さ  
外 国 人 市 民 意 識 調 査

ふじさわし おこな せいさく よ とりく きょうりよく  
いつも藤沢市が行っている政策（より良いまちにするための取組みのこと）にご協力いた  
だき、ありがとうございます。

ふじさわし がいこくじんしみん にほんじんしみん たが そんちよう きょうりよく せいかつ  
藤沢市では、外国人市民と日本人市民がお互いを尊重し、協力しあって生活することが  
おこな  
できるような「まちづくり」を行っています。

よ がいこくじん みな こま かんが おし  
そこで、より良いまちとするために、外国人の皆さんが困っていることや考えなどを教えて  
ふじさわし とりく い がいこくじんしみんいしきしょうさ おこな  
いただき、藤沢市の取組みに活かすための「外国人市民意識調査」を行うことになりました。

てがみ ちょうさひょう ふじさわし す がいこくじん かたがた ねん がつ にちげんざい がいこくじんとろく  
この手紙（調査票）は、藤沢市に住んでいる外国人の方々 [2011年5月1日現在、外国人登録  
まん さいいじょう かたぜんいん おく  
のある満18歳以上の方全員] にお送りしています。

しつもんこうもく こくせき ざいりゅうしかく おな  
なお、質問項目は、国籍や在留資格などにかかわらず、同じものになっています。

いそが てすう きょうりよく ねが  
お忙しいところ、お手数をおかけしますが、どうぞご協力をお願いします。

ねん がつ  
2011年 6月

ふじさわし  
藤沢市

といあわ にほんご  
《問合せ（日本語のみ）》

ふじさわし やくしょ けいえい きかくぶ きょうせいしゃかいすいしん か  
藤沢市役所 経営企画部 共生社会推進課

でんわ  
電話 0466-50-3501 / FAX 0466-24-5928

うけつけじかん げつようび きんようび しゆくじつ のぞ  
受付時間：月曜日～金曜日（祝日を除く）

じ ぶん じ じ じ  
8時30分～12時 / 13時～17時

ちょうさひょう がいこくじんとろくげんびょう なまえ じゅうしょ じょうほう え おく  
※ この調査票は、外国人登録原票からあなたの名前と住所情報を得て、お送りしています ※

こた ねが  
答えてもらうときのお願い

1. この調査は、外国人登録や出入国管理（外国人として登録してもらうことや、外国と日本との間を出たり入ったりするときに役所が行う仕事のことです。）とは関係ありません。
2. 答えを誰からもらったのかは、絶対にわからないようになっています。
3. 手紙（この紙の入っていた封筒）に書かれている名前の人が、答えてください。
4. 答えは、番号に○をつけてください。
5. つける○の数が、問題によって違うことがありますので、注意してください。
6. 「その他」に○をつけた場合は、（ ）に、具体的に記入してください。
7. 回答が終わったら、**7月13日（水）まで**に、この手紙に入っている「白い封筒」に入れて、郵便ポストに入れてください（切手は貼らないでください。名前や住所は書かないでください）。

にち じょう せい かつ  
**日 常 生 活 に つ い て**

げんざい せいかつかんきょう まんぞく  
**Q1 あなたは、現在の生活環境について、どれくらい満足していますか。（○は1つずつ）**

	まんぞく 満足	だいたい まんぞく 満足	ふつう 普通	すこ 少し ふまん 不満	ふまん 不満
a. 自然（海・川・緑）の豊かさやまちなみ・ 風景の美しさ	5	4	3	2	1
b. 歴史や観光、将来性など、都市の個性や魅力	5	4	3	2	1
c. 町の治安のよさ	5	4	3	2	1
d. 公共施設（市役所、市民センターや文化・ スポーツ施設など）の使いやすさ	5	4	3	2	1
e. 行政窓口での手続き・サービス	5	4	3	2	1
f. 自治会など、近所の人とのおつきあい	5	4	3	2	1
g. ごみの出し方・分け方の分かりやすさなど 日常生活の暮らしやすさ	5	4	3	2	1
h. 総合的な住みやすさ	5	4	3	2	1

**Q2 あなたは、次の公共施設を利用したことがありますか。(〇は1つずつ)**

	よく 利用する	ときどき 利用する	あまり 利用しない	利用した ことがない	どこにある か知らない
a. 市民センター・公民館	5	4	3	2	1
b. 市民図書館・市民図書室	5	4	3	2	1
c. スポーツ施設 (秩父宮記念体育館・鶴沼運動公園・ 秋葉台文化体育館)	5	4	3	2	1

**Q3 あなたは、次の制度について知っていますか。(〇は1つずつ)**

	どういう制度か 知っている	制度の内容まで は知らない	知らない
a. 健康保険 (病気やけがに備えて普段から保険料を払い、必要な時に医療費の一部に充てる制度)	1	2	3
b. 雇用保険 (失業した人などに、生活の安定と就職を助けるため、お金をもらえる制度)	1	2	3
c. 介護保険 (40歳以上の人が保険料を払い、必要な時に介護サービスを受けられる制度)	1	2	3
d. 年金 (20歳以上60歳未満の人が加入し、高齢期の基本的な生活を保障する制度)	1	2	3

**Q4 あなたは、藤沢市の税金及びその支払いについて、どのように感じていますか。(〇は1つだけ)**

- 内容・手続きが難しく、わかりづらい
- 税金の支払いに関するお知らせ「納税通知書」がわかりづらい
- 税金の支払いに関するお知らせ「納税通知書」が届いても、きちんと読んでいない、または、届いたかどうか知らない

- 外国人相談窓口や納税相談窓口(英語・スペイン語・ポルトガル語)を利用しているので、特に問題はない
- その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

**Q5 あなたが、普段の生活で困っていることや不安なことは何ですか。(〇はいくつでも)**

- |  |  |
|--|--|
| <p>1 仕事<small>しごと</small>さがし</p> <p>2 会社<small>かいしゃ</small>での仕事<small>しごと</small>や人間<small>にんげん</small>関係<small>かんけい</small></p> <p>3 住まい<small>すま</small>いのこと</p> <p>4 交通<small>こうつう</small> (バス<small>ばす</small>・電車<small>でんしゃ</small>など) が不便<small>ふべん</small></p> <p>5 出産<small>しゅつさん</small>・子育て<small>こそだ</small></p> <p>6 子どもの学校<small>がっこう</small>・教育<small>きょういく</small></p> <p>7 税金<small>ぜいきん</small>や保険料<small>ほけんりょう</small>の支払い<small>しはら</small></p> <p>8 急<small>きゅう</small>に病気<small>びょうき</small>になった時<small>とき</small>の対応<small>たいおう</small></p> | <p>9 災害<small>さいがい</small> (地震<small>じしん</small>など) が起きた時<small>とき</small>の対応<small>たいおう</small></p> <p>10 近所<small>きんじよ</small>の人<small>ひと</small>との付き合い<small>つきあ</small>い</p> <p>11 日本語<small>にほんご</small></p> <p>12 どこに相談<small>そうだん</small>に行けばよいかわからない、<br/>または、知らないこと<small>し</small></p> <p>13 その他<small>た</small> (具体的に:<small>ぐたいてき</small> _____)</p> <p>14 特<small>とく</small>にない</p> |
|--|--|

**Q6 あなたは、普段の生活で困った時、誰に相談しますか。(〇はいくつでも)**

- |   |   |
|---|---|
| <p>1 日本<small>にほん</small>に住<small>す</small>んでいる家族<small>かぞく</small>・親戚<small>しんせき</small></p> <p>2 母国<small>ぼこく</small>に住<small>す</small>んでいる家族<small>かぞく</small>・親戚<small>しんせき</small></p> <p>3 日本人<small>にほんじん</small>の友人<small>ゆうじん</small>・知人<small>ちじん</small></p> <p>4 日本人以外<small>にほんじんいがい</small>の友人<small>ゆうじん</small>・知人<small>ちじん</small></p> <p>5 会社<small>かいしゃ</small>や学校<small>がっこう</small>の仲間<small>なかま</small></p> <p>6 外国人<small>がいこくじん</small>相談室<small>そうだんしつ</small> (市役所<small>しやくしょ</small>・湘南台市民センター<small>しょうなんだいしみんせんたー</small>)</p> | <p>7 教会<small>きょうかい</small>・お寺<small>てら</small>など</p> <p>8 NPO・ボランティア団体<small>ぼらんていあだんたい</small>など</p> <p>9 大使館<small>たいしかん</small>・領事館<small>りょうじかん</small></p> <p>10 その他<small>た</small> (具体的に:<small>ぐたいてき</small> _____)</p> <p>11 相談<small>そうだん</small>できる人<small>ひと</small>がいない</p> |
|---|---|

**ことばについて**

**Q7 あなたが、普段の生活で、よく使うことばはどれですか。(〇はいくつでも)**

- |   |  |
|---|--|
| <p>1 日本語<small>にほんご</small></p> <p>2 スペイン語<small>すぺいんご</small></p> <p>3 ポルトガル語<small>ぼるとがるご</small></p> <p>4 英語<small>えいご</small></p> | <p>5 中国語<small>ちゅうごくご</small></p> <p>6 ハングル<small>はんぐる</small></p> <p>7 ベトナム語<small>べとなむご</small></p> <p>8 その他<small>た</small> (具体的に:<small>ぐたいてき</small> _____)</p> |
|---|--|



Q8 あなたは、どのくらい日本語ができますか。a.~d.のそれぞれについて、一番近いと思うものはどれですか。(○は1つずつ)

a. 話すこと

- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| 1 自分の考えをまとめて発表することができる | 4 あいさつや簡単な自己紹介ならできる |
| 2 仕事をするのに困らない程度できる     | 5 ほとんど話せない          |
| 3 簡単な日常会話ならできる         |                     |

b. 聴くこと

- |                     |              |
|---------------------|--------------|
| 1 テレビのニュースやドラマがわかる  | 4 単語だけ聞き取れる  |
| 2 日常会話ならわかる         | 5 ほとんど聞き取れない |
| 3 相手がゆっくり話してくれるとわかる |              |

c. 書くこと

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 漢字を使ってまとめた文章が書ける     | 3 簡単な漢字は書ける     |
| 2 住所などの生活に必要なことは漢字で書ける | 4 ひらがな・カタカナは書ける |
|                        | 5 ほとんど書けない      |

d. 読むこと

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 新聞や雑誌が読める            | 4 ひらがな・カタカナは読める |
| 2 漢字がまざった簡単な文章が読める     | 5 ほとんど読めない      |
| 3 単語(店で売っているものや広告)が読める |                 |

Q9 あなたは、誰に日本語の通訳・翻訳を頼むことがありますか。(○はいくつでも)

- |                |                    |
|----------------|--------------------|
| 1 家族           | 5 その他(具体的に: _____) |
| 2 友人           | 6 通訳・翻訳を頼める人がいない   |
| 3 会社の人         | 7 通訳・翻訳を頼む必要がない    |
| 4 NPOやボランティア団体 |                    |

Q10 あなたは、どんな時に、日本語の通訳・翻訳を頼みますか。また、頼める人がいない人は、どんな時に、通訳・翻訳を頼みたいと思いますか。(○はいくつでも)

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1 病院へ行くとき        | 5 手紙やお知らせが届いたとき    |
| 2 市役所などの手続きをするとき | 6 買い物をするとき         |
| 3 学校の手続きや面談のとき   | 7 その他(具体的に: _____) |
| 4 仕事の手続きをするとき    | 8 特にない             |



ぼう さい 防 災 な ど に つ い て

Q14 ふじさわし まいとし ちいき ぼうさいくんれん おこな ぼうさいくんれん さんか  
 藤沢市では、毎年、地域ごとに防災訓練を行っています。あなたは、防災訓練に参加  
 したことがありますか。(〇は1つだけ)

- |  |  |
|--|--|
| <p>1 何度か参加している<br/>                 2 一度、参加したことがある<br/>                 3 参加したことはないが、参加してみたい</p> | <p>4 参加したことはないし、参加する必要がない<br/>                 (理由: _____)<br/>                 5 防災訓練があることを知らない</p> |
|--|--|

Q15 さいがい お とき ひなん つぎ ばしょ し  
 あなたは、災害が起きた時に避難する、次の場所を知っていますか。(〇は1つずつ)

	知っているし、 場所もわかる	知っているが、 場所がわからない	知らない
a. 広域避難場所 (地震で大火災が起きた時、避難する場所)	1	2	3
b. 避難施設 (家が倒れたりして使えなくなった時、避難する場所)	1	2	3
c. 外国人避難施設 (避難施設の中で、通訳ボランティアの派遣が行われる場所)	1	2	3
d. 津波一時避難場所 (津波災害から一時的に身を守るために避難する場所)	1	2	3

Q16 ひ さいがい じしん そな  
 あなたは、日ごろから、災害(地震など)への備えをしていますか。(〇はいくつでも)

- 1 携帯ラジオ・懐中電灯などを準備している
- 2 非常食品や飲料水を準備している
- 3 家具を固定し、倒れないようにしている
- 4 通帳などの貴重品をすぐに持ち出せるように準備している
- 5 日用品(救急セット・薬・着替えなど)をすぐに持ち出せるように準備している
- 6 災害が起きた時、避難する場所を決めている
- 7 緊急の時や災害が起きた時、家族との連絡方法・集まる場所を決めている
- 8 その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
- 9 災害の備えについて知っているが、特に何もしていない
- 10 何をすればいいか、わからない

Q17 あなたは、緊急の時に連絡するための次の電話番号を知っていますか。(○は1つずつ)

	知っている	知らない
a. 警察 (110番：事件や事故などが起きた時にかける番号)	1	2
b. 消防 (119番：火事が起きた時や、救急車を呼ぶ時にかける番号)	1	2

## 子育てについて

Q18 あなたには、0～14歳のお子さんがいますか。(○は1つずつ)

a. 0～5歳のお子さん

- 1 いる (保育園か幼稚園に通っている)
- 2 いる (保育園や幼稚園には通っていない)
- 3 いない

b. 6～14歳のお子さん

- 1 いる (日本の小学校・中学校に通っている)
- 2 いる (外国人学校などに通っている)
- 3 いる (学校には通っていない)
- 4 いない

Q19 0～5歳のお子さんがいる方にお聞きします。

あなたは、普段(日中)、お子さんと一緒にいる場所はどこですか。(○はいくつでも)

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| 1 子育て支援センター (藤沢・湘南台・辻堂) | 4 家の近くの公園          |
| 2 つどいの広場 (鶴沼・善行・藤が岡・中里) | 5 友人の家             |
| 3 市民センター・公民館            | 6 自宅               |
|                         | 7 その他 (具体的に：_____) |

Q20 6～14歳のお子さんがある方にお聞きします。

あなたのお子さんは、どのぐらい日本語ができますか。(○は1つだけ)

- |                                   |                     |
|-----------------------------------|---------------------|
| 1 日本語での授業を十分理解できる                 | 3 日常生活で、ときどき困ることがある |
| 2 日本語での授業を受けるのは難しいが、日常生活ではあまり困らない | 4 ほとんどできない          |
|                                   | 5 どのぐらいできるかわからない    |

Q21 6～14歳のお子さんがある方にお聞きします。

中学校卒業後の進路について、どのように考えていますか。(○は1つだけ)

- |                              |                        |
|------------------------------|------------------------|
| 1 日本語に不安がなく、日本の高校に行かせたい      | 4 母国に帰国させて、母国の学校に行かせたい |
| 2 日本語での授業に不安があるが、日本の高校に行かせたい | 5 進学は考えていない            |
| 3 外国人学校などに行かせたい              | 6 まだ分からない              |
|                              | 7 その他(具体的に: _____)     |

Q22 0～14歳のお子さんがある方にお聞きします。

あなたは、子育てについて、どんな支援があればいいと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 子育てや子どもの教育について相談する場所
- 2 保育園・学校などについて知るためのサポート
- 3 保育園・学校などでの子どもの様子を知るためのサポート
- 4 保育園・学校などからのお知らせや書類を理解するためのサポート
- 5 子どもへの日本語についての学習サポート
- 6 子どもへの日本語による学校の授業の内容についてのサポート
- 7 子どもへの母語による学習サポート
- 8 その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
- 9 特に支援はいらない

ち いき かつ どう につ い て  
地 域 活 動 に つ い て

Q23 あなたは、自治会や地域の活動（町のそうじ・お祭りなど）に参加していますか。（○は1つだけ）

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1 よく参加している   | 4 参加したことがない    |
| 2 ときどき参加している | 5 活動があることを知らない |
| 3 あまり参加していない |                |

Q24 あなたが次のうち参加してみたいと思うのはどれですか。（○はいくつでも）

- |                                 |                           |
|---------------------------------|---------------------------|
| 1 日本文化や伝統・習慣を学ぶこと               | 7 外国人市民を支援する活動            |
| 2 日本語教室                         | 8 市民どうしの交流イベント            |
| 3 藤沢市の行政に関すること                  | 9 藤沢市内の名所めぐり（母語による市内観光など） |
| 4 通訳・翻訳などのボランティア                | 10 その他（具体的に：_____）        |
| 5 福祉・環境などのボランティア                |                           |
| 6 自分が講師となり、母国の文化、語学、料理などを紹介すること |                           |

Q25 藤沢市では、市民と地域が中心になって、自分たちでまちづくりを進める取り組みがされていますが、そのことについてどのように感じますか。（○は1つだけ）

- 興味があり、機会があれば参加してみたい
- 興味があるが、参加は難しいと思う（理由：\_\_\_\_\_）
- 興味がないし、参加もしたくない（理由：\_\_\_\_\_）
- よくわからない

あ な た 自 身 に つ い て

Q26 あなたの性別は、次のどちらですか。（○は1つだけ）

- |     |     |
|-----|-----|
| 1 男 | 2 女 |
|-----|-----|

**Q27 あなたの年齢は、次のどれですか。(○は1つだけ)**

- |          |          |
|----------|----------|
| 1 18・19歳 | 5 50～59歳 |
| 2 20～29歳 | 6 60～69歳 |
| 3 30～39歳 | 7 70～79歳 |
| 4 40～49歳 | 8 80歳以上  |

**Q28 あなたの国籍を書いてください。**

( )

**Q29 あなたの在留資格はどれですか。(○は1つだけ)**

- |             |                    |
|-------------|--------------------|
| 1 永住者       | 5 留学・就学            |
| 2 特別永住者     | 6 研修               |
| 3 日本人の配偶者など | 7 特定活動             |
| 4 定住者       | 8 その他(具体的に: _____) |

**Q30 あなたの仕事は、次のどれですか。(○は1つだけ)**

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| 1 自営業             | 6 学生                |
| 2 会社などの正社員(フルタイム) | 7 専業主婦・専業主夫         |
| 3 契約社員・派遣社員など     | 8 求職中(失業中)          |
| 4 パートタイマー・アルバイト   | 9 無職(定年後を含む)        |
| 5 研修生・技能実習生       | 10 その他(具体的に: _____) |

**Q31 あなたは、日本にいつごろから住んでいますか。(○は1つだけ)**

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1 1945年より前   | 6 1980～1989年 |
| 2 1945～1949年 | 7 1990～1999年 |
| 3 1950～1959年 | 8 2000～2009年 |
| 4 1960～1969年 | 9 2010年から後   |
| 5 1970～1979年 |              |

**Q32** あなたは、<sup>ふじさわし</sup>藤沢市にいつごろから<sup>す</sup>住んでいますか。(〇は1つだけ)

- |  |  |
|--|--|
| 1 1945年 <sup>ねん</sup> より <sup>まえ</sup> 前 | 6 1980～1989年 <sup>ねん</sup>               |
| 2 1945～1949年 <sup>ねん</sup>               | 7 1990～1999年 <sup>ねん</sup>               |
| 3 1950～1959年 <sup>ねん</sup>               | 8 2000～2009年 <sup>ねん</sup>               |
| 4 1960～1969年 <sup>ねん</sup>               | 9 2010年 <sup>ねん</sup> から <sup>あと</sup> 後 |
| 5 1970～1979年 <sup>ねん</sup>               |  |

**Q33** 現在<sup>げんざい</sup>お住まいの<sup>す</sup>住宅は、<sup>じゅうたく</sup>次の<sup>つぎ</sup>どれですか。(〇は1つだけ)

- |  |  |
|--|--|
| 1 持ち家 <sup>も</sup> (分譲 <sup>いえ</sup> マンション <sup>ぶんじょうまんしょん</sup> を含む <sup>ふく</sup> )   | 4 社宅 <sup>しゃたく</sup> ・社員寮 <sup>しゃいんりょう</sup>       |
| 2 借家 <sup>しゃくや</sup> (民間 <sup>みんかん</sup> アパート <sup>あぱーと</sup> ・民間 <sup>みんかん</sup> 賃貸 <sup>ちんたい</sup> マンション <sup>まんしょん</sup> )              | 5 学生寮 <sup>がくせいりょう</sup>                           |
| 3 公営住宅 <sup>こうえいじゅうたく</sup> (県営 <sup>けんえい</sup> ・市営 <sup>しえい</sup> ・公団 <sup>こうだん</sup> などの公営 <sup>こうえい</sup> の共同住宅 <sup>きょうどうじゅうたく</sup> ) | 6 その他 <sup>た</sup> (具体的に <sup>ぐたいてき</sup> : _____) |

**Q34** あなたが、<sup>ふじさわし</sup>藤沢市に住む理由<sup>す</sup>は何<sup>りゆうなん</sup>ですか。(〇はいくつでも)

- |   |  |
|---|--|
| 1 学校 <sup>がっこう</sup> や勤務先 <sup>きんむさき</sup> がある                        | 4 日本人 <sup>にほんじん</sup> の知人 <sup>ちじん</sup> が住んでいる   |
| 2 配偶者 <sup>はいぐうしゃ</sup> や家族 <sup>かぞく</sup> ・親戚 <sup>しんせき</sup> が住んでいる | 5 その他 <sup>た</sup> (具体的に <sup>ぐたいてき</sup> : _____) |
| 3 同じ国 <sup>おなくに</sup> の知人 <sup>ちじん</sup> が住んでいる                       |  |

**Q35** 今後<sup>こんご</sup>、藤沢市<sup>ふじさわし</sup>にどのくらいお住まいになる<sup>す</sup>予定<sup>よてい</sup>ですか。(〇は1つだけ)

- |   |                                  |
|---|----------------------------------|
| 1 今後 <sup>こんご</sup> とも藤沢市 <sup>ふじさわし</sup> に住み続ける <sup>す</sup> つもり <sup>つづ</sup>                      | 3 わからない、または未定 <sup>みてい</sup> である |
| 2 日本 <sup>にほん</sup> には住み続ける <sup>す</sup> が、他市 <sup>つづ</sup> に転出 <sup>たし</sup> する <sup>てんしゅつ</sup> つもり |                                  |

**Q36** 現在<sup>げんざい</sup>、あなたが住んでいる<sup>す</sup>所<sup>ところ</sup>の郵便番号<sup>ゆうびんばんごう</sup>を書いてください。<sup>か</sup>

〒    -



いじょう しつもん お  
以上で、質問は、終わりです。

さいご ふじさわし いけん ようぼう じゆう か  
最後に、藤沢市について、ご意見・ご要望があれば、ご自由にお書きください。


きょうりよく  
ご協力、ありがとうございました

かいとう お	がつ にち すい	てがみ はい	しろ
回答が終わったら、	<b>7月13日（水）まで</b>	に、この手紙に入っている「白い	
ふうとう	ゆうびんぼすと	きって は	なまえ
封筒」に入れて、郵便ポストに入れてください（切手は貼らないでください。名前や			
じゅうしょ か			
住所は書かないでください。			